報告事項No.６　資料

令和6年度　川崎市学習状況調査　報告

目 次

第1章　川崎市学習状況調査の概要‥3
Ⅰ　調査の概要‥3
1　調査の目的‥3　　2　調査の内容‥3　　3　調査の特色‥4
Ⅱ　育成を目指す資質･能力‥8
1　かわさき教育プランから‥8　　2　育成を目指す資質･能力‥8

第2章　カリキュラムセンター、分析委員会による分析‥10
Ⅰ　小学校の全市結果と分析、手立て‥10
1　各教科の結果概要‥10　　2　小学校国語‥12　　3　小学校算数‥25
4　小学校全般を通して～観点別分析～‥38　　5　他教科等の分析と手立て‥43
Ⅱ　中学校の全市結果と分析、手立て‥53
1　各教科の結果概要‥53　　2　中学校国語‥56　　3　中学校社会‥72　　4　中学校数学‥88
5　中学校理科‥101　　6　中学校英語‥114　　7　中学校全般を通して～観点別分析～‥130
8　他教科等の分析と手立て‥138
Ⅲ　学習意識調査の結果‥146
1　学習の理解度‥146　　2　学習の好感度‥148　　3　学習への意識‥150
Ⅳ　調査結果のまとめと手立て‥153
1　調査結果の成果と課題‥153　　2　今後の手立て‥154
Ⅴ　結果の一覧‥155
Ⅵ　今後の各種事業の取組について‥231
1　研究会･研究部会の各事業‥ 231　　2　教育委員会の各事業‥236

第3章　教育委員会事務局各部署による分析‥239
Ⅰ　政策推進‥239　　Ⅱ　人権･多文化共生教育‥243　　Ⅲ　情報･視聴覚センター‥244

第4章　9月27日担当者説明会とモデル校の取組より‥246
Ⅰ　事前アンケートより‥246　Ⅱ　モデル校の事例‥248　Ⅲ　グループ協議から‥250

第1章　川崎市学習状況調査の概要

Ⅰ　調査の概要

1　調査の目的

○児童生徒、保護者は、学習の取組を振り返り、課題を的確に把握し、学習改善に生かす。

○学校は、学校教育目標等で示した資質・能力の育成に向けて、調査結果を分析し、個に応じた指導や学校（学年）での授業改善、教育課程編成等に生かす。

○校長会、各研究（部）会は、教育委員会と連携して全市的な結果の分析と授業改善の具体的な手立て、個に応じた指導の手立て等を研究し、説明会や各研究（部）会の事業等で教員に伝達する。

○教育委員会は、全市的な児童生徒の学習状況を経年調査することにより、学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

2　調査の内容

○教科調査　　小学校　国語・算数　　中学校　国語・社会・数学・理科・英語

調査の目的に基づき、学習指導要領に定める内容のうち、ペーパーテストで調査を行うことが適当な項目について調査を実施しました（前年度までの学習範囲）。

○学習意識調査

児童生徒の学習や生活に対する意識等について明らかにするために、児童生徒を対象とする調査を実施しました。

○調査の対象及び人数

市内全市立小学校の第4学年　11,903 名、第5学年　11,616 名、第6学年　11,810 名

市内全市立中学校の第1学年　9,419 名、第2学年　9,189 名、第3学年　9,130 名

○調査実施期間　　令和6年4月9日（火）～19日（金）

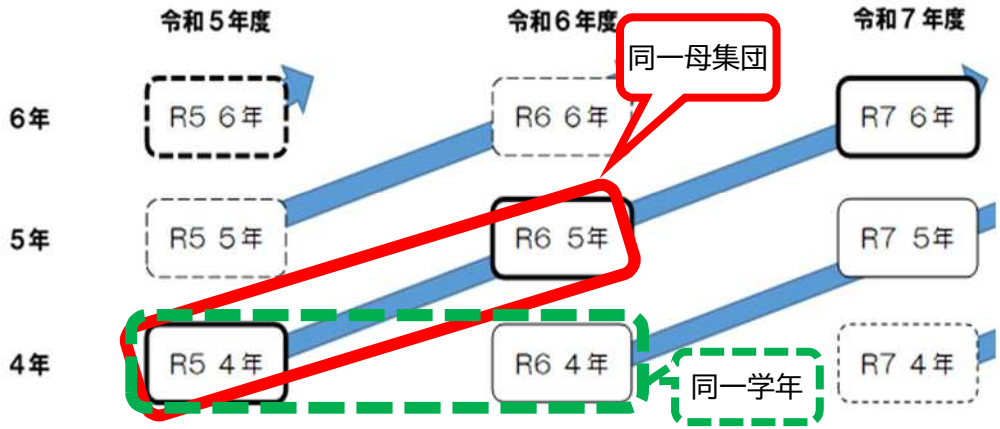
3　調査の特色

○IRT に基づく出題

川崎市学習状況調査では、小４から中３までの６学年に対象を拡充し、児童生徒一人ひとりや学年、学校の実態について経年で比較することが可能となります。これは、IRT（項目反応理論）に基づく調査問題で、毎年同学年で同程度の難易度となる新しい問題を作成するため、参加自治体全体と比較することで児童生徒一人ひとり、学年の過年度と比較しやすくなるからです。

例えば、令和５年度の小４の結果から授業改善や学習改善を図り、次年度に同一母集団である令和６年度の小５の結果を４年次と比較し、これまでの取組を振り返り、成果や課題を明確にして、更なる手立てを考えるなど、児童生徒一人ひとりや学年、学校の実態に応じた指導が行いやすくなります。また、令和５、６年度の小４のように同一学年の比較も可能です。調査結果については、各教科の結果と学習意識調査の結果について、**経年的に学習状況が「見える化」される**ので、学校や学年、児童生徒の実態に応じた手立てが、より行いやすくなります。

経年の取組のイメージ図



毎年異なる問題ではあるが、同一学年の平均正答率が毎年同等となるように設計したもの。例に挙げた小4は、ここ3年間の平均正答率が7割程度

例	R4 参加自治体全体平均正答率	R5 参加自治体全体平均正答率	R6 参加自治体全体平均正答率
小4	70.0	71.6	68.9

〇Webシステム（SYEN）について

Web分析システム「SYEN」からは、多様なデータを読み取ることができます。

示されるデータ例

・調査結果を出題形式や「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点別に集計したデータ

・設問ごとの各正答率のデータ

・各設問において全市の受検者の上位から25％ずつをA～D層の4層に分けたA～D層の正答率　など

川崎市学習状況調査の概要

調査対象	〇小学校第4学年～中学校第3学年
調査教科	〇小学校　国語・算数　学習意識調査　　中学校　国語・社会・数学・理科・英語　学習意識調査
実施時期	〇小中ともに4月始業式翌週の4月9日（火）～19日（金）のうち各学校が設定する。 学校の実態に応じて複数日での実施や学年ごとの実施なども考えられる。
作問・採点	〇業者がIRT（項目反応理論）に基づく問題を作成し採点する。 →問題の難易度などについて事前調査を行い、検証を経て出題する。毎年新しい問題でありながら同学年で同程度の難易度となり、経年で比較・分析が可能になる。
学習意識調査	〇業者が提供する、学習と相関の高い項目と、川崎市独自の項目として、自己肯定感や地域への愛情等の項目
配布資料等	〇児童生徒に個人票、学校に学年票（ともに紙帳票）配布 〇個人の結果とGIGA端末の学習ソフトが連携
学校報告書	〇これまでの学校報告書の取組を受け継ぎつつ、川崎市学習状況調査を中心に作成する。6学年（小学校は4・5・6年、中学校は1・2・3年）の結果を掲載し、それぞれの学年での取組、「（教科が）分かる」の数値を掲載する。併せて、全国学力・学習状況調査の結果（小6・中3）も該当学年で掲載する。

〇GIGA端末との連携

調査結果のデータはGIGA端末内の学習ソフトと連携します。児童生徒一人ひとりの調査結果に応じて、**学習ソフトから児童生徒に適した問題が自動生成され**、学習改善に生かすことができるようになりました。

〇分析方法について

教科に関する調査（教科調査）と学習意識等に関する調査（学習意識調査） 共通

・4層分析について ※令和5年度から導入

教科調査は、川崎市内の受検者を、教科ごとに**調査結果の**高い者から並べ、意識調査は、小学校は2教科、中学校は5教科の合計点で並べ、**上位からおおむね25%ずつをA～D層の4層に分けたもの**です。教科調査の数値はA～D層のそれぞれの平均正答率を示している。意識調査の数値は肯定的な回答割合（「わかる」「まあわかる」等）を示しています。

各層の学習等に関するデータや各層間の差、同一母集団の経年変化などに着目することで、取組の成果や課題を捉えることができます。

・表の見方について

教科調査（4層分析における C-D 層間の差の比較）

【小 2教科平均】【中 5教科平均】年度・学年	川崎市学力層別		
	C層	D層	C-D層の差
令和6年度・小5	57.0	32.5	24.5
令和5年度・小4	68.6	42.3	26.3
令和6年度・小6	54.7	31.7	23.0
令和5年度・小5	63.2	39.4	23.8

C層の数値からD層の数値を引いた値
例 小6の場合 54.7－31.7＝23.0
※背景色が薄い黄の行は令和6年度、
背景色が白の行は令和5年度の調査結果

学習意識調査（4層分析とD層の経年変化の比較）

年度・学年	肯定的な回答割合（平均値）	4層分析の肯定的な回答割合			
		A層	B層	C層	D層
令和6年度・中1	71.7	89.9	77.9	67.8	50.5
令和5年度・小6	83.6	96.4	90.2	81.1	66.9
令和6年度・中2	66.0	90.1	75.4	59.3	39.7
令和5年度・中1	71.1	90.1	78.9	65.8	50.2
令和6年度・中3	65.9	90.5	77.2	59.7	36.9
令和5年度・中2	66.7	90.5	76.8	59.9	40.3

-10.5

令和6年度のD層の数値から令和5年のD層の数値を引いた値
例 中2の場合 39.7－50.2＝－10.5

教科調査

・データの見方

例１ **川崎の平均正答率と調査に参加した自治体全体（以降、全体と表記）の平均正答率を比較し、差を算出する。**

例２ **例1で算出した差を同一母集団で経年比較する。**

これらを通して、**これまでの取組に対する分析を行います。**

例　1（全体との比較）

R6	平均正答率		
	川崎	全体	差
小4	69.3	68.9	＋0.4
小5	62.7	62.0	＋0.7
小6	60.4	60.6	－0.2

小4の川崎と全体の平均正答率を比較すると、全体より本市の方が0.４ポイント上回っています。

…比較すると値が上回っている（上昇している）

…比較すると値が下回っている（低下している）

※P7、8は見方が異なる

例　2（同一母集団の経年比較）

R5	川崎と全体の平均正答率の差
小4	－0.6
小5	＋0.4

R6	川崎と全体の平均正答率の差
小5	＋0.7
小6	＋0.9

令和5年度の小4は、川崎と全体の平均正答率を比較すると全体より本市の方が 0.6 ポイント下回っているが、同一母集団である令和6年度小5は0.7 ポイント上回っています。

教科調査の分析の視点について

・**全体との比較**　・**同一母集団の経年比較**　・**4層分析におけるC-D層間の差の比較**

学習意識調査の分析の視点について

・**4層分析とD層の経年変化の比較**

Ⅱ　育成を目指す資質・能力

1　かわさき教育プランから

本市ではかわさき教育プランの基本政策Ⅱの「施策1」に学習状況に係る目標等が示されています。川崎市学習状況調査の結果を基に、プランで示されている資質・能力の育成に向け、授業改善や各種事業の改善に取り組んでいきます。カリキュラムセンターでは、各教科の分析を基に、複数の教科に関わる資質・能力の視点での授業改善の視点等をお示しします。

〇かわさき教育プラン

基本理念　「夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く」

基本目標　「自主・自立」 変化の激しい社会の中で、誰もが多様な個性、能力を伸ばし、充実した人生を主体的に切り拓いていくことができるよう、将来に向けた社会的自立に必要な能力・態度を培うこと「共生・協働」
個人や社会の多様性を尊重し、それぞれの強みを生かし、ともに支え、高め合える社会をめざし、共生・協働の精神を育むこと

基本政策Ⅱ　学ぶ意欲を育て、「生きる力」を伸ばす

政策目標　子どもたちの学ぶ意欲を高め、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな心身」をバランスよく育み、将来の予測が難しい社会を生き抜くために必要な「生きる力」を確実に身につけることをめざします。

施策1. 確かな学力の育成
「確かな学力」を育成するには、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」をバランスよく育み、主体的に学習に取り組む意欲を養うことが必要となります。

2　育成を目指す資質・能力

教育委員会

資質・能力の3つの柱に基づき、学習状況について次のような点をバランスよく育成することを目指して、川崎市学習状況調査の調査結果を活用してまいります。

学ぶ意欲を育て「生きる力」を伸ばすために、「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力等」をバランスよく育み、主体的に学習に取り組む意欲を養う。

「知識及び技能」

個別の知識および技能を取得するとともに、既有の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で概念等として理解したり、技能を習得したりして、生きて働く知識・技能を習得する。

「思考力，判断力，表現力等」

知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力，判断力，表現力等を身に付ける。

「学びに向かう力，人間性等」

知識及び技能、思考力，判断力，表現力等を身に付けることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとする意欲を高める。

特に、川崎市学習状況調査では、学習状況の観点である「知識・技能」、「思考・判断・表現」に係る調査結果も示されますので、この2つの点を中心に、学習意識調査の結果も踏まえながら分析しました。

第2章　カリキュラムセンター、分析委員会による分析

Ⅰ　小学校の全市結果と分析、手立て

1　各教科の結果概要　国語・算数　※値は平均正答率（%）

○全体との比較（令和6年度の結果）

学年	2教科平均正答率		
	川崎	全体	差
小4	69.3	68.9	+0.4
小5	62.7	62.0	+0.7
小6	61.5	60.6	+0.9

学年	国語			算数		
	川崎	全体	差	川崎	全体	差
小4	67.1	66.5	+0.6	71.5	71.3	+0.2
小5	63.0	62.1	+0.9	62.4	61.8	+0.6
小6	64.9	64.2	+0.7	58.1	56.9	+1.2

小学校の各教科、各学年は、川崎と全体の平均正答率を比較すると、全体より本市の方がすべての項目において0．2～1．2ポイント上回っています。

○同一母集団の経年比較（令和5年度と令和6年度）

小学校　（2教科平均正答率）

R5	川崎と全体の平均正答率の差
小4	−0.6
小5	+0.4

R6	川崎と全体の平均正答率の差
小5	+0.7
小6	+0.9

令和5年度の小4は、川崎と全体の平均正答率を比較すると全体より本市の方が0．6ポイント下回っていますが、令和6年度小5は0．7ポイント上回っています。

令和5年度の小5は、川崎と全体の平均正答率を比較すると全体より本市の方が0．4ポイント上回っていますが、令和6年度小6は0．9ポイント上回っています。

○4層分析における C-D 層間の比較

※「A、B、C、D層」の欄は平均正答率（%）を、「C-D層の差」の欄はC層とD層の差（ポイント）を表しています。

【小 国語】年度・学年	川崎市学力層別 A層	B層	C層	D層	C-D層の差
令和6年度・小4	90.0	76.5	63.2	38.3	24.9
令和6年度・小5	86.4	71.5	57.9	36.4	21.5
令和5年度・小4	93.2	82.3	70.4	44.7	25.7
令和6年度・小6	88.3	73.6	59.5	38.2	21.3
令和5年度・小5	92.2	80.2	66.8	44.5	22.3

【小 算数】年度・学年	川崎市学力層別 A層	B層	C層	D層	C-D層の差
令和6年度・小4	93.3	82.3	69.4	40.9	28.5
令和6年度・小5	90.9	74.1	56.1	28.6	27.5
令和5年度・小4	91.1	79.5	66.7	39.8	26.9
令和6年度・小6	88.7	68.8	49.9	25.1	24.8
令和5年度・小5	89.6	75.0	59.6	34.2	25.4

【2教科平均】年度・学年	川崎市学力層別 A層	B層	C層	D層	C-D層の差
令和6年度・小4	91.7	79.4	66.3	39.6	26.7
令和6年度・小5	88.7	72.8	57.0	32.5	24.5
令和5年度・小4	92.2	80.9	68.6	42.3	26.3
令和6年度・小6	88.5	71.2	54.7	31.7	23.0
令和5年度・小5	90.9	77.6	63.2	39.4	23.8

17.3　16.5　23.0

※ 令和6年度の小6は、A-B 層間が 17.3 ポイント、B-C 層間が 16.5 ポイントで、C-D層間の 23 ポイントが一番大きく開いている

【小学校の調査結果全体について】

川崎と全体の各教科、各学年の平均正答率の差に着目すると、半数以上が全体を上回る結果となりました。また、同一母集団における経年比較では、2教科平均の令和5年度小4は、全体と比較して「0．1下回る」結果でしたが、令和6年度小5は、全体と比較して「0．7上回る」結果となりました。また、令和6年度小6も令和5年度小5と比較すると、上回る結果となり、日々の取組の成果が表れています。

4層分析の各層間の差に着目すると、実施した学年全てで C-D層間が他の層間より大きく開いている（※）ことがわかります。このことは、令和5年度の調査結果も同様の傾向にあり、引き続き、D層に注視していく必要があります。

2 小学校国語

【第4学年】

集計項目	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	AID層の差	パターン判定
教科総合	67.1	90.0	76.5	63.2	38.3	51.7	Ⅲ
知識・技能	77.3	96.1	89.5	77.8	45.5	50.6	Ⅲ
思考・判断・表現	61.1	86.4	68.8	54.6	34.2	52.2	Ⅲ

設問番号			設問内容	基礎応用	出題形式	観点1	観点2	川崎市	川崎市学力層別					
大問	小問					知識・技能	思考・判断・表現		A層	B層	C層	D層	AID層の差	パターン判定
1	1		放送された内容のテーマを選ぶ	基礎	選択式		●	95.8	99.8	99.2	98.3	85.8	14.0	
1	2		山川さんがたくさん持っている石を選ぶ	基礎	選択式		●	82.1	94.7	87.9	79.7	65.7	29.0	
1	3		山川さんが三角の石を大切にしている理由を選ぶ	基礎	選択式		●	87.8	97.0	93.7	88.1	72.3	24.7	
1	4		山川さんの発表に対する質問の意図を選ぶ	応用	選択式		●	80.0	97.8	92.8	81.2	48.2	49.6	
2	1	ア	漢字を読む(クラスの委員になる。)	基礎	短答式	●		79.8	99.2	95.1	84.8	39.9	59.3	Ⅲ
2	1	イ	漢字を読む(勉強を始める。)	基礎	短答式	●		91.9	99.8	98.9	97.7	71.3	28.5	
2	2	ア	漢字の書き(こうえんで遊ぶ。)	基礎	短答式	●		68.5	90.1	80.1	68.0	35.5	54.6	Ⅲ
2	2	イ	漢字の書き(ほそい道。)	基礎	短答式	●		78.7	97.0	90.4	79.6	47.6	49.4	
2	3		文意に沿って正しい指示語を選ぶ	基礎	選択式	●		88.1	99.0	96.5	90.7	66.1	32.9	
2	4		正しいローマ字の表記を選ぶ	基礎	選択式	●		64.0	89.9	77.6	58.5	29.5	60.4	Ⅲ
3	1		詳しく説明している一続きの段落を書く	基礎	短答式		●	32.1	67.0	36.3	18.5	5.7	61.3	Ⅰ
3	2		文章の内容に合う説明を選ぶ	基礎	選択式		●	41.5	78.1	45.1	27.7	14.0	64.1	Ⅰ
3	3		文章の内容をまとめた文の空欄に入る言葉を書く	応用	記述式		●	18.5	48.4	15.9	6.9	1.9	46.5	
4	1		登場人物の言動の理由を選ぶ	基礎	選択式		●	77.9	97.9	93.0	80.3	40.4	57.5	Ⅲ
4	2		登場人物の心情を選ぶ	基礎	選択式		●	70.5	96.3	86.6	68.5	30.2	66.1	Ⅲ
4	3		登場人物の心情をまとめた文の空欄に入る言葉を書く	応用	記述式		●	41.9	82.6	51.7	25.1	7.1	75.5	Ⅰ
5	1		招待状の下書きに見られる工夫を選ぶ	基礎	選択式		●	72.6	95.4	88.2	70.0	36.6	58.8	Ⅲ
5	2		漢字の部首の意味を選ぶ	基礎	選択式	●		69.8	97.4	88.0	65.3	28.3	69.1	Ⅲ
5	3		話し合いを参考に文章を具体的に書き足す	応用	記述式		●	33.1	82.0	35.7	11.4	2.1	79.9	Ⅰ

【観点別分析】

知識・技能について

大問2(1)の漢字の読みを問う問題では、A、B、C層の正答率が高い状況にあります。一方で「委員(いいん)」の漢字の読みについて、D層では 39.9%と課題が見られます。(2)の漢字の書きを問う問題では、昨年度と同様、漢字の読みを問う問題に比べて、正答率は低い状況にあります。さらに、A、B、C、Dと層が下がるにつれて、正答率が大きく下がっています。学習指導要領に示されているように、国語科の時間だけでなく、各教科、領域等において**当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使う学習場面や活動を設定し、日常的に指導を継続すること**が大切になってきます。また、**漢字辞典を使って漢字の読みや意味などを自分で調べることを積極的に取り入れ、調べる習慣や学習した漢字を使う習慣が身に付くようにすること**も大切です。

大問2(3)文意に沿って正しい指示語を問う問題では、正答率は 88.1%と高い状況にあります。多くの児童が場面の状況を読み取り、正しい指示語を選ぶことができています。**指示する語句を適切に使うことで、文や文章をより簡潔に表現したり、文と文の内容のつながりを明瞭に表したりすることができるよう、「読むこと」や「書くこと」の学習を通して指導してくこと**が必要です。

思考・判断・表現について

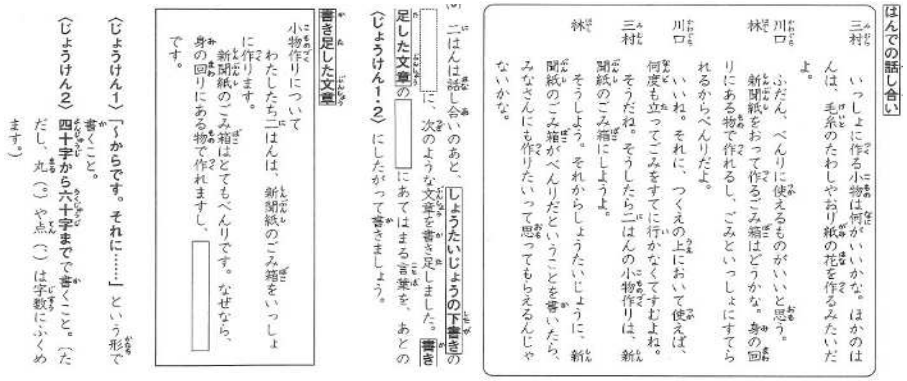
大問1「話すこと・聞くこと」では、内容のテーマを聞き取り、話し手が伝えたいことの中心を捉えることに関して、正答率が高い状況にあります。国語科や他教科等において、質問するなどして情報を集めたり、説明や報告などを聞いたりする活動を通して、「話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと」の力が身に付いていると考えられます。

記述式の問題は、いずれも無解答率が高く、D層は50%を超えています。大問4(3)「登場人物の心情をまとめた文の空欄に入る言葉を書く」問題では、正答率が A 層は 82.6%に対して、B層は51.7%、C層は25.1%、D層は7.1%と、A層とB、C、D層に差が見られます。登場人物の気持ちを、行動や会話、地の文などの叙述を基に捉えることが課題です。**登場人物が何をしたのか、どのような表情・口調・様子だったのかを具体的にイメージしたり、行動の理由を想像したりするなど、既習を想起しながら読み、自分の考えを記述することの積み重ねが大切**です。

【授業づくりのアイデア例】

設問内容：話し合いを参考に文章を具体的に書き足す（思考・判断・表現）

＜実際の設問＞大問5（3）



はんでの話し合い

三村　いっしょに作る小物は何がいいかな。ほかのはんは、毛糸のたわしやおり紙の花を作るみたいだよ。

川口　ふだん、べんりに使えるものがいいと思う。

林　新聞紙をおって作るごみ箱はどうかな。身の回りにある物で作れるし、ごみといっしょにすてられるからべんりだよ。

川口　いいね。それに、つくえの上において使えば、何度も立ってごみをすてに行かなくてすむよね。

三村　そうだね。そうしたら二はんの小物作りは、新聞紙のごみ箱にしようよ。

林　そうしよう。それからしようたいじょうに、新聞紙のごみ箱がべんりだということを書いたら、みなさんにも作りたいって思ってもらえるんじゃないかな。

(1) 二はんは話し合いのあと、しようたいじょうの下書きの［　　］に、次のような文章を書き足しました。書き足した文章の［　　］にあてはまる言葉を、あとの〈じょうけん1・2〉にしたがって書きましょう。

書き足した文章

小物作りについて

わたしたち二はんは、新聞紙のごみ箱をいっしょに作ります。

新聞紙のごみ箱はとてもべんりです。なぜなら、身の回りにある物で作れますし、［　　］です。

〈じょうけん1〉「～からです。それに……」という形で書くこと。

〈じょうけん2〉四十字から六十字までで書くこと。（ただし、丸（。）や点（、）は字数にふくめます。）

＜分析結果＞

＜正答率と４層分析データ＞

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別					
		A 層	B 層	C 層	D 層	A－D 層の差	パターン判定
令和6年度・小4	33.1	82.0	35.7	11.4	2.1	79.9	Ⅰ
令和5年度・小4	17.7	60.7	7.7	1.7	0.5	60.2	Ⅰ

4層分析データからA－B層の差が46.3 ポイントと、昨年度と同様、離れていることが分かります（A－D層の差は 79.9 ポイント）。B、C、D層の児童は、話し合ったことから必要なことを選び、伝えたいことを明確にすることができていないと考えられます。

また、正答した児童が 33.1%と高くはない上、全ての条件を満たして書けていた児童は 23.1%でした。情報を整理しながら、理由の根拠となる具体的な事例を挙げて書く力を身に付けていく必要があります。

〈じょうけん 1〉「～からです。それに…」から、2つのことを並列で表すという点に気付き、はんでの話し合いの中から、書き足すことを2つ選ぶ力が求められます。「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の関連を図った指導が必要です。

＜実態に応じた授業づくりの工夫＞

相手や目的を意識して、伝えるために必要な事柄を明確にして書き表す力が身に付く授業づくりが必要だと考えます。A層に比べ、B、C、D層の無解答率が高い（A:3.1%、B:22.3%、C:49.6%、D:76.8%）という結果から、普段の指導の中で、書く内容を考える際に、2人から数名程度のグループを作って話し合ったりするなどの多様な形態の話合いを設定することが必要です。指導の工夫として、「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の関連を図り、話合いで考えを付箋に書き出して思考ツールを用いるなど、話合いで出た考えを整理する経験を重ねることで、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができます。

例えば、3学年「こんな係がほしい」の学習で付箋を用いて整理する活動を経験させます。その上で、3学年「気持ちをこめて、『来てください』」、4学年「お礼の気持ちを伝えよう」の学習で、伝える内容を考える際には、ペアやグループでの話合いの場を設定することで考えが広がり、相手や目的を意識して、伝えたいことを明確にすることにつながります。また、自分の考えとそれを支える理由や事例といった関係性が明確になるような書く力が身に付くようにします。

国語科の学習だけではなく、各教科等の学習や学校の教育活動全体との関連を図り、行事の案内やお礼の文章を書くなど、伝えたいことを手紙に書いたり、反応を受け取ったりすることができるよう工夫することが有効です。

【主体的に学習に取り組む態度　質問別回答状況一覧】

質問番号	質問内容	母集団	年度・学年	肯定群回答割合（%）	選択肢別回答割合（%）					学力層別　肯定群回答割合（%）				
					よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	その他無回答	A 層	B 層	C 層	D 層	A-D層の差
1	友だちが書いた文章や話したことを参考にして、自分にはない新しい考えや自分とは違う考えを持とうとしている。	川崎市	令和6年度・小4	85.9	33.4	47.8	11.6	1.8	5.3	92.0	89.0	85.1	76.0	16.0
			令和5年度・小4	87.8	35.9	47.9	10.0	1.6	4.6	93.1	90.6	87.4	79.3	13.8
2	自分の考えをはっきりと正確に伝えるために、より良い言葉を探したりあてはめたりして工夫している。	川崎市	令和6年度・小4	84.9	39.5	40.6	12.5	1.8	5.6	93.0	89.3	83.6	71.8	21.2
			令和5年度・小4	86.1	41.3	40.7	11.7	1.6	4.7	92.6	89.7	85.1	76.0	16. 6
3	自分で目標を決めて、こつこつ読書をしている。	川崎市	令和6年度・小4	59.1	23.8	31.9	29.2	9.4	5.8	73.6	62.3	52.1	46.1	27.5
			令和5年度・小4	61.2	25.6	32.6	28.2	8.7	5.0	73.7	64.4	56.6	48.5	25.2
4	短歌や俳句、文章を詳しく読んで、どのような心や思いが込められているかを考えている。	川崎市	令和6年度・小4	70.0	26.3	39.5	22.6	5.6	6.0	76.5	72.9	68.5	60.7	15.8
			令和5年度・小4	73.1	30.3	39.0	20.0	5.2	5.2	79.3	76.8	71.5	63.9	15.4
5	はっきりと正確に伝わるように、違う言葉を使ったり文章を書き直したりしている。	川崎市	令和6年度・小4	83.3	39.7	38.0	12.7	3.0	6.6	90.6	87.7	82.4	70.2	20.4
			令和5年度・小4	84.3	42.2	37.3	12.0	2.7	5.7	91.6	88.1	83.6	72.6	19.0

質問1では、85.9%の児童が、肯定的な回答をしています。友だちが書いた文章や話したことを参考にして、新たな視点での見方や考え方をもとうとしているといえます。授業の中に交流する場が設定され、互いのよさを認め合い、受け入れていく話し方や聞き方が各学校で取り組まれている成果と考えます。

質問3では、A層は 73.6%が肯定的な回答をしているのに対し、D層は 46.1%という状況となっています。昨年度の結果もほぼ同様の数値であることから、読書習慣の有無が関わっているのではないかと考えられます。**日常の読書活動や読み聞かせ等、本と触れ合う時間の確保に取り組み、「読むこと」の学習が読書へとつながる授業展開の工夫**が必要です。

【第５学年】

集計項目	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	A層とD層の差	パターン判定
教科総合	67.1	86.4	71.5	57.9	36.4	50.0	Ⅲ
知識・技能	69.1	89.1	78.5	66.4	42.5	46.6	
思考・判断・表現	57.9	84.2	65.7	50.6	31.1	53.1	Ⅲ

設問番号			設問内容	基礎応用	出題形式	観点1	観点2	川崎市	川崎市学力層別					
大問	小問					知識・技能	思考・判断・表現		A層	B層	C層	D層	A層とD層の差	パターン判定
1	1		放送された内容のテーマを選ぶ	基礎	選択式		●	78.4	95.8	87.4	76.4	54.2	41.6	
1	2		川上さんが上級生に教えてもらって感じたことを選ぶ	基礎	選択式		●	67.5	90.6	75.9	62.4	41.0	49.6	
1	3		川上さんが四年生のときの自分をふり返った内容を選ぶ	基礎	選択式		●	87.8	99.3	96.1	90.9	64.7	34.6	
1	4		川上さんの発表の工夫を選ぶ	基礎	選択式		●	82.6	98.9	94.1	84.5	53.1	45.8	
1	5		川上さんの発表に対する質問の意図を選ぶ	応用	選択式		●	72.2	95.7	85.2	69.3	38.5	57.2	Ⅲ
2	1	ア	漢字を読む(消灯時間になった。)	基礎	短答式	●		80.4	99.2	95.3	83.2	43.7	55.5	Ⅲ
2	1	イ	漢字を読む(教えを説く。)	基礎	短答式	●		74.9	94.5	84.0	73.0	48.1	46.4	
2	1	ウ	漢字を読む(倉庫に物をしまう。)	基礎	短答式	●		95.5	99.8	99.8	99.2	83.0	16.8	
2	2	ア	漢字の書き(おじいさんはしょうわ三十年生まれだ。)	基礎	短答式	●		50.7	82.5	61.7	40.1	18.6	63.9	Ⅱ
2	2	イ	漢字の書き(れつを作って順番を待つ。)	基礎	短答式	●		64.3	92.4	76.7	58.3	29.7	62.7	Ⅲ
2	2	ウ	漢字の書き(今年の夏はあつい。)	基礎	短答式	●		59.9	87.1	68.7	53.9	29.8	57.3	Ⅲ
2	3		文意に沿って正しい接続語を選ぶ	基礎	選択式	●		88.8	99.3	97.1	91.5	67.4	31.9	
2	4		反対の意味の漢字を組み合わせた熟語を選ぶ	基礎	選択式	●		74.3	95.9	89.2	73.6	38.5	57.4	Ⅲ
2	5		「手を焼く」を正しく使っている文を選ぶ	基礎	選択式	●		79.6	95.1	87.0	79.4	56.7	38.4	
2	6		漢字辞典の索引の使い方を選ぶ	基礎	選択式	●		41.1	49.5	42.5	40.2	32.0	17.5	
3	1		文章の後半部分が始まる段落を選ぶ	基礎	選択式		●	36.8	52.9	37.2	31.1	25.8	27.1	
3	2		文章の内容と合う文を選ぶ	基礎	選択式		●	42.9	59.0	45.1	36.8	30.8	28.2	
3	3		カワイルカの特徴をまとめた文の空欄に入る言葉を書く	応用	記述式		●	29.8	70.5	33.5	12.9	2.3	68.2	Ⅰ
4	1		登場人物の心情として正しいものを選ぶ	基礎	選択式		●	68.1	92.3	80.5	64.0	35.7	56.6	Ⅲ
4	2		登場人物の様子として正しいものを選ぶ	基礎	選択式		●	66.3	94.9	82.3	59.3	28.5	66.4	Ⅲ
4	3		気持ちの変化をまとめた文の空欄に入る言葉を書く	応用	記述式		●	39.1	87.1	47.4	18.7	3.1	84.0	Ⅰ
5	1		報告文の下書きの工夫を選ぶ	基礎	選択式		●	51.5	81.6	58.2	41.6	24.8	56.8	Ⅰ
5	2		漢字の使い方が誤っている文を選ぶ	基礎	選択式	●		51.1	85	61.1	37.9	20.4	64.6	Ⅰ
5	3		報告文をより伝わる内容に書き直す	応用	記述式		●	29.5	75.5	30.4	10	2.1	73.4	Ⅰ

【観点別分析】

知識・技能について

大問2の漢字の読みを問う問題では、昨年度と同様 A、B、C層の正答率が92%を超え、とても良い傾向にあります。一方、漢字の書きを問う問題では、読みよりも平均正答率は大きく下がって 58.3%であり、A－D層の差が57.2 ポイントと大きくなっています。D層の無回答率も平均約 28%と高くなっていて漢字の書きには課題があるといえます。**日常的に文や文章を書く際には、学習した漢字を使う習慣が身に付くように指導を積み重ねていくこと**が必要であると考えます。

大問2(6)は、漢字辞典の使い方に関する問題となっています。学習指導要領「情報の扱い方に関する事項」で、辞書や事典の使い方を理解し使うことは、必要な情報を収集したり、語彙を豊かにしたりするために必要な「知識及び技能」であると示されています。国語科に限らず、他教科や日常生活の中でも、**国語辞典や漢字辞典が手元にあり、必要な時にはいつでもすぐに利用できるような環境づくりや日々の指導**が大切です。

思考・判断・表現について

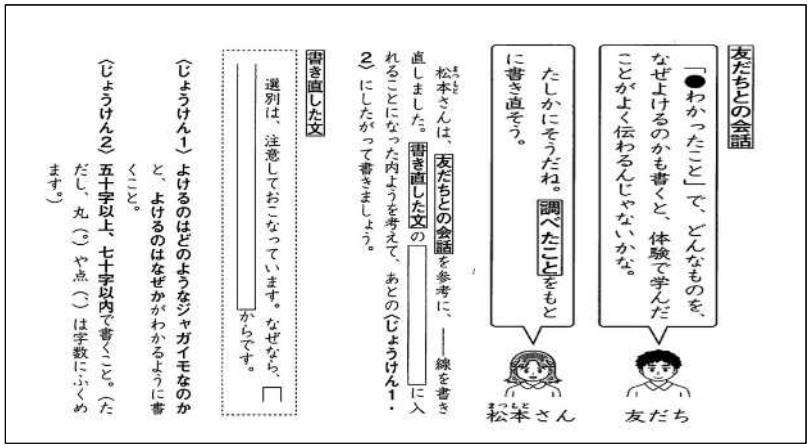
大問1「話すこと・聞くこと」では、話の中心を捉えて聞くことに関して高い正答率が出ています。様々な場面で話し手が伝えたいことの中心を捉え、自分が聞きたいことの中心を明確にして聞く力が定着してきていると考えられます。一方、(5)質問の意図を問う問題では A－D層の差が57.2 ポイントと大きくなっています。話を聞くだけではなく、**聞いた事柄を基に分からない点や確かめたい点を質問したり、自分であるいは友達と話の内容を振り返ったりすること**が重要です。

大問4 文学的な文章の問題では、(1)登場人物の心情や(2)様子、(3)気持ちの変化を読み取ることができるかを問う問題です。(1)(2)は A－D層の差が大きく、それぞれ 56.6 ポイント、66.4 ポイントの差が開いています。また、(3)では B 層でも正答率が 47.4%と低く、課題がある状況です。学習指導要領の「C 読むこと」では、「イ 登場人物の行動や気持ちなどについて，叙述を基にとらえること」が求められています。その際、**物語全体を見通して、複数の叙述を基に行動や気持ちなどを捉えていく力をつけていくこと**が大切です。

【授業づくりのアイデア例】

設問内容：報告文をより伝わる内容に書き直す（思考・判断・表現）

＜実際の設問＞大問5（3）



友だちとの会話

「●わかったこと」で、どんなものを、なぜよけるのかも書くと、体験で学んだことがよく伝わるんじゃないかな。

たしかにそうだね。調べたことをもとに書き直そう。

松本さん　友だち

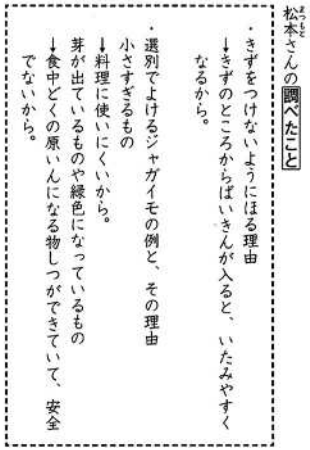
松本さんは、友だちとの会話を参考に、――線を書き直しました。書き直した文の□に入れることになった内ようを考えて、あとの〈じょうけん1・2〉にしたがって書きましょう。

書き直した文

選別は、注意しておこなっています。なぜなら、□からです。

〈じょうけん1〉よけるのはどのようなジャガイモなのかと、よけるのはなぜかがわかるように書くこと。

〈じょうけん2〉五十字以上、七十字以内で書くこと。（ただし、丸（。）や点（、）は字数にふくめます。）



松本さんの調べたこと

・きずをつけないようにほる理由
→きずのところからばいきんが入ると、いたみやすくなるから。

・選別でよけるジャガイモの例と、その理由
小さすぎるもの
→料理に使いにくいから。
芽が出ているものや緑色になっているもの
→食中どくの原いんになる物しっができていて、安全でないから。

＜分析結果＞

〈正答率と4層分析データの経年変化〉

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	A−D層の差	パターン判定
令和6年度・小5	29.5	75.5	30.4	10.0	2.1	73.4	I
令和5年度・小4	17.7	60.7	7.7	1.7	0.5	60.2	I

昨年度よりも正答率が高くなっています。特にB、C層の正答率が伸びました。一方で、A－B層の差が45．1ポイントあり、昨年同様、A層とB、C、D層に開きがあることが分かります。また、無解答率が38．6％と高くなっています。全体的に、情報を整理しながら、理由の根拠となる具体的な事例を挙げて書く力を身に付けさせていく必要があります。自分の考えとそれを支える理由や事例を書き出し、関係性を明確にしながら記述したり、読み返したりする力を育てていくことが大切です。

＜実態に応じた授業づくりの工夫＞

自分の考えとそれを支える理由や事例を整理し、書いたり、推敲したりする

色短冊や付箋等を活用して、自分の考えを赤色、自分の考えを支える理由や事例を青色と、分けて書き出し、可視化しながら整理することで、それらの関係性を明確にして記述することができます。思考ツールを活用するのもよいでしょう。低学年から「自分の考え」と「わけ」を書く経験を積むなど、系統的に身に付けていくことも重要です。

推敲する際には、自分の考えを赤色、理由や事例を青色で線を引きながら読み返し、関係性が明確になっているかを確かめることも効果的です。

習得した力を他領域・他教科で活用する

自分の考えとそれを支える理由や事例の関係性を明確にしながら表現する力は、「話すこと・聞くこと」においても中学年で重点化されています。そこで、学習したことを繰り返し使っていくことが大切です。

国語科に限らず、ノートに自分の考えをまとめていくときや学習の振り返りをするとき、授業の中で発言をするときにも活用できるよう、「どうして」「理由は」「例えば」など教師が意図的に問いかける工夫が考えられます。

また、「なぜなら～」「その理由は～」「～ためです」などの理由を表す言葉や「例えば～」「事例を挙げると～」「～などがそれに当たります」などの事例を表す言葉を活用している児童を価値付けながら、関係性を明確にする語句を増やしていくことも大切です。

【主体的に学習に取り組む態度　質問別回答状況一覧】

質問番号	質問内容	母集団	年度・学年	肯定群回答割合（%）	選択肢別回答割合（%）					学力層別　肯定群回答割合（%）				
					よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	その他無回答	A層	B層	C層	D層	A-D層の差
1	質問したりアドバイスし合ったりして思いや考えを伝え、先生や友だち、地域の人と進んで交流しようとしている。	川崎市	令和6年度・小5	65.2	17.5	45.8	29.0	4.7	3.0	74.8	66.9	61.3	57.2	17.6
			令和5年度・小4											
2	友だちが書いた文章や話したことを参考にして、自分にはない新しい考えや自分とは違う考えを持とうとしている。	川崎市	令和6年度・小5	85.0	34.4	48.0	12.8	1.7	3.1	91.7	87.1	84.4	76.3	15.4
			令和5年度・小4	87.8	35.9	47.9	10.0	1.6	4.6	93.1	90.6	87.4	79.3	13.8
3	文章を読むとき、別々の段落で書かれていることを、考えとその事例、結論とその理由といった関係を考えながら読むようにしている	川崎市	令和6年度・小5	73.7	28.9	42.4	21.7	3.7	3.3	84.9	77.0	70.8	61.3	23.6
			令和5年度・小4											
4	自分の考えをはっきりと正確に伝えるために、より良い言葉を探したりあてはめたりして工夫している。	川崎市	令和6年度・小5	83.6	41.5	39.3	13.7	2.1	3.4	92.7	87.5	81.4	72.1	20.6
			令和5年度・小4	86.1	41.3	40.7	11.7	1.6	4.7	92.6	89.7	85.1	76.0	16.6
5	本で読んだことを参考にして、学校や家庭の学習や生活の場面で、より良くなるよう工夫している。	川崎市	令和6年度・小5	70.9	34.1	34.3	22.0	6.1	3.6	82.6	74.0	65.2	61.0	21.6
			令和5年度・小4	61.2	25.6	32.6	28.2	8.7	5.0	73.7	64.4	56.6	48.5	25.2
6	同じような言葉でも細かな意味の違いがあることを、例文を作ったり文章を書き直したりして確かめている。	川崎市	令和6年度・小5	79.7	32.8	43.8	16.7	2.8	3.9	87.5	81.9	78.1	70.5	17.0
			令和5年度・小4											
7	はっきりと正確に伝わるように、違う言葉を使ったり文章を書き直したりしている。	川崎市	令和6年度・小5	84.9	40.5	41.0	12.2	2.3	4.0	92.3	88.2	83.5	74.9	17.4
			令和5年度・小4	84.3	42.2	37.3	12.0	2.7	5.7	91.6	88.1	83.6	72.6	19.0

※空欄の箇所は前回調査で実施していない質問項目

質問2では、85.0%の児童が、肯定的な回答をしています。互いのよさを認め合い、受け入れていく聴き方や話し方が各学校、各クラスで大切にされ、自分にはない新しい考えや自分とは違う考えをもつことのよさを多くの児童が実感していると考えられます。日々授業改善を図り、対話的な学びを授業の中にしっかりと位置付けられている成果が表われています。

質問4では、A層が 92.7%の児童が肯定的な回答をしているのに対し、D層が 72.1%と20ポイント以上の差があります。知識及び技能における「言葉の特徴や使い方に関する事項」でも示されているように、**語句の量を増し、使い方の範囲を広げ、読むことや書くことと関連させながら語彙を豊かにすること**が大切です。

【第６学年】

集計項目	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	A－D層の差	パターン判定
教科総合	64.9	88.3	73.6	59.5	38.2	50.1	Ⅲ
知識・技能	64.9	87.1	72.5	60.1	39.9	47.2	
思考・判断・表現	64.9	89.2	74.4	59.0	37.0	52.2	Ⅲ

設問番号			設問内容	基礎応用	出題形式	知識・技能	思考・判断・表現	川崎市	川崎市学力層別					
大問	小問								A層	B層	C層	D層	A－D層の差	パターン判定
1	1		放送された内容のテーマを選ぶ	基礎	選択式		●	70.9	89.9	77.8	65.3	50.5	39.4	
1	2		中川さんが説明時に見せた図を選ぶ	基礎	選択式		●	94.1	99.0	97.6	95.2	84.6	14.4	
1	3		中川さんが机について調べて知ったことを選ぶ	基礎	選択式		●	72.8	91.1	80.9	69.7	49.7	41.4	
1	4		中川さんの発表の工夫を選ぶ	基礎	選択式		●	53.0	71.0	59.6	48.5	32.8	38.2	
1	5		中川さんのスピーチを聞いて伝えた考えを選ぶ	応用	選択式		●	83.8	97.8	92.6	85.0	59.8	38.0	
2	1	ア	漢字を読む(日本の領土。)	基礎	短答式	●		81.2	99.8	96.6	84.4	43.9	55.9	Ⅲ
2	1	イ	漢字を読む(答えは一つに限らない。)	基礎	短答式	●		96.2	99.9	99.3	98.6	87.1	12.8	
2	1	ウ	漢字を読む(家を清潔にたもつ。)	基礎	短答式	●		93.1	99.9	99.4	98.1	75.1	24.8	
2	2	ア	漢字の書き(がっしょうの練習をする。)	基礎	短答式	●		39.1	80.6	44.6	23.8	7.4	73.2	Ⅰ
2	2	イ	漢字の書き(せっきょく的に取り組む。)	基礎	短答式	●		35.8	72.7	41.4	20.9	8.0	64.7	Ⅰ
2	2	ウ	漢字の書き(たんじょう日をいわう。)	基礎	短答式	●		47.0	71.4	50.1	40.7	25.7	45.7	
2	3		漢語と和語の組み合わせを選ぶ	基礎	選択式	●		72.1	93.8	81.7	69.3	43.7	50.1	Ⅲ
2	4		正しい敬語を選ぶ	基礎	選択式	●		80.9	97.7	90.9	79.9	55.0	42.7	
2	5		他と異なる同訓異字を選ぶ	基礎	選択式	●		52.0	60.3	55.1	50.6	42.2	18.1	
2	6		結果に対応する正しい理由を選ぶ	基礎	選択式	●		73.6	96.9	88.1	71.2	38.1	58.8	Ⅲ
3	1		人間と人間の関係に例えて説明する段落番号を書く	基礎	短答式		●	52.5	86.7	64.0	43.8	15.5	71.2	Ⅲ
3	2		文章の段落の説明として正しいものを選ぶ	基礎	選択式		●	73.9	98.1	90.6	73.6	33.3	64.8	Ⅲ
3	3		文章中の空欄に入る言葉を選ぶ	基礎	選択式		●	87.3	99.4	94.9	89.5	65.2	34.2	
3	4		文章の内容をまとめた表の空欄に入る言葉を書く	応用	記述式		●	52.9	91.3	65.6	39.8	15.0	76.3	Ⅱ
4	1		場面の状況に合う説明を選ぶ	基礎	選択式		●	57.1	85.4	66.1	47.9	28.9	56.5	Ⅰ
4	2		文章中の空欄に入る言葉を選ぶ	基礎	選択式		●	84.9	98.8	94.9	87.6	58.1	40.7	
4	3		文章についての説明として正しいものを選ぶ	基礎	選択式		●	46.8	82.6	55.5	32.9	16.4	66.2	Ⅰ
4	4		人物像についての会話の空欄に入る言葉を書く	応用	記述式		●	62.1	98.8	85.2	51.0	13.3	85.5	Ⅲ
5	1		同じ組み立ての熟語を選ぶ(電力)	基礎	選択式	●		43.0	85.3	50.3	24.1	12.6	72.7	Ⅰ
5	2		提案文の書き方の工夫を選ぶ	基礎	選択式		●	55.6	85.8	64.9	43.3	28.3	57.5	Ⅱ
5	3		話し合いを参考にして、空欄に入る言葉を書く	応用	記述式		●	26.0	63.0	25.5	11.8	3.4	59.6	Ⅰ

【観点別分析】

知識・技能について

大問2(1)漢字の読みを問う問題では、A、B、C層の正答率が90%を超え、D層も正答率が約70%と高く、昨年度と同様、漢字の読みが定着していることが分かります。一方、(2)漢字の書きを問う問題では、A 層の正答率は 74.3%ですが、B、C、D層の正答率は全て50%以下になっています。また、(5)の同訓異字の漢字の使い分けを問う問題でも、A 層の正答率が 60.3%、D層が 42.2%と全体的に低く、漢字の定着に課題があるといえます。

GIGA 端末で文章を書いた時、誤変換された漢字をそのまま使う児童の姿がよく見られます。**普段から、分からない字を調べたり、習った漢字を積極的に使ったりする習慣をつけ、漢字の定着を図る必要**があります。

大問2(6)結果に対する正しい理由を選ぶ問題では、A、B、C層は正答率が高く、D層のみ正答率が 40%以下という結果でした。学習指導要領の1[知識及び技能](2)アにあるように、考えとそれを支える理由(中学年)や原因と結果(高学年)などの**「情報と情報の関係」は、「書くこと」や「読むこと」と関連させて指導し、理解を図っていくこと**が大切です。

思考・判断・表現について

大問1「話すこと・聞くこと」では、全ての層で正答率が高く、80%以上の設問もありました。話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて聞く意識が身に付いています。

大問3説明的な文章の問題では、A、B、C層とD層の差が大きくなっています。中でも(1)の「構造と内容の把握」を問う問題と(4)の「精査・解釈」を問う問題では、A－D層の差が 70 ポイント以上あります。さらに、(4)ではD層の無解答率が30.1%と、説明的な文章を読むことが課題となっています。学習指導要領「C 読むこと」の言語活動例にあるように、**説明や解説などの文章を比較するなどして読むことが、それぞれの文章を理解することにつながります**。また、**取り上げる文章も教科書だけにこだわらず、児童の興味関心につながる教材を扱うこと**も考えられます。

大問 5(2)書くことの「構成の検討」を問う問題では、C、D層の正答率が低く、課題となっています。**「読むこと」の学習でも、構成や展開の仕方など「書くこと」を念頭に置きながら学習していくこと**も大切です。

【授業づくりのアイデア例】
設問内容：人物像についての会話の空欄に合う言葉を書く
（思考・判断・表現）
＜実際の設問＞
大問4（4）

（4）次は、木場さんと古川さんが、この文章について話し合っている場面です。この中の□にあてはまる言葉を、あとの〔条件1・2〕にしたがって書きましょう。

「ぼく」は、真中さんの、「まちがったこと」に対する考えや行動が、「ぼく」や、ほかの女子たちとちがうと考えているね。

真中さんは、「ぼくら」とは反対に、「まちがったこと」に対して□人物なんだね。

木場さん

古川さん

〔条件1〕文章の中の言葉を使って書くこと。
〔条件2〕十字以上、二十字以内で書くこと。

＜分析結果＞

＜正答率と４層分析データの経年変化＞

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	A−D層の差	パターン判定
令和6年度・小6	62.1	98.8	85.2	51.0	13.3	85.5	Ⅲ
令和5年度・小5	37.8	90.6	47.6	11.4	1.2	89.4	Ⅰ

全体の正答率は昨年度と比べて24．3ポイント上がっており、4層全ての正答率も上がっています。ただ昨年度と同様Ａ−Ｄ層の差が大きく今年度は85．5ポイント離れています。D層の無解答率は61．6％です。A、B、C層の児童に比べ、主にD層の児童が文章全体から読み取ることができていないと考えられます。そこでD層の児童には、全体的な叙述を基に人物像を捉えるための視点を身に付けることが必要となります。

＜実態に応じた授業づくりの工夫＞

全体的な叙述を基に人物像を捉える力が身に付くようにするためには、読む視点をもたせることと、読んで考えたことを交流する場を設けることが必要です。

人物の考え方や生き方などが表れている表現に着目する

＜主人公＞
行動・会話・様子が分かるところに線を引きながら読み、そこから想像できる人物の性格や考え方を書き出します。
＜周りの人物＞
周りの人物の行動・会話・様子が分かるところに線を引いたり、ノートに書き出したりしながら読み、そこから想像できる人物の性格や考え方を書き出します。
＜相互関係＞
主人公と周りの人物との関わりを整理して、心情の変化を想像します。

友達と話し合い、考えを広げる

捉えた登場人物の性格や考え方の交流をします。自分の考えを伝え合うことで、友達の考えや着目した叙述を知ることができます。このような交流を通して、人物の行動や会話、様子などを表す複数の叙述を結び付けて読むことが、人物像を具体的に想像することにつながります。

質問番号	質問内容	母集団	年度・学年	肯定群回答割合(%)	選択肢別回答割合(%)					学力層別 肯定群回答割合(%)				
					よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	その他無回答	A層	B層	C層	D層	A-D層の差
1	質問したりアドバイスし合ったりして思いや考えを伝え、先生や友だち、地域の人と進んで交流しようとしている。	川崎市	令和6年度・小6	59.1	15.4	42.7	34.1	6.0	1.8	69.0	62.0	54.4	50.7	18.3
			令和5年度・小5	65.6	16.9	46.8	29.5	3.9	2.8	73.6	67.1	62.0	59.2	14.4
2	友だちが書いた文章や話したことを参考にして、自分にはない新しい考えや自分とは違う考えを持とうとしている。	川崎市	令和6年度・小6	84.3	32.1	50.6	13.5	1.9	1.9	91.1	87.7	83.1	74.8	16.3
			令和5年度・小5	86.0	38.0	45.5	11.9	1.7	3.0	92.8	89.0	85.5	76.1	16.7
3	同じテーマや主題の作品を読み比べて、共通点や相違点を見つけたりして、自分の考えを持とうとしている。	川崎市	令和6年度・小6	56.7	18.1	37.5	32.8	9.6	2.0	62.9	57.5	53.5	52.9	10.0
			令和5年度・小5	78.1	32.0	43.7	18.4	2.9	3.1	88.0	81.8	75.1	66.5	21.5
4	自分の考えをはっきりと正確に伝えるために、より良い言葉を探したりあてはめたりして工夫している。	川崎市	令和6年度・小6	85.7	42.1	41.8	12.1	1.9	2.1	93.7	90.5	84.5	73.4	20.3
			令和5年度・小5	84.7	41.2	40.8	13.0	1.8	3.2	91.9	88.1	84.0	74.0	17.9
5	本で読んだことを参考にして、学校や家庭の学習や生活の場面で、より良くなるよう工夫している。	川崎市	令和6年度・小6	70.4	32.8	36.1	22.9	6.1	2.2	85.3	75.6	63.8	55.9	29.4
			令和5年度・小5	71.6	34.6	34.6	21.7	5.8	3.4	83.6	73.4	67.6	60.7	22.9
6	短歌や俳句、文章を詳しく読んで、どのような心や思いが込められているかを考えている。	川崎市	令和6年度・小6	71.7	27.2	42.7	22.4	5.2	2.5	76.6	73.9	71.0	64.7	11.9
			令和5年度・小5	80.6	33.0	44.2	16.3	2.3	4.1	87.6	82.7	78.9	72.2	15.4
7	はっきりと正確に伝わるように、違う言葉を使ったり文章を書き直したりしている。	川崎市	令和6年度・小6	85.7	42.5	40.9	12.1	1.9	2.6	94.4	90.2	83.3	74.0	20.4
			令和5年度・小5	85.7	40.3	41.7	12.0	1.7	4.4	93.5	88.6	84.5	75.1	18.4

質問2において、肯定的に回答した児童の割合は、A層で 91.1%、A層でも 74.8%と高い割合でした。考えを共有することが様々な学習場面で設定されていることの成果です。一方、質問5において、肯定的に回答した児童の割合は、A層で 85.3%、D層では 55.9%と、A－D層の差は 29.4 ポイントでした。学習指導要領1知識・技能(3)における「日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと」に課題があります。さらに、意識調査の質問3「本や新聞を読んでいる」では、A－D層の差が 38.7 ポイントと大きな差がありました。**教師による読み聞かせや、関連図書の紹介などを通して、読書習慣をつけさせること**が大切です。

【学習意識調査から】

質問番号:【45】
質問内容:自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えることができる。

＜肯定的な回答割合・4層分析＞

年度・学年	川崎市	A層	B層	C層	D層	A-Dの差
令和6年度・小4	69.5	79.4	72.1	66.5	59.9	19.5
令和6年度・小5	67	79.7	69.7	63.5	55.2	24.5
令和5年度・小4	71.6	79.7	73.5	69.1	64.1	15.6
令和6年度・小6	64.6	78.8	67.6	60.7	51	27.8
令和5年度・小5	68.7	80	72.6	65.6	56.8	23.2

＜分析結果＞

国語科の目標の(2)に「日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，思考力や想像力を養う」とされています。「自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えることができる」ことは、国語科の学習においても大切です。調査結果から経年変化分析をすると、A－D層の差が、どの学年も広がっています。教科に関する調査・質問番号4の「自分の考えをはっきりと正確に伝えるために、より良い言葉を探したりあてはめたりして工夫している。」も、A－D層の差が20ポイント以上広がっています。このことからD 層は「自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えること」に課題があることがわかります。

「話すこと・聞くこと」の結果では、A－D層の差が少なく良好ですが、「書くこと」では A－D層の差が大きいので、中学年までの「書くこと」の学習の中で、相手意識をもって伝える場面を意図的に設定していくことが大切です。

＜実態に応じた授業づくりの工夫＞

「自分の意見や考えをわかりやすく伝えること」ができるようにするためには、相手意識・目的意識をもつことが大切です。

相手意識をもつには、題材をより身近なものとしたり、学習に必要感をもたせたりする工夫が求められます。目的意識は、何のために伝えるのか、何のための活動なのかという目的を明確にすることが必要です。児童が身に付けた力を自覚するには、単元を通してどのような力が付くのかという学習のねらいをはっきりさせなくてはなりません。

わかりやすく伝えるためには、小4では自分の考えとそれを支える理由や事例などを挙げながら構成を考えたり、小5、小 6 では接続語や文末表現などにも注意しながら、事実と感想、意見とを区別して自分の考えが伝わるように表現したりするようにします。また、相手を意識して資料を用意し、引用したり図や表を活用したりして、自分の考えがより伝わるように表現の工夫をすることも大切です。

これらの学習を積み重ね、国語科の学習だけでなく、他教科等でも相手にわかりやすく伝えるためには何が必要かを常に考える習慣が大切です。

	R5	R6	R7
小4	71.6	69.5	
小5	68.7	67	
小6	66.6	64.6	

3 小学校算数

【第4学年】

集計項目	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	AIDの層の差	パターン判定
教科総合	58.3	93.3	82.3	69.4	40.9	52.4	Ⅲ
知識・技能	74.2	94.2	84.8	73.1	44.9	49.3	
思考・判断・表現	59.4	89.4	71.4	53.1	23.6	65.8	Ⅲ

設問番号			設問内容	基礎応用	出題形式	観点1	観点2	川崎市	川崎市学力層別					
大問	小問					知識・技能	思考・判断・表現		A層	B層	C層	D層	AIDの層の差	パターン判定
1	1	ア	3位数＋3位数の加法の計算をする（繰り上がりあり）	基礎	短答式	●		85.7	95.7	91.8	84.1	71.2	24.5	
1	1	イ	3位数－3位数の減法の計算をする（繰り下がりあり）	基礎	短答式	●		83.8	96.2	91.4	84.1	63.6	32.6	
1	1	ウ	3位数×2位数＝4位数の計算をする	基礎	短答式	●		57.6	85.8	69.2	50.3	25.2	60.6	Ⅲ
1	1	エ	2位数÷1位数＝1位数（あまりあり）の計算をする	基礎	短答式	●		72.9	94.8	84.7	71.8	40.2	54.6	Ⅲ
1	1	オ	真分数＋真分数＝真分数の計算をする	基礎	短答式	●		91.4	99.1	97.7	93.3	75.5	23.6	
1	1	カ	小数－小数＝小数を計算をする	基礎	短答式	●		76.7	93.9	87.0	76.1	49.9	44.0	
1	2	ア	大きな数の表し方で正しいものを選ぶ	基礎	選択式	●		81.1	95.9	90.5	81.5	56.5	39.4	
1	2	イ	かけ算の性質で正しいものを選ぶ	基礎	選択式	●		83.6	99.5	97.2	86.9	50.7	48.8	
1	3		分数で表される長さを選ぶ	基礎	選択式	●		60.1	87.8	70.2	52.8	29.7	58.1	Ⅲ
2	1		同じ大きさの円が並ぶときの直線アイの長さを選ぶ	基礎	選択式	●		54.9	88.1	66.4	39.9	25.1	63.0	Ⅱ
2	2		紙を切って正三角形をつくるときの長さを求める	応用	短答式	●		66.6	92.4	78.5	64.0	31.6	60.8	Ⅲ
2	3		角の大きさを大きい順に並べたものを選ぶ	基礎	選択式	●		79.1	97.5	89.5	77.3	52.1	45.4	
2	4		二等辺三角形の作図をする	基礎	短答式	●		35.7	74.0	40.8	21.1	6.9	67.1	Ⅰ
3	1		家を出た時刻で正しいものを選ぶ	基礎	選択式	●		81.3	96.5	90.7	83.2	54.8	41.7	
3	2		家から駅までの道のりを求める	基礎	短答式	●		76.1	98.1	91.9	80.1	34.2	63.9	Ⅲ
3	3		はかりの針が指している重さを読み取る	基礎	短答式	●		61.0	89.4	73.2	56.6	24.6	64.8	Ⅲ
3	4		適する単位を選ぶ	基礎	選択式		●	63.6	89.0	72.3	57.8	35.2	53.8	Ⅲ
4	1	ア	棒グラフを読み取り、一番多いものを選ぶ	基礎	選択式	●		95.0	99.9	99.9	99.6	80.5	19.4	
4	1	イ	棒グラフから2つの項目の人数の差で正しいものを選ぶ	基礎	選択式	●		87.2	98.6	96.5	93.5	60.1	38.5	
4	2	ア	棒グラフで1目盛りが表しているページ数を答える	基礎	短答式	●		82.2	99.8	97.4	91.9	39.7	60.1	Ⅲ
4	2	イ	棒グラフを読み取り、一番少ないものを選ぶ	基礎	選択式	●		88.5	98.9	96.3	94.0	64.6	34.3	
4	2	ウ	棒グラフから2つの項目のページ数の正しい差を選ぶ	基礎	選択式	●		75.6	96.1	89.6	80.7	36.1	60.0	Ⅲ
5	1		数量の関係を式に表し答えを求める（加法の式）	応用	記述式		●	78.2	97.3	93.0	81.4	41.0	56.3	Ⅲ
5	2		数量の関係を式に表し、答えを求める（乗法の式）	応用	記述式		●	50.6	86.7	67.4	39.5	8.7	78.0	Ⅲ
5	3		□を用いた式を表す場面の文を選ぶ	基礎	選択式	●		57.3	94.7	75.2	45.5	13.9	80.8	Ⅲ
6	1		場面を式に表し答えを求める	応用	記述式		●	73.2	97.2	89.4	74.9	31.3	65.9	Ⅲ
6	2		登場人物の考え方からわかることを選び理由を答える	応用	記述式		●	31.3	76.6	35.2	11.9	1.6	75.0	Ⅰ

【観点別分析】

知識・技能について

問1(1)のウの3位数×2位数＝4位数の計算の問題では、昨年度と同様の問題の正答率は66.3%に対して、今年度の正答率は57.6%と8.7ポイント下がりました。D層の正答率は25.2%であり、4層分析パターン判定はⅢでした。D層の児童は、筆算の位取りに課題があると考えられます。**概数の考えを用いて、積の大きさに見当をつけることで答えの見積もりとなり、誤答を防ぐことが期待できます。**

大問2(4)の解答用紙に書かれている4cmの直線を用いて、辺の長さが4cm、4cm、5cmの二等辺三角形の作図をする問題の正答率は35.7%でした。あらかじめかかれている線を底辺とする誤答が多く見られました。授業の中で**二等辺三角形の向きに捉われず、構成要素に着目し、どの辺が底辺になるのか意識させること**が必要です。

大問5(3)の場面を表す□を用いた式を選択する問題では、前年度の正答率45.8%に対して、57.3%と11.5ポイント上がりました。しかし、A層の正答率は94.7%に対し、D層の正答率は13.9%であり、4層分析のパターン判定はⅢでした。今後も**話し合い活動を通して、未知数と既知数を明確にしたり、問題場面を図や場面絵に表現したりと問題場面、図、式を関連付けること**が大切です。

思考・判断・表現について

大問6(1)は、場面を式に表し答えを求める問題で、正答率は73.2%でした。半数以上が解けていますが、A層の97.3%に対して、D層は31.3%であり、4層分析のパターン判定はⅢであることから、算数が苦手な児童にとって問題場面を正しく捉えることが難しいと考えられます。昨年度の同様の問題ではパターン判定はⅠでした。このことから、**問題場面を正確に捉えられるようにしていくこと**が必要と考えられます。そのためには、**問題場面を数直線や線分図等に整理して表す活動**が大切になります。

大問6(2)は、登場人物の考えからわかることを選び、理由を記述する問題で、正答率は31.3%でした。A層が76.6%であった一方で、A層で35.2%、C層で11.9%、D層で1.6%と4層分析のパターン判定はⅠでした。複数の考えを比較・統合して考えたり、理解したりすることに課題があります。このような理由を問う問題は昨年度も課題がありました。算数の学習の中で**課題に対して問題解決に向かう思考の過程は多様であることを伝え、それぞれの考えの良さや共通点を考える場面を設定していくこと**が大切です。

【主体的に学習に取り組む態度　質問別回答状況一覧】

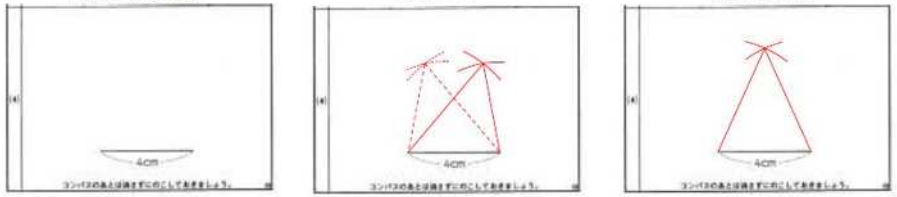
質問番号	質問内容	母集団	年度・学年	肯定群回答割合（%）	選択肢別回答割合（%）					学力層別　肯定群回答割合（%）				
					よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	その他無回答	A層	B層	C層	D層	A-D層の差
1	算数・数学を使うと、複雑な問題でも簡単な式で表現できたり、わからない値が求められたりして便利だと思う。	川崎市	令和6年度・小4	85.7	52.8	29.8	10.3	3.5	3.5	91.6	89.1	85.9	75.2	16.4
			令和5年度・小4	85.5	54.0	28.8	10.4	3.7	3.2	92.9	90.4	84.3	73.3	19.6
2	解き方がわからない問題でも、これまでに学習したことを活用して、論理的に少しずつ解こうとしている。	川崎市	令和6年度・小4	89.2	51.6	34.5	8.8	1.6	3.5	95.2	93.0	89.3	78.4	16.8
			令和5年度・小4	90.1	52.8	34.3	7.9	1.7	3.2	96.1	94.3	91.1	77.9	18.2
3	新しい問題を解くときに、これまでに習ったことをどうやって使えば解けそうか、考えるようにしている。	川崎市	令和6年度・小4	85.8	45.4	37.1	11.5	2.2	3.7	92.5	90.3	85.0	74.0	18.5
			令和5年度・小4	86.8	47.8	36.2	10.7	2.0	3.3	93.5	91.3	86.8	74.7	18.8
4	自分の解き方を振り返って、良いところやわかりにくいところ、工夫しているところなどを考えるようにしている。	川崎市	令和6年度・小4	82.3	41.6	37.6	13.7	3.3	3.8	88.5	85.3	82.2	72.2	16.3
			令和5年度・小4	81.9	41.6	37.4	14.0	3.5	3.6	88.2	85.2	81.3	72.1	16.1
5	友だちと、問題の解き方やより良い解き方を伝え合っている。	川崎市	令和6年度・小4	78.9	40.6	35.2	15.8	4.4	4.0	85.8	81.6	78.4	69.0	16.8
			令和5年度・小4	80.0	42.0	34.9	14.7	4.5	3.9	87.1	85.1	78.8	68.0	19.1

質問番号5では5問中、肯定群回答割合が 78.9%で最も低い結果となりました。また、D層の肯定群回答割合が 69.0%で最も低い結果となりました。この結果は、昨年度と同様であることから、集団思考の際に問題解決につながる対話的な活動を通して、より良い解決方法を考える「主体的・対話的で深い学び」の充実が継続的な課題であると考えられます。**小1～小3までの学習においても友だちの考え方について説明し合ったり、聞き合ったりすることの良さを感じられる授業を実践していくこと**が大切です。

【授業づくりのアイデア例】
設問内容：平面図形の作図（知識・技能）
＜実際の設問＞

(4) 等しい２つの辺の長さが4cmで、もう１つの辺の長さが5cmの二等辺三角形を、ものさしとコンパスを使ってかい答用紙にかきましょう。かい答用紙にかかれている線を使ってかきましょう。コンパスのあとは消さずにのこしておきましょう。

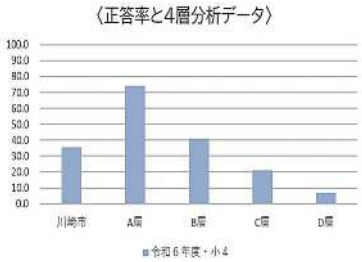
【解答用紙】　【解答】　【誤答例】



＜正答率と4層分析データと分析結果＞

上記問題の正答率は35．7%、4層分析から、A－B層の差が約30ポイントあり、パターン判定はⅠでした。

また、上記の誤答例のように、あらかじめかかれた4cmの辺の両端から5cmの2辺をかいて二等辺三角形を作図する児童が多くみられました。



このことから、授業の中で「2つの辺が5cmのいろいろな二等辺三角形を作図してみよう。」等、向きではなく長さや角度といった二等辺三角形を構成する要素に着目しながら作図をしていく必要があります。そのため、頂点の位置が様々な二等辺三角形の作図について触れることが必要です。

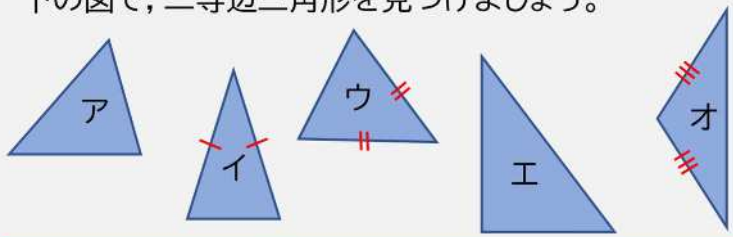
＜実態に応じた授業づくりの工夫＞

この問題は小3で学習する「三角形」の単元にある問題です。図形は、向きが変わってもその性質には関係がないことを知り、辺の長さや角の大きさに着目して正三角形や二等辺三角形について理解を深めていきます。

図形を構成する要素に着目し、その性質を理解することは，小4での平行四辺形、ひし形、台形などの考察にも生かされていきます。

二等辺三角形を構成する要素に着目する

下の図で，二等辺三角形を見つけましょう。



二等辺三角形とそうでない三角形について、構成要素に着目しながら共通点や相違点を話し合い、二等辺三角形の性質について学習します。その上で、頂点の位置は関係なく、2辺の長さが等しい三角形が二等辺三角形であることを確認しましょう。イのような向きだけでなく、ウやオのように頂点の位置が変わった二等辺三角形についても時間をかけて検討することが大切です。

図形の種類や定義、性質を構成要素やそれに着目した図形と言葉を関連付けながら、学習していくことが大切です。

【第5学年】

集計項目	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	AIDの層の差	パターン判定
教科総合	62.4	90.9	74.1	56.1	28.6	62.3	Ⅲ
知識・技能	67.3	91.7	79.5	64.0	34.0	57.7	Ⅲ
思考・判断・表現	40.0	87.0	49.3	19.4	4.1	82.9	Ⅰ

設問番号			設問内容	基礎応用	出題形式	観点1	観点2	川崎市	川崎市学力層別					
大問	小問					知識・技能	思考・判断・表現		A層	B層	C層	D層	AIDの層の差	パターン判定
1	1		小数の仕組みを理解し、正しいものを選ぶ	基礎	選択式	●		50.4	82.8	60.1	39.4	19.2	63.6	Ⅰ
1	2	ア	3位数÷2位数＝2位数(あまりあり)を計算する	基礎	短答式	●		68.7	93.0	82.2	68.8	30.7	62.3	Ⅲ
1	2	イ	小数(小数第1位)－小数(小数第2位)を計算する	基礎	短答式	●		70.4	95.6	86.1	70.8	29.1	66.5	Ⅲ
1	2	ウ	小数(小数第2位)×1位数を計算する	基礎	短答式	●		69.2	91.6	80.8	69.6	34.7	56.9	Ⅲ
1	2	エ	小数(第2位)÷2位数(わり切れるまで)を計算する	基礎	短答式	●		59.4	91.0	75.0	54.5	17.2	73.8	Ⅲ
1	2	オ	帯分数－真分数を計算する(同分母分数)	基礎	短答式	●		75.0	97.7	91.6	79.1	31.7	66.0	Ⅲ
1	3		数直線の目盛りが表す数を選ぶ	基礎	選択式	●		89.2	99.1	97.0	91.9	68.7	30.4	
1	4		兆、億を組み合わせた数を選ぶ	基礎	選択式	●		75.6	93.1	85.1	76.6	47.7	45.4	
1	5		四捨五入して、27400になる数を選ぶ	基礎	選択式	●		77.1	96.9	88.5	76.4	46.5	50.4	Ⅲ
1	6		上から2桁の概数で表す	基礎	短答式	●		62.8	93.7	79.1	58.9	19.4	74.3	Ⅲ
2	1		180°より大きい角度を求める	基礎	短答式	●		64.2	95.7	84.6	60.1	16.2	79.5	Ⅲ
2	2		面積が1800cm2になる長方形を選ぶ	基礎	選択式	●		44.3	75.6	47.2	31.9	22.5	53.1	Ⅰ
2	3		1m2が1cm2の何倍かを選ぶ	基礎	選択式	●		32.6	60.9	32.4	20.8	16.5	44.4	
2	4		平行な直線を選ぶ	基礎	選択式	●		77.0	96.2	88.3	75.9	47.7	48.5	
2	5		ひし形になる対角線を選ぶ	基礎	選択式	●		86.2	97.6	93.6	87.5	65.8	31.8	
2	6		直方体の辺ABと垂直な辺を選ぶ	基礎	選択式	●		64.7	92.4	80.5	59.0	26.9	65.5	Ⅲ
2	7		空間にある点の位置について、正しいものを選ぶ	応用	選択式	●		62.9	89.6	77.7	59.7	24.5	65.1	Ⅲ
3	1		伴って変わる2つの数量で、変わり方を選ぶ	基礎	選択式	●		87.4	97.6	93.2	88.1	70.8	26.8	
3	2		伴って変わる2つの数量の関係を式に表したものを選ぶ	基礎	選択式	●		82.3	98.4	93.2	84.6	53.1	45.3	
3	3		伴って変わる2つの数量で、一方を求める	基礎	短答式	●		76.8	98.4	93.9	79.8	35.2	63.2	Ⅲ
4	1		折れ線グラフの傾きが最も大きい時間帯を選ぶ	基礎	選択式	●		57.4	86.8	70.4	50.0	22.2	64.6	Ⅲ
4	2		折れ線グラフをかく	基礎	記述式	●		43.0	86.7	58.1	23.7	3.4	83.3	Ⅱ
5	1		減法と除法の計算を使って文章題に答える	応用	記述式		●	40.3	89.2	54.1	16.2	1.6	87.6	Ⅱ
5	2		小数の乗法の計算を使って文章題に答える	応用	記述式		●	57.3	91.6	75.7	48.6	13.0	78.6	Ⅲ
6	1		直方体の縦、横、高さを表した図を選ぶ	応用	選択式	●		71.6	98.9	90.5	65.4	31.5	67.4	Ⅲ
6	2		展開図から直方体を考え、送料の求め方を説明する	応用	記述式		●	28.8	78.4	29.7	6.3	0.9	77.5	Ⅰ
7	1		百の位までの概数でおよその代金の合計を答える	基礎	記述式		●	38.0	87.5	45.0	15.9	3.6	83.9	Ⅰ
7	2		十の位までの概数でおよその代金の合計を答える	応用	記述式		●	35.5	88.4	42.0	10.2	1.3	87.1	Ⅰ

【観点別分析】

知識・技能について

大問1(2)の小数の減法、乗法、除法の正答率はそれぞれ、70.4%、69.2%、59.4%と半数以上の児童が解けています。一方でD層の正答率はそれぞれ、29.1%、34.7%、17.2%で4層分析のパターン判定はいずれもⅢでした。D層の児童は筆算の位取りに課題があると考えられます。小数の四則計算も、**整数の計算と同じ原理、手順でできるという見方を繰り返し意識づけること**が大切です。また、**既習と関連付けながら、根拠となる図、式、言葉を用いて説明する対話的な活動を行うこと**で、位取りに注意した筆算の仕組みの定着等につながることが期待できます。

大問2(3)の「1m²は1cm²の何倍か」の正答率は32.6%でした。昨年度の「1km²は1m²の何倍か」の正答率と比べると、15 ポイント上昇しました。量の大きさや図形に対する感覚を豊かにするためには、低学年から長さやかさ、広さの比較など体験的な活動を重ねることが大切です。その上で**単位変換においても、具体物を用いたり、2つの単位の関係を図、式、言葉と関連付けながら説明する対話的な活動を行ったりすること**が大切です。

思考・判断・表現について

大問6(2)の展開図をもとに、荷物の送料を考える問題の正答率は28.8%で4層分析のパターン判定はⅠでした。昨年度同様、展開図から完成する立体図形を組み立てたり、その際重なり合う辺と辺の位置関係を把握したりと、構成要素に着目して問題を解決していくことや、それを表現することに課題があります。引き続き、**図形の構成要素に着目して性質や定義を根拠に問題解決をしていくこと**が大切です。また、**図や言葉と関連付けながら、それらを表現する対話的な活動**なども大切です。

大問7(1)のおよその代金の合計を求める問題の正答率は38.0%で4層分析のパターン判定はⅠでした。四捨五入の意味や、百の位までの概数にするにはどの位に着目したらよいか、理解していない児童が多いことがわかります。また、(2)の正答率は35.5%で4層分析のパターン判定はⅠでした。目的に応じてどの範囲の概数にするのかを判断したり、その結果を見積もったりすることを、**式・言葉と関連付けながら根拠をもとに説明する対話的な活動**が大切です。また、**子どもの身近な日常生活から教材を見つけるなどして、概算の目的や良さが実感できるよう活動を工夫すること**も効果的です。

【主体的に学習に取り組む態度　質問別回答状況一覧】

質問番号	質問内容	母集団	年度・学年	肯定群回答割合（%）	選択肢別回答割合（%）					学力層別　肯定群回答割合（%）				
					よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	その他無回答	A層	B層	C層	D層	A-D層の差
1	算数・数学を使うと、複雑な問題でも簡単な式で表現できたり、わからない値が求められたりして便利だと思う。	川崎市	令和6年度・小5	90.4	57.1	31.4	7.7	1.8	2.1	98.2	95.3	90.7	76.5	21.7
2	解き方がわからない問題でも、これまでに学習したことを活用して、論理的に少しずつ解こうとしている。	川崎市	令和6年度・小5	87.9	47.7	38.4	10.0	1.8	2.1	96.7	92.7	86.7	75.0	21.7
			令和5年度・小4	90.1	52.8	34.3	7.9	1.7	3.2	96.1	94.3	91.1	77.9	18.2
3	新しい問題を解くときに、これまでに習ったことをどうやって使えば解けそうか、考えるようにしている。	川崎市	令和6年度・小5	86.2	45.4	39.0	11.6	1.9	2.1	95.0	91.1	85.6	72.4	22.6
			令和5年度・小4	86.8	47.8	36.2	10.7	2.0	3.3	93.5	91.3	86.8	74.7	18.8
4	買い物や料理、工作など普段の生活でも、学校で習った分数や割合の考え方を使って考えようとしている。	川崎市	令和6年度・小5	73.9	36.1	36.1	19.5	6.0	2.2	81.6	76.4	70.5	66.8	14.8
5	文章題で求められていることを、式に正しく表すことができたかどうかを振り返って検討するようにしている。	川崎市	令和6年度・小5	75.2	29.5	44.0	20.4	3.8	2.3	85.5	80.0	72.2	62.5	23.0
6	問題を解いた後で、もっと他の解き方はないかと工夫して考えてみることがある。	川崎市	令和6年度・小5	69.1	28.7	38.7	23.5	6.6	2.4	80.6	71.2	64.8	59.1	21.5
7	友だちと、問題の解き方やより良い解き方を伝え合っている。	川崎市	令和6年度・小5	79.7	41.7	36.0	15.3	4.5	2.5	87.5	83.1	78.3	69.3	18.2
			令和5年度・小4	80.0	42.0	34.9	14.7	4.5	3.9	87.1	85.1	78.8	68.0	19.1

※空欄の箇所は前回調査で実施していない質問項目

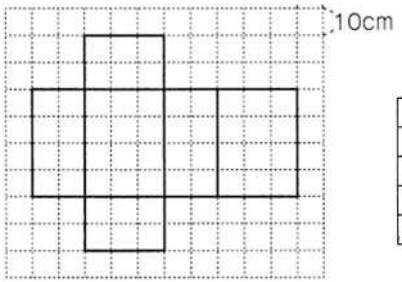
質問番号1について、4層分析のA、B、C層の肯定群回答割合が90.0%を超えているのに対し、D層は76.5%にとどまっており、学習が苦手な児童ほど算数の利便性を感じにくい傾向があることがわかります。**問題場面を数直線などに表すことで、複雑な場面が整理されたり、立式の根拠となったりすることや、式が表す意味や考えを読む活動を通して、式の良さを実感できるようにすること**が大切です。その際、取り上げる図については、児童の実態に応じて選択できるように準備しておくことも大切です。

【授業づくりのアイデア例】

設問内容：展開図から直方体を考え、送料の求め方を説明する（思考・判断・表現）

＜実際の設問＞

(2) 下の**図**は、だいちさんの家からおばあさんの家に送った直方体の荷物の箱の展開図です。上の**宅配便の送料**の**表**から、この荷物の送料を求めましょう。また、送料の求め方を、箱のたて、横、高さの辺の長さの合計を求める式と言葉を使って書きましょう。

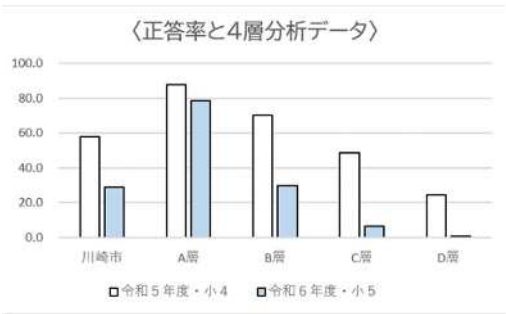


宅配便の送料

荷物の大きさ	たて、横、高さの辺の長さの合計	送料
60 サイズ	0cm をこえて 60cm まで	1200 円
80 サイズ	60cm をこえて 80cm まで	1600 円
100 サイズ	80cm をこえて 100cm まで	1800 円
120 サイズ	100cm をこえて 120cm まで	2000 円

＜正答率と４層分析データと分析結果＞

上記の問題の正答率は28．8％でパターン判定Ⅰでした。昨年度の立体図形に関する選択式の問題の正答率は57．8％で、パターン判定Ⅲでした。このことから多くの児童の理解が不十分で、解決方法を言葉で表現することに課題があると考えられます。



Ｂ－Ｄ層の児童に対して、立体図形を展開図にしたり、展開図から立体図形にしたりする活動を繰り返し行いながら、図形の構成要素に着目していくことが大切です。また、そのような活動をもとに、実際に操作をしながら構成要素を根拠に表現する、体験的で対話的な活動も大切です。

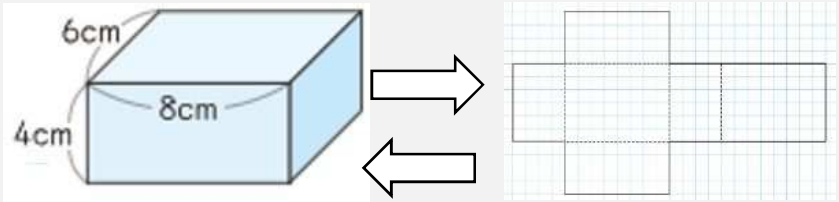
＜実態に応じた授業づくりの工夫＞

立方体の展開図から構成要素やその位置関係をよみ取るために、立体図形を展開図にしたり、展開図から立体図形を構成したりする活動を繰り返し行いながら、面がどこにあたるかや、どの辺とどの辺が重なるかといった図形の構成要素や位置関係に着目していくことが大切です。

構成要素や位置関係に着目して、図や言葉と関連付けて、根拠をもとに表現する

右のような直方体の辺にそって切り開いた形をかきましょう。

〈立体図形〉　〈児童がかいた展開図例〉



この問題は小4で学習する「立体」の単元にある問題です。本時では、直方体を構成する面や位置の関係に着目させ、どのような長方形をつなげてかけばよいか考える問題です。面をつなげてかくときは、長さの等しい共通の辺が重なることや直方体を組み立てたときにもとの立体図形になるかを確かめる活動が大切です。このように、直方体の箱を切り開く作業的・体験的な活動をもとに、構成要素や位置関係を根拠に説明する対話的な活動が大切です。また、直方体を切り開く活動でGIGA端末を用いて教科書のシミュレーション「直方体の展開図」を活用することも有効です。

【第6学年】

集計項目	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	AID層の差	パターン判定
教科総合	58.1	88.7	68.8	49.9	25.1	63.6	Ⅲ
知識・技能	65.7	93.7	79.1	59.4	30.8	62.9	Ⅲ
思考・判断・表現	33.1	72.5	35.1	18.8	6.1	66.4	Ⅰ

設問番号			設問内容	基礎応用	出題形式	観点1	観点2	川崎市	川崎市学力層別					
大問	小問					知識・技能	思考・判断・表現		A層	B層	C層	D層	AID層の差	パターン判定
1	1	ア	1.5×0.68を計算する	基礎	短答式	●		69.1	93.0	81.6	66.8	35.0	58.0	Ⅲ
1	1	イ	6.4÷5.12を計算する	基礎	短答式	●		64.2	92.8	81.5	61.0	21.4	71.4	Ⅲ
1	1	ウ	1/6＋7/8を計算する	基礎	短答式	●		78.4	97.4	93.2	83.9	39.2	58.2	Ⅲ
1	1	エ	1 3/10－4/5を計算する	基礎	短答式	●		74.2	97.0	91.0	79.1	29.6	67.4	Ⅲ
1	2		2.8を帯分数で表す	基礎	短答式	●		49.7	94.7	69.8	30.5	3.7	91.0	Ⅱ
1	3		32と56の最大公約数を求める	基礎	短答式	●		57.0	92.8	78.9	46.2	10.1	82.7	Ⅲ
2	1	ア	三角形の面積を求める式を選ぶ	基礎	選択式	●		79.7	98.1	90.8	78.3	51.6	46.5	
2	1	イ	台形の面積を求める式を選ぶ	基礎	選択式	●		83.7	99.2	96.1	87.2	52.3	46.9	
2	2		直方体を組み合わせた立体の体積を求める	応用	短答式		●	62.1	94.9	82.1	57.4	14.1	80.8	Ⅲ
2	3	ア	合同な四角形の辺の長さを選ぶ	基礎	選択式	●		93.2	98.9	97.9	96.8	79.2	19.7	
2	3	イ	合同な四角形の角の大きさを選ぶ	基礎	選択式	●		92.4	98.9	97.2	95.2	78.2	20.7	
2	4		二等辺三角形の内角を求める	基礎	短答式	●		72.9	98.7	94.5	74.6	23.7	75.0	Ⅲ
2	5		円柱の展開図で側面の横の長さを選ぶ	基礎	選択式	●		54.9	89.7	64.2	41.0	24.7	65.0	Ⅰ
3	1		ガソリン1Lあたり何km走れるかを求める	基礎	短答式	●		63.9	96.6	84.8	61.4	12.8	83.8	Ⅲ
3	2		試合の数をもとにしたときの勝った数の割合を選ぶ	基礎	選択式	●		64.4	97.2	80.9	53.2	26.2	71.0	Ⅱ
3	3		もとにした先月の読書量を選ぶ	基礎	選択式	●		52.0	80.7	56.2	44.8	26.4	54.3	Ⅰ
3	4		20%引きされたときの代金を求める	応用	短答式	●		53.8	98.6	80.4	31.4	4.7	93.9	Ⅱ
3	5		正しい時速を選ぶ	基礎	選択式	●		83.9	99.8	96.5	85.8	53.4	46.4	
4	1		最高気温の平均を求める	基礎	短答式	●		64.5	93.8	80.7	61.7	21.8	72.0	Ⅲ
4	2		りんご40個の合計の重さを選ぶ	基礎	選択式	●		40.7	65.5	41.7	29.5	26.1	39.4	
4	3	ア	ぶどうの産出額の割合で正しいものを選ぶ	基礎	選択式	●		88.4	98.7	96.7	91.2	67.0	31.7	
4	3	イ	みかんの産出額がなしの何倍かを求める	基礎	短答式	●		55.8	94.5	76.8	44.1	7.8	86.7	Ⅲ
4	4	ア	サッカーが好きな人の人数を求める	基礎	短答式	●		35.8	91.2	45.1	6.4	0.4	90.8	Ⅰ
4	4	イ	バスケットボールが野球より何人多いかを選ぶ	基礎	選択式	●		39.2	86.1	41.7	15.1	14.1	72.0	Ⅰ
5	1		ジュースが何本のびんに分けられ何L余るかを求める	応用	記述式		●	39.9	82.9	52.6	21.4	2.8	80.1	Ⅱ
5	2		正方形をつくるための長方形の最小の数を選ぶ	応用	選択式		●	43.1	80.3	47.6	28.5	16.0	64.3	Ⅰ
6	1		缶が2つのときの紙の大きさの説明を完成させる	基礎	短答式		●	22.9	63.0	18.6	7.2	2.8	60.2	Ⅰ
6	2		考え方が正しいかどうかを選び理由も答える	応用	短答式		●	27.2	70.0	21.9	11.3	5.7	64.3	Ⅰ
7	1		ひなたさんの考え方にあてはまる式と答えを求める	応用	記述式		●	17.3	59.7	8.7	0.9	0.0	59.7	Ⅰ
7	2		ゆきとさんの予想で正しいものを選び理由も答える	応用	記述式		●	19.2	56.3	14.5	4.7	1.3	55.0	Ⅰ

【観点別分析】

知識・技能について

大問1(1)イの正答率は64.2%であり、A層の正答率は92.8%、D層の正答率は21.4%、パターン判定はⅢでした。昨年度の小数(第2位)÷1位数を問われた設問もパターン判定はⅢであることから、小数の除法について**「0.01に着目してそのいくつ分」かで考え、整数の計算に帰着すれば良いことに気付かせること**が大切です。低学年から数のまとまりなどに着目して既習の計算をもとに同じ手順で演算することができるなど、四則計算の仕組みにおいて知識・技能の定着を図るための時間を十分に確保することが必要です。

大問 1(1)エの正答率は 67.4%であり、A層の正答率は 97.0%、D層の正答率は 29.6%と、パターン判定はⅢでした。昨年度の「帯分数―真分数(同分母分数)」の設問もパターン判定はⅢでした。さらに、大問 1(2)の小数を帯分数に表す設問のD層の正答率は 3.7%でした。分数と小数は、例えば0.5と 1/2 のように表記が異なっていても、表す量の大きさなどが等しい場合があることを、**具体物の操作や数直線等とつなげて大小関係や数量関係を比較、説明する活動**を通して実感できるようにすることが大切です。

思考・判断・表現について

大問7(1)は、ある地域の人口とその地域の65才以上の人口の割合について、登場人物の考えに合う式と答えを求める問題でした。正答率は全体で17.3%でした。4層分析のA層の正答率は59.7%、D層は0%であり、無回答率が67.6%と高く、4層分析のパターン判定はⅠでした。昨年度出題された類似問題(表を読み取り折れ線グラフをかく問題)では、正答率は全体で、34.5%、A層が79.9%、D層が2.4%と、4層分析のパターン判定は今年度同様Ⅰでした。このことから、多くの児童が**説明を聞いて表やグラフの数値が表している意味を捉えることや、表やグラフのどの部分について説明しているのかを把握できないこと**が考えられます。

また、大問7(1)の誤答の中で多かったものは、割合を求める際に、基準量÷比較量になってしまっているものでした。これは、**問題文の中でどの数が基準量・比較量になるか、数量関係を捉えることができていない**からだといえます。低学年の「倍」の指導から、何を基準量としているのかを、場面絵や関係を簡潔に表す図、数直線といった**図等に表現して数量関係を整理することや、そのよさを実感させる指導**が大切です。

【主体的に学習に取り組む態度　質問別回答状況一覧】

質問番号	質問内容	母集団	年度・学年	肯定群回答割合（%）	選択肢別回答割合（%）					学力層別　肯定群回答割合（%）				
					よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	その他無回答	A層	B層	C層	D層	A-D層の差
1	算数・数学を使うと、複雑な問題でも簡単な式で表現できたり、わからない値が求められたりして便利だと思う。	川崎市	令和6年度・小6	89.1	55.8	32.1	8.8	2.0	1.3	97.8	94.8	89.9	73.3	24.5
			令和5年度・小5	89.8	56.5	31.5	8.3	1.7	2.0	98.2	95.6	90.3	74.3	23.9
2	解き方がわからない問題でも、これまでに学習したことを活用して、論理的に少しずつ解こうとしている。	川崎市	令和6年度・小6	85.3	42.4	41.7	12.5	2.0	1.4	96.5	91.2	84.8	68.2	28.3
			令和5年度・小5	89.2	50.2	37.2	9.0	1.6	2.1	96.9	93.1	89.4	76.6	20.3
3	新しい問題を解くときに、これまでに習ったことをどうやって使えば解けそうか、考えるようにしている。	川崎市	令和6年度・小6	85.4	43.6	40.6	12.3	2.1	1.4	95.6	91.0	84.9	69.7	25.9
			令和5年度・小5	86.4	45.3	39.3	11.3	2.0	2.0	95.2	90.8	86.7	72.1	23.1
4	アンケート結果をもとに自分たちで結果をまとめたり考察したりするときには、統計の考え方を生かしている。	川崎市	令和6年度・小6	66.5	28.6	36.9	25.5	7.6	1.5	75.9	70.3	63.2	56.2	19.7
5	文章題で求められていることを、式に正しく表すことができたかどうかを振り返って検討するようにしている。	川崎市	令和6年度・小6	70.9	24.8	45.0	24.1	4.5	1.5	83.9	74.4	69.0	55.8	28.1
			令和5年度・小5	77.6	31.5	44.3	18.3	3.6	2.2	87.2	81.0	76.5	64.7	22.5
6	1つの問題について、これまで習ったことを工夫して使えば、いろいろな解き方があると気づくことがある。	川崎市	令和6年度・小6	75.0	33.3	40.6	20.6	4.0	1.5	88.8	81.1	72.2	57.4	31.4
7	問題を解いた後で、もう一度解き方を振り返って、良いところと間違っているところやもっと工夫ができることを見つけ出して、より良い解き方を考えるようにしている。	川崎市	令和6年度・小6	62.6	23.7	37.9	27.9	8.9	1.6	78.8	66.6	57.7	47.0	31.8

※空欄の箇所は前回調査で実施していない質問項目

質問番号2では、A－D層の差は 28.3 ポイントでした。令和5年度と比較すると、差が8ポイント広がっています。新しい学習内容に出会った際にどうしたらよいかわからない児童の姿が表れていると考えられます。**解き方がわからない時に、既習を生かしてみる、図や数直線を用いて少しずつ場面を整理してみるなど、まず、自分の考えをもてるようにするための手立てを講じていくこと**が必要です。このような粘り強く取り組む姿勢を価値付けながら、児童の考えで作り上げる授業を実践していくことが大切です。

【授業づくりのアイデア例】

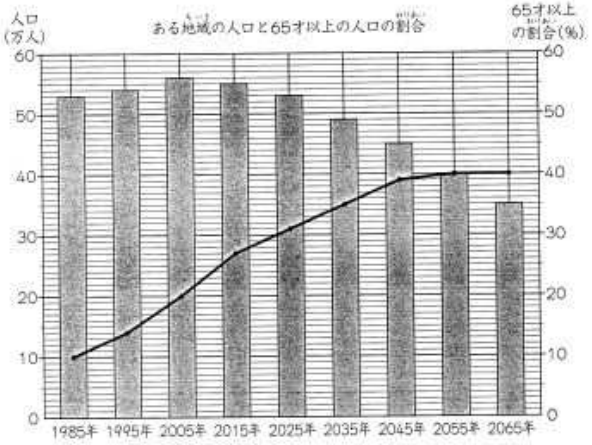
設問内容：除法の計算を使って文章題に答える（思考・判断・表現）

＜実際の設問＞

7 ひなたさんの地域の新聞に、次のような「地域の人口と65才以上の人口の割合」についてのデータがありました。**棒グラフ**は人口を、**折れ線グラフ**は65才以上の人口の割合を示しています。1985年から2015年までは、国の調査の結果をもとにしたもので、2025年以降は予測した数値です。これについて、次の問いに答えましょう。

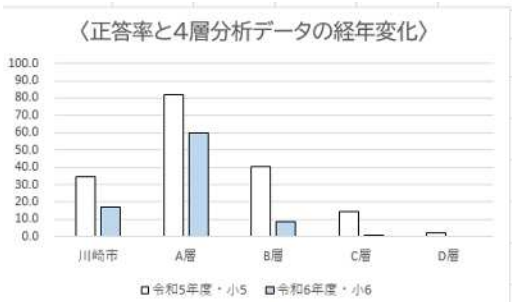
(1) 上の**グラフ**を見て、ひなたさんは次のように言いました。

あにあてはまる数を求める式と、その答えを書きましょう。



＜正答率と４層分析データと分析結果＞

４層分析からA－B層の差が約50ポイントあることが分かります。また、昨年度の類似問題でもA－B層の差が約40ポイントありました。このことから児童の理解が低い課題であるほど、算数が得意な一部の児童だけで授業が進んでいる状況が考えられます。



基準量・比較量・割合の関係を児童が捉えられているか、丁寧に問い返しながら、D層の児童を中心とした学級全体を巻き込んだ指導を展開することが大切です。このような場面では、文章の読み取り以外にも、グラフを読み取り、割合の場面であることを把握し、基準量・比較量・割合の関係を整理していく必要があります。そのため、解決する方法の見通しが立てられない際の手立てを事前に考えておくことが大切です。

＜実態に応じた授業づくりの工夫＞

解決する方法の見通しが立てられないとき、まずは図に表現することで数量関係を整理しやすくなります。数量関係を整理できれば、立式にもつながります。

図から数量関係を把握する

（れおさんのゴムひもは、もとの長さが10㎝で、いっぱいまでのばした長さが30㎝でした。）
㋐と㋑のゴムひもをいっぱいまでのばした長さは、下の表のとおりです。
れおさんのゴムひもと同じのび方をしているのは、どちらのゴムひもでしょうか。

	もとの長さ	のばした長さ
㋐	6	18
㋑	4	16

この問題は、小4の「くらべ方」の単元に昨年度まであった問題です。問題となる表やれおさんのゴムひもなど、比べる対象となる数量が多いため、解決の見通しがもてない児童がいると予想されます。しかし、一つずつ図等に表して数量関係を把握していくと、問題場面が整理され、図等で表すよさが感じられます。数直線で表すことが難しい児童には、図1のような関係を簡潔に表す図を活用して、問題場面を整理することも有効です。この経験を積み重ねることで、図を使った場面の把握から立式へとつなげていこうとする主体的な態度の育成につながることが期待できます。

図1　れおさんの場合
10㎝　⇒　30㎝
3倍

【学習意識調査から】

質問番号:【84】
質問内容:算数・数学の授業で文章や式、図や表などを組み合わせて自分の考えを説明したことがある。

＜肯定的な回答割合・4層分析＞

年度・学年	川崎市	A層	B層	C層	D層	A-Dの差
令和6年度小4	69.2	82.7	74.3	65.5	54.1	28.6
令和6年度小5	69.9	87.9	76.7	66.1	49	38.9
令和5年度小4	71.7	83.9	76.9	69.3	56.6	27.3
令和6年度小6	67.3	88.6	77.2	61.1	42.5	46.1
令和5年度小5	69.2	87.1	77.4	65.9	46.6	40.5

＜分析結果＞

質問番号84の令和6年度肯定的な回答割合は、小4は69.2%、小5は69.9%、小6は67.3%でした。また、3学年ともにA－D層の差が20ポイント以上あることがわかります。

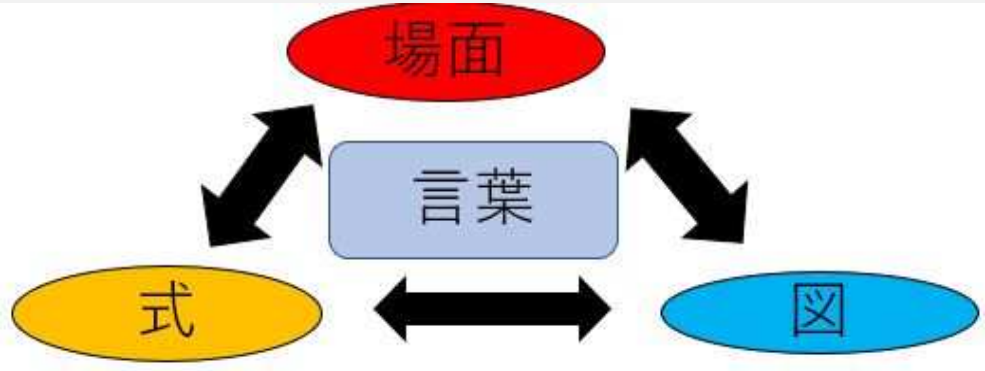
同一母集団の経年変化を見ると、令和5年度小4と令和6年度小5のA－D層の差は27.3⇒38.9、令和5年度小5と令和6年度小6のA－D層の差は40.5⇒46.1となり、A－D層の肯定的な回答割合の差は広がっています。さらにA、B層だけを見ると、肯定的な回答割合はほぼ前年と同率ですが、C、D層に着目すると、肯定的な回答割合は昨年度と比べて下がっていることがわかります。

このことから、算数の理解度が低い児童ほど、図・式・言葉などを用いて説明したり、それらを関連付けながら問題解決をしたりすることが苦手であり、学年が上がるとその傾向がより顕著であるといえます。

＜実態に応じた授業づくりの工夫＞

場面・式・図と言葉を関連付けて考える（説明する）

低学年のうちから場面と式と、図を行き来しながら、この数は図で言うとどの部分に当たるのか、場面のどこの数なのかを明らかにしながら具体的な数のもつ意味や図の意味を考えていくことが必要です。



しかし、算数の理解度が低い児童にとって、場面や式、図など関連付ける以前に、その一部の理解だけで精一杯になってしまうことも考えられます。そのため、例えば図にも系統性があること（図1）を意識し、どの学年で学習した図なら理解できるか等を考慮して学習を展開していくことが考えられます。その上で、わからない児童が学習に参加できるために、周りの児童が場面と式や図等を関連付けられるよう問い返しながら、分かりやすく、簡潔に、筋道立てて説明することができるように、支援していくことが大切です。

第１学年	アレイ図（○図）、場面絵
第２学年	テープ図
第３学年	線分図、数直線
第４学年	面積図

（図１）

4　小学校全般を通して～観点別分析～

【知識・技能について】

各教科の特徴

＝国語＝

漢字の読みの平均正答率は4学年85．9％、5学年83．6％、6学年90．2％と、**漢字の読みはかなり定着**しています。しかし、知識・技能全体の平均正答率は4学年77．3％、5学年69.1％、6学年64．9％で、D層の平均正答率は4学年45．5％、5学年42．5％、6学年39．9％と、学年が上がるにつれて、減少傾向にあります。学年が上がるにつれて難しくなる、**漢字の書きや言葉の特徴や使い方、情報の扱い方などに課題があること**が分かります。日頃の学習を丁寧に進めていくこと、**D層の児童への支援をしっかりと行うこと**が必要です。

＝算数＝

各学年の知識・技能の平均正答率は、参加自治体全体と比べて同等、もしくは上回る結果となりました。計算問題における各学年の平均正答率が4学年 75.9％、5学年63．6％、6学年 67.0％となり、**四則計算に関する基礎基本の定着に課題がある**と考えます。原因としては、**位の数が大きさや小数点の処理の仕方等**が考えられます。また、D層の児童の正答率は3割程度と他の層に比べて大きく下がっています。このことについては、昨年度の調査においても同様の傾向にあります。さらに、また、4層分析のパターン判定に着目すると、5学年と6学年がパターン判定Ⅲとなっております。以上のことから、引き続き、**D層の児童に対して手立てを講じることが必要**です。

授業改善の手立てについて

＝国語＝

〇習得した言語を定着できるように、繰り返し学習に取り組むこと。

〇GIGA端末で文章を書いた時、誤変換された漢字をそのまま使う児童の姿がよくみられるので、普段から分からない字を調べたり、習った字を積極的に使ったりする習慣をつけ、漢字の定着を図ること。

〇単元の中で得た知識を次の単元で活用するための場面を設定したり、学習した言語を日常生活に生かせるように、身近な教材の中で知識を活用する場面を設定したりすること。

＝算数＝

〇数と計算領域の四則計算において、低学年から計算の意味や計算の仕方について、充実を図ること。特に、繰り上がり、繰り下がりの理解や桁数が増えた際の数の処理については、位取り表やブロックや図などを用いて視覚的に計算の過程を確認したりすること。

〇前年度までの学習内容を確実に定着できるように、例えば、GIGA端末のドリルパークに取り組むなど、繰り返し行ったり、未習の学習内容に対して既習を想起させ、活用したりしながら解決していくこと。

＜授業改善のポイント＞

〇単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して授業をデザインして、**評価場面を明確**にします。そのためには、単元の前に身に付けさせたい資質・能力を具体的な児童の姿でイメージしておくことが重要です。

〇知識・技能が習得できるようにするために、**GIGA端末の学習ソフト（例　ドリルパーク）等に取り組む場面を設けるなど一人一人の学習状況に応じた課題に取り組むことができる環境を整えること**が大切です。

〇知識・技能の定着を促すには理解することだけに留めず、**学習したことを日常生活や他の学習で活用できる喜びを実感させること**が大切です。そのために、教員が学習内容を深く理解する事や習得した知識・技能と日常や他の学習とのつながりを意識することなどが重要です。

【思考・判断・表現について】

各教科の特徴

＝国語＝

「話すこと・聞くこと」の領域において、A－D層の差が4学年29．3ポイント、5学年45．8ポイント、6学年34．3ポイントであり、D層の平均正答率は4学年68．0%、5学年50.3%、6学年55．5%です。いずれの学年も4層の差が50ポイント以内であること、D層の平均正答率が高いことから、日頃の授業でグループワークを通して意見交流を行ったり、発表の場や話を聞く場面を設けたりしてきた成果であると捉えております。課題としては、昨年度同様、「書くこと」「読むこと」の領域において、全ての学年でA－D層の差が50ポイントを超えていること、記述式の平均正答率が低く、無解答率も高いことが挙げられます。**「書くこと」「読むこと」の領域においての授業改善が必要**です。

＝算数＝

各学年の思考・判断・表現の平均正答率は、参加自治体全体と比べて上回る結果となりました。しかし、思考・判断・表現の平均正答率は、4学年 59.4%、5学年 40.0%、6学年 33.1%で、高い数値とは言えない状況です。また、4層分析に着目すると、4学年はパターン判定がⅢ、5学年と6学年はパターン判定がⅠとなっています。このパターン判定は、昨年度と同様の結果となっています。特にD層の平均正答率は、4学年23．6%、5学年4．1%、6学年6．1%で課題があると考えられます。また、無回答率については、学年が進むにつれて高くなり、6学年D層においては、無回答率が50%前後という設問も少なくない状況です。これらのことから、的確な課題把握はもちろんのこと、**児童が自分の考えをもち、その部分について表現することに課題がある**と考えられます。

授業改善の手立てについて

＝国語＝

〇自分の考えとそれを支える理由や事例を整理し、書いたり、推敲したりする学習活動を位置付けること。また、低学年から「自分の考え」と「わけ」を書く経験を積むなど、系統的に書く力を身に付けていくこと。

〇物語の学習において登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述を結び付け、それらを基に性格や考え方などを総合して判断すること。

〇複数の資料の情報を関連付けて、自分の言葉でまとめたり、自分の考えを表現したりすることにも課題があるため、日頃の授業から、様々な教材を比べて考察し、自分の考えを発信するような場面を設定すること。

＝算数＝

〇児童が文章問題の場面を的確に把握するために、場面絵や数直線図などを実態に応じて取り入れること。

〇授業における集団思考の際に「式のみ」で問題解決へつないだりせず、既習事項（図など）と関連付けて確認をしたり、簡単な場面に置き換えて説明させたりすること。なお、すべての児童が学習に取り組みやすくするために、集団思考の前に、ねらいを明確にしたペア学習やグループ学習を必要に応じて取り入れること。

〇A層の児童が表現する図や式は、抽象度が高い場合が多く、算数を苦手としている児童にとって理解が難しいと考えられる時もあるため、根拠を基に筋道立てて考える際の取り上げる表現方法を算数が苦手な児童の思考に寄り添い、具体物や半具体物、図等について丁寧に段階を踏んでいくこと。

＜授業改善のポイント＞

○児童生徒が**自身の考えをまとめたり表現したりする時間の確保**が大切です。また、その際に、習得した知識・技能を活用して課題解決を図れるよう、教室掲示や学習ノートなどに残された**既習事項を確認する態度を価値付けること**などが大切です。

○教員は、児童同士をつなげる役割を十分理解し、授業に臨むことが必要です。そのために、**学習が苦手な児童が何につまずいているのかを的確に把握**し、問題解決につながる意見を取り上げ、学級全体で考えをつないでいくように授業を展開していくことが大切です。

○**児童自身が自らの学びを学習内容に応じた視点で振り返り、次の学びに向かうことができるようにする指導の充実を図ること**が大切です。単元全体を見通して、**振り返りをさせるタイミングや内容について計画的に位置付けること**が大切です。また、その振り返りを教員が確認し、次の授業に生かしていくことも有効です。

小学校 社会

【学習意識調査から】

【教科の理解度】＜肯定的な回答割合と4層分析データから＞

令和6年度現学年	年度・学年	肯定的な回答割合(平均値)	4層分析の肯定的な回答割合			
			A層	B層	C層	D層
小4	令和6年度・小4	82.1	92.1	86.1	80.4	69.6
小5	令和6年度・小5	83.7	94.1	87.0	81.8	72.0
	令和5年度・小4	81.2	91.3	85.8	78.7	68.9
小6	令和6年度・小6	86.6	94.7	90.8	85.4	75.8
	令和5年度・小5	83.5	93.6	87.2	82.9	70.5

＜分析結果＞

理解度では、肯定的な回答割合は全学年で80%を超えています。同一母集団の経年変化で見ても、小5は2．5ポイント、小6は3．1ポイント上昇しました。一方で、4層分析で見ると、どの学年もC層までの理解度が80%を超えていますが、D層との差を見ると約10ポイント近く下回っています。

資料の読み取り方を指導しながら分かったことを共有したり、学習問題の解決に向けて分かったことを図で表したりする手立てなどを工夫することが大切になります。

【学習方略】＜肯定的な回答割合と4層分析データから＞

社会の授業で、いま、世の中で起こっていることについて、資料をもとにして考えることがある。

令和6年度現学年	年度・学年	肯定的な回答割合(平均値)	4層分析の肯定的な回答割合			
			A層	B層	C層	D層
小4	令和6年度・小4	52.2	55.4	52.7	50.7	50.2
小5	令和6年度・小5	62.0	69.3	63.8	60.5	54.6
小6	令和6年度・小6	73.3	79.7	78.5	73.1	61.8

＜分析結果＞

肯定的な回答割合は、第4、5、6学年の順に約10ポイントずつ高くなっています。学習内容と世の中で起きていることを関連付けて考える活動を工夫することが大切です。

＜実態に応じた授業づくりの工夫＞

社会では、社会的事象から学習問題を見いだし、問題解決の見通しをもって他者と協働的に追究する学習過程を通して、社会生活について理解することができるようにします。問題解決的な学習の充実が、全ての児童にとって「分かる」授業につながっていきます。また、学習内容に応じた資料を読み取る技能を繰り返し高めていくことが大切になります。

地図や統計等の資料を調べたり、資料を基に学習問題と関連付けて考え表現したりする活動を取り入れ、問題の解決に向けて友達と話し合ったり、今の社会生活や世の中で起きていることと結び付けたりする工夫が考えられます。

小学校　理科

【学習意識調査から】

【教科の理解度】＜肯定的な回答割合と4層分析データから＞

令和6年度現学年	年度・学年	肯定的な回答割合(平均値)	4層分析の肯定的な回答割合			
			A層	B層	C層	D層
小4	令和6年度・小4	90.0	95.6	92.7	89.6	82.4
小5	令和6年度・小5	90.8	96.2	92.7	89.3	85.1
	令和5年度・小4	90.4	96.2	92.5	90.0	82.8
小6	令和6年度・小6	87.8	94.3	89.7	85.3	81.8
	令和5年度・小5	89.8	94.8	91.2	89.5	83.7

＜分析結果＞

理解度では、肯定的な回答割合は、どの学年も高い状況にあります。また、同一母集団の経年変化に着目すると、令和5年度の小4から令和6年度の小5にかけては、D層において肯定的な回答の割合に増加が、令和5年度の小5から令和6年度の小6にかけては、各層において肯定的な回答の割合に減少が見られることから、例えば、小5の「条件制御」について、難しさを感じたり、理解が十分でない児童がいることが考えられます。条件制御について丁寧に指導し、とりわけC層、D層に対する個別最適な学びの充実を工夫をすることが大切になります。

【学習方略】＜肯定的な回答割合と4層分析データから＞

理科の授業で、実験や調査に取り組む前に、仮説を立て結果を予想している。

年度・学年	肯定的な回答割合(平均値)	4層分析の肯定的な回答割合			
		A層	B層	C層	D層
令和6年度・小4	87.5	95.9	91.0	86.5	76.3
令和6年度・小5	91.4	97.1	94.1	92.0	82.7
令和6年度・小6	88.3	95.4	92.3	87.5	78.1

＜分析結果＞

肯定的な回答割合は、平均値及び各層において、小5が高い傾向が見られます。小4で重視する「根拠のある予想や仮説を発想すること」を意識した授業が行われていると考えられます。

＜実態に応じた授業づくりの工夫＞

理科では、問題解決の過程を通して資質・能力を育む授業づくりを工夫することが重要です。 その際、小3は比較しながら調べる活動を通して問題を見いだし、表現すること、小4は関係付けて調べる活動を通して予想や仮説を基に、根拠のある予想や仮説を発想し、表現すること、小5は条件を制御しながら調べる活動を通して、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現すること、小6は多面的に調べる活動を通してより妥当な考えをつくりだし、表現することに留意する工夫が大切になります。

小学校　音楽

【学習意識調査から】

【教科の理解度】＜肯定的な回答割合と4層分析データから＞

令和6年度現学年	年度・学年	肯定的な回答割合(平均値)	4層分析の肯定的な回答割合			
			A層	B層	C層	D層
小4	令和6年度・小4	86.3	90.8	87.7	87.3	79.3
小5	令和6年度・小5	86.9	91.5	88.3	86.7	81.2
	令和5年度・小4	86.9	91.4	88.3	86.9	80.9
小6	令和6年度・小6	84.0	87.5	85.4	83.1	79.9
	令和5年度・小5	85.8	90.1	87.7	85.9	79.6

【教科の好感度】＜肯定的な回答割合と4層分析データから＞

令和6年度現学年	年度・学年	肯定的な回答割合(平均値)	4層分析の肯定的な回答割合			
			A層	B層	C層	D層
小4	令和6年度・小4	79.8	83.4	80.2	81.0	74.7
小5	令和6年度・小5	78.0	80.2	79.3	78.6	74.1
	令和5年度・小4	80.3	82.7	81.3	80.1	76.8
小6	令和6年度・小6	73.6	75.1	75.6	72.9	70.7
	令和5年度・小5	76.7	79.4	78.1	76.7	72.6

＜分析結果＞

理解度では、A－D層の差が11ポイント以下であり、小5、小6においては、前年度に比べてD層の値が0.3ポイント上昇しました。好感度では、A層からD層にいくにつれ数値が下がっており、小5、小6ともに前年度に比べ下降傾向となっています。

【問題解決力】＜肯定的な回答割合と4層分析データから＞

自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えることができますか。

年度・学年	肯定的な回答割合(平均値)	4層分析の肯定的な回答割合			
		A層	B層	C層	D層
令和6年度・小4	69.6	79.4	72.1	66.5	59.9
令和6年度・小5	67.0	79.7	69.7	63.5	55.2
令和6年度・小6	64.6	78.8	67.6	60.7	51.0

＜分析結果＞

学年が上がるにつれ、肯定的な回答割合が低くなっています。音楽科においても、音や言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けることが大切です。

＜実態に応じた授業づくりの工夫＞

音楽科において、児童が育成を目指す資質・能力を身に付けるためには、多様な活動を通して、音楽活動の楽しさを体験することが大切です。さらに、適切な時点での学習の見通しと振り返りを行うことで、児童が自分の学習状況を把握し、「わかった」と実感することにつながります。また、音楽科の特質に応じた言語活動は、表現及び鑑賞を深めていく際に重要であり、理解度の向上にも資する活動です。特にD層の児童に向けた手立てとして、児童の表現でうまくできていることについて積極的に認めて価値付けを行い、児童自身が音楽に対する気付きを音や言葉で表出できるよう促すなど、具体的な働きかけを行うことにより、自分の考えをもったり、それを表出したりする力の向上が期待できます。

小学校　図画工作

【学習意識調査から】

【教科の理解度】＜肯定的な回答割合と4層分析データから＞

令和6年度現学年	年度・学年	肯定的な回答割合(平均値)	4層分析の肯定的な回答割合			
			A層	B層	C層	D層
小4	令和6年度・小4	92.2	93.3	93.2	92.6	89.7
小5	令和6年度・小5	93.6	94.9	94.4	93.6	91.5
	令和5年度・小4	92.9	94.4	93.7	93.1	90.5
小6	令和6年度・小6	91.9	91.2	92.7	92.2	91.6
	令和5年度・小5	92.5	93.3	93.6	92.9	90.1

【教科の好感度】＜肯定的な回答割合と4層分析データから＞

令和6年度現学年	年度・学年	肯定的な回答割合(平均値)	4層分析の肯定的な回答割合			
			A層	B層	C層	D層
小4	令和6年度・小4	88.9	87.5	89.3	89.3	89.4
小5	令和6年度・小5	88.1	87.4	88.3	88.7	88.2
	令和5年度・小4	89.5	88.3	89.4	90.2	90.3
小6	令和6年度・小6	83.5	79.1	84.0	84.5	86.6
	令和5年度・小5	87.3	84.8	87.8	88.0	88.3

＜分析結果＞

理解度は、全学年で90%を超えています。同一母集団の経年変化に着目すると、小5は0．7ポイント上昇しました。好感度は、全学年で80%を超えています。

【社会的実践力】＜肯定的な回答割合と4層分析データから＞
いつも新しいアイディアを考えたり、工夫したりしている。

年度・学年	肯定的な回答割合(平均値)	4層分析の肯定的な回答割合			
		A層	B層	C層	D層
令和6年度・小4	75.1	81.8	78.6	73.3	66.9
令和6年度・小5	74.7	82.2	76.1	73.8	66.9
令和6年度・小6	72.3	79.1	76.0	70.8	63.6

＜分析結果＞

学年が上がるにつれ、肯定的な回答割合が低くなりました。「いつも新しいアイディアを考えたり、工夫したりしている。」ことは、図画工作科において、豊かに発想して構想を練ることにつながります。

＜実態に応じた授業づくりの工夫＞

図画工作科では、つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養いながら、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにすることを目標としています。

例えば、楽しく主体的に学習に取り組めるよう、題材との出合わせ方を工夫したり、表現方法の特徴をイメージできるように黒板やGIGA端末で示したりすることが考えられます。

小学校　体育

【学習意識調査から】

【教科の理解度】<肯定的な回答割合と4層分析データから>

令和6年度現学年	年度・学年	肯定的な回答割合(平均値)	4層分析の肯定的な回答割合			
			A層	B層	C層	D層
小4	令和6年度・小4	93.5	94.6	93.7	94.4	91.5
小5	令和6年度・小5	93.2	93.7	93.2	94.1	92.2
	令和5年度・小4	93.7	94.5	94.2	94.2	91.8
小6	令和6年度・小6	90.0	87.4	90.6	91.4	90.9
	令和5年度・小5	92.6	92.6	93.3	92.9	91.6

【教科の好感度】<肯定的な回答割合と4層分析データから>

令和6年度現学年	年度・学年	肯定的な回答割合(平均値)	4層分析の肯定的な回答割合			
			A層	B層	C層	D層
小4	令和6年度・小4	89.5	87.8	89.2	91.1	90.2
小5	令和6年度・小5	86.8	83.5	85.7	88.6	89.5
	令和5年度・小4	93.7	94.5	94.2	94.2	91.8
小6	令和6年度・小6	81.7	76.8	80.8	83.9	85.6
	令和5年度・小5	92.6	92.6	93.3	92.9	91.6

<分析結果>

理解度の肯定的な回答割合は、全学年で90%を超えており、A層－D層の差も小さいため、多くの児童が「わかる」を実感できる授業が展開されていると推測されます。

好感度の肯定的な回答割合は、肯定的な回答割合は全学年で80%を超えていますが、A層の数値が他の層よりも低くなっています。苦手意識をもっている児童への一層の配慮が必要です。

<実態に応じた授業づくりの工夫>

体育科では、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目標としています。

授業では、各領域の特性に応じた楽しさを味わい、その学習が好きになるような授業づくりを行います。特に、運動に苦手意識をもっている児童に配慮し、誰もが安心して学習できる場や用具の工夫、みんなで楽しめるルールの工夫などを行います。運動やスポーツは「すること」だけでなく「みること」「支えること」「知ること」など多様な関わり方や楽しみ方があります。仲間の動きを見てアドバイスをしている姿、頑張っている仲間に声援を送る姿、チームの特徴を捉え作戦を提案する姿なども見逃さず、しっかり価値付けることが大切です。

小学校　家庭

【学習意識調査から】

【教科の理解度】＜肯定的な回答割合と4層分析データから＞

令和6年度現学年	年度・学年	肯定的な回答割合(平均値)	4層分析の肯定的な回答割合			
			A層	B層	C層	D層
小6	令和6年度・小6	87.8	89.7	90.0	88.5	83.2

＜分析結果＞

理解度では、肯定的な回答割合は80%を超えています。A層からD層にかけて肯定的な回答割合が低くなっています。A－Dの差は6ポイント以上開いていることがわかり、D層への支援が必要となっています。

【教科の好感度】＜肯定的な回答割合と4層分析データから＞

令和6年度現学年	年度・学年	肯定的な回答割合(平均値)	4層分析の肯定的な回答割合			
			A層	B層	C層	D層
小6	令和6年度・小6	83.0	82.7	85.0	83.6	80.9

＜分析結果＞

好感度では、肯定的な回答割合は80%を超えています。A層からD層にいくにつれ、差異はほとんど見られません。 80%以上の児童が家庭科を好きと感じて授業に取り組んでいることがわかります。

※小4、小5は調査無し

【学習方略】＜肯定的な回答割合と4層分析データから＞
授業で習ったことをふだんの生活と結びつけて考えている。

令和6年度現学年	年度・学年	肯定的な回答割合(平均値)	4層分析の肯定的な回答割合			
			A層	B層	C層	D層
小5	令和6年度・小5	68.2	75.5	69.8	67.6	60.3
小6	令和6年度・小6	65.2	73.2	68.8	62.8	56.1

＜分析結果＞

肯定的な回答割合は小5、小6ともに65%程度で、学年が上がるにつれて低くなっています。各学年ともA層からD層にいくにつれ、肯定的な回答割合が低くなっています。授業で学んだことを実生活で活用することが課題となっていることがわかります。

＜実態に応じた授業づくりの工夫＞

家庭科では、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、よりよい生活の実現を目指しています。そのため、学習内容を日常生活と関連付け、何のために学習するのか、どんな資質・能力を身に付けることができるかをあらかじめ示すことで、家庭科を学習する必要感を高めることができます。

また、児童が衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して習得した知識及び技能が、生活の自立につながるように指導計画を立てることが重要となってきます。児童同士で協働したり、意見を共有して互いの考えを深めたり、家族や身近な人々との会話を通して考えを明確にすることにより、家庭分野で身に付けた力を家庭生活で生かすことにつながると考えられます。支援が必要な生徒へは、わからない、できないことをそのままにしない手立てとして、GIGA端末に動画や静止画の資料を用意することも効果的です。

小学校　外国語

【学習意識調査から】

【教科の好感度】＜肯定的な回答割合と4層分析データから＞

令和6年度現学年	年度・学年	肯定的な回答割合(平均値)	4層分析の肯定的な回答割合			
			A層	B層	C層	D層
小6	令和6年度・小6	63.9	67.4	69.2	63.4	55.9
中1	令和5年度・小6	63.9	67.8	68.4	64.3	55.3

※小4、小5学年は調査無し

＜分析結果＞

本項目は小6のみの内容となるため、同一母集団における経年変化を見ることはできませんが、令和5年度の小6と比較すると大きな差はありませんでした。

なお、A層からC層は大きな差はありませんが、C－D層の差が7．5ポイントと大きくなっています。楽しく授業に取り組む児童に混ざり、英語を好きになれずにいる児童が見落とされやすい傾向にあることが考えられます。

【学習方略】＜肯定的な回答割合と4層分析データから＞

新しく習ったことは、何度もくり返して練習している。

令和6年度現学年	年度・学年	肯定的な回答割合(平均値)	4層分析の肯定的な回答割合			
			A層	B層	C層	D層
小4	令和6年度・小4	61.8	67.9	63.0	59.8	56.6
小5	令和6年度・小5	57.3	67.8	59.7	53.1	48.5
	令和5年度・小4	62.7	68.4	63.3	61.6	57.6
小6	令和6年度・小6	54.7	68.1	59.7	48.5	42.5
	令和5年度・小5	58.8	67.9	61.4	56.2	49.8

＜分析結果＞

肯定的な回答割合は、学年が上がるにつれ低くなっています。同一母集団における経年変化においても、同様の傾向が見られます。

＜実態に応じた授業づくりの工夫＞

外国語科では、新しく習った表現を聞いたり話したりすることを繰り返しながら、CAN-DOリストなどで示した目標の達成に向け、言語活動を通して指導することが大切です。

例えば、単元終末の活動に小学校生活の思い出を発表する活動を設定する場合、その目標の達成に向け、関連するスモールトークを毎時間行うことで必要な表現に慣れ親しませたり、思い出の一部を発表する活動を単元途中に取り入れたりして、目標に向けた言語活動を場面や内容を替えながら段階的に何度も繰り返すことが効果的です。

小学校　道徳

【学習意識調査から】

【教科の好感度】＜肯定的な回答割合と4層分析データから＞

令和6年度現学年	年度・学年	肯定的な回答割合(平均値)	4層分析の肯定的な回答割合			
			A層	B層	C層	D層
小4	令和6年度・小4	72.5	72.2	73.2	75.1	69.6
小5	令和6年度・小5	74.3	71.3	74.6	76.9	74.1
	令和5年度・小4	72.7	71.4	72.6	74.2	72.4
小6	令和6年度・小6	73.2	68.5	74.7	77.7	72.7
	令和5年度・小5	74.0	71.5	74.4	76.4	73.7

＜分析結果＞

好感度では、70％以上が肯定的な回答をしており、4層分析で見ると、どの学年もC層の児童の好感度が高い結果となっています。学習の得意不得意に関わらず、全ての児童が同じ土台で話し合う教科の特徴が表れています。

また、同一母集団の経年変化では、令和6年度小5の回答が、昨年度と比べてどの層も上昇しています。実質、小4の道徳科の授業が充実し、よい学び(考え、議論する道徳)になっていると捉えることができます。

【社会的実践力】＜肯定的な回答割合と4層分析データから＞

自分と違う意見も尊重している。

年度・学年	肯定的な回答割合(平均値)	4層分析の肯定的な回答割合			
		A層	B層	C層	D層
令和6年度・小4	88.5	93.5	91.2	88.3	81.0
令和6年度・小5	86.6	93.4	91.4	86.6	75.3
令和6年度・小6	88.2	94.3	93.0	88.5	77.1

＜分析結果＞

80％以上が肯定的な回答をしています。道徳科では、自分の体験や感じ方、考え方を交えながら話し合いを深める学習活動が多いため、「自分と違う意見を尊重する」態度の育成は重要です。

＜実態に応じた授業づくりの工夫＞

道徳科の内容項目は、「教師と児童が人間としてのよりよい生き方を求め、共に考え、共に語り合い、その実行に努めるための共通の課題」です。全ての児童が同じ土台に立ち、活躍できる授業を作っていくために、自分の考えを表出する手立てを挙手、ペア、グループ、書く活動、役割演技、端末活用など、様々な表現方法を取り入れ、多様な考えに触れることができるように授業を工夫することが大切です。「自分との関わり」を考えられるよう、学習内容を焦点化して授業づくりを行うことも工夫の一つです。

小学校　特別活動

【学習意識調査から】

【教科の好感度】＜肯定的な回答割合と4層分析データから＞

令和6年度現学年	年度・学年	肯定的な回答割合(平均値)	4層分析の肯定的な回答割合			
			A層	B層	C層	D層
小4	令和6年度・小4	86.8	91.2	89.3	87.8	79.1
小5	令和6年度・小5	87.5	91.2	89.8	87.4	81.8
	令和5年度・小4	86.9	91.3	89.5	87.8	79.2
小6	令和6年度・小6	86.2	88.2	88.6	87.3	80.7
	令和5年度・小5	85.9	90.4	87.2	87.2	78.8

＜分析結果＞

好感度では、85％を超える児童が肯定的な回答をしており、どの児童も十分に活動に参加し、活躍することができていると捉えることができます。

同一母集団の経年変化に着目すると、令和6年度の小5と小6は、昨年度に比べてわずかですが上昇しました。4層分析では、D層が昨年度に比べ、上昇しています。特別活動は、「なすことによって学ぶ」ことが大切なので、実践的な活動を進めていく必要があります。

【学級力】＜肯定的な回答割合と4層分析データから＞

私は，自分たちの学習や生活をよくするための話し合いや活動に，進んで取り組んでいる。

令和6年度現学年	年度・学年	肯定的な回答割合(平均値)	4層分析の肯定的な回答割合			
			A層	B層	C層	D層
小4	令和6年度・小4	74.7	78.5	76.0	75.5	68.8
小5	令和6年度・小5	76.1	79.7	77.4	75.6	71.8
	令和5年度・小4	76.2	79.6	77.5	76.2	71.3
小6	令和6年度・小6	75.5	77.9	78.0	76.3	69.9
	令和5年度・小5	76.4	81.5	78.2	76.4	69.5

＜分析結果＞

肯定的な回答割合に学年間の大きな差はありませんでした。また、同一母集団の経年変化では、小5と小6のD層のポイントが上昇しています。学級会等での話し合う活動を意識して行っていると捉えることができます。

＜実態に応じた授業づくりの工夫＞

特別活動は、「集団活動」と「実践的な活動」を特質としています。教師は、児童が学級生活をよりよくするための課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成したことを実際に取り組めるよう適切な指導を行うことが大切です。例えば、学級に議題箱を設置し、児童が学級生活に対する諸問題を提案できるよう環境整備をすること、学級会の活動計画を児童と一緒につくり、自分たちで話合いを進められるよう適切な支援を行うことが考えられます。

小学校　総合的な学習の時間

【学習意識調査から】

【教科の好感度】＜肯定的な回答割合と4層分析データから＞

令和6年度現学年	年度・学年	肯定的な回答割合(平均値)	4層分析の肯定的な回答割合			
			A層	B層	C層	D層
小4	令和6年度・小4	79.7	82.6	81.7	80.5	73.9
小5	令和6年度・小5	79.5	82.9	80.4	80.1	74.7
	令和5年度・小4	80.9	84.2	82.6	80.6	76.3
小6	令和6年度・小6	74.7	77.0	76.4	75.4	70.0
	令和5年度・小5	84.6	82.3	80.0	78.8	72.8

＜分析結果＞

好感度では、肯定的な回答割合は全学年で80％程度となっています。また、各学年ともにA層からC層までの差が1～3ポイントと大きな差がありません。一方で、どの学年においてもA－Dの差は7～10ポイントあります。また、同一母集団の経年変化に着目すると、どの学年においても数値が下がっている傾向が見られます。児童がどんなことに興味関心をもっているのか実態を把握し、どの子でも探究的に取り組める探究課題を設定する等の工夫が必要です。

【学習方略】＜肯定的な回答割合と4層分析データから＞

授業で習ったことを普段の生活と結び付けて考えている。

令和6年度現学年	年度・学年	肯定的な回答割合(平均値)	4層分析の肯定的な回答割合			
			A層	B層	C層	D層
小4	令和6年度・小4	65.1	69.7	66.9	65.0	58.7
小5	令和6年度・小5	68.2	75.5	69.8	67.6	60.3
	令和5年度・小4	68.2	72.8	69.4	67.4	63.1
小6	令和6年度・小6	65.2	73.2	68.8	62.8	56.1
	令和5年度・小5	69.1	75.8	72.3	68.2	60.1

＜分析結果＞

肯定的な回答割合は、小4、小5、小6ともに65％以上となっていますが、A層からD層にいくにつれて数値が低くなっています。また経年変化を見ると、今年度の小6は昨年度に比べて各層全ての数値が低下しています。

＜実態に応じた授業づくりの工夫＞

総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、総合的・横断的な学習を行うことを通して、資質・能力を育成します。教師が単元の見通しをもち、各教科等との関連を考えながら単元を構成することで、児童は各教科等で培った力を探究的な学習の中で活用し、汎用的な力として身に付けていきます。単元をつくる際には、他教科との関連を意識し、カリキュラム・マネジメントしていくことが大切です。

Ⅱ　中学校の全市結果と分析、手立て

1　各教科の結果概要　国語・社会・数学・理科・英語　※値は平均正答率（%）

○全体との比較（令和６年度の結果）

中学校の各教科、各学年は、川崎と全体の平均正答率を比較すると、全体より本市の方が国語、数学、英語の3学年と社会、理科の中3において0．3～4．8ポイント上回っています。

学年	5教科平均正答率		
	川崎	全体	差
中1	65.0	65.1	−0.1
中2	56.2	54.7	+1.5
中3	57.7	55.5	+2.2

学年	国語			社会			数学			理科			英語		
	川崎	全体	差	川崎	全体	差	川崎	全体	差	川崎	全体	差	川崎	全体	差
中1	62.3	62.0	+0.3	49.2	49.6	−0.4	65.8	65.3	+0.5	58.1	59.6	−1.5	89.8	89.1	+0.7
中2	70.6	69.2	+1.4	50.9	51.2	−0.3	53.5	50.0	+3.5	47.9	49.0	−1.1	58.2	54.0	+4.2
中3	71.1	70.0	+1.1	53.3	52.6	+0.7	47.1	43.3	+3.8	51.6	51.0	+0.6	65.5	60.7	+4.8

○同一母集団の経年比較（令和５年度と令和６年度）

中学校　（5教科平均正答率）

R5	川崎と全体の平均正答率の差
中1	−1.1
中2	+0.3

R6	川崎と全体の平均正答率の差
中2	+1.5
中3	+2.2

令和5年度の中1は、川崎と全体の平均正答率を比較すると全体より本市の方が1．1ポイント下回っているが、令和6年度中2は1．5ポイント上回っています。

令和5年度の中2は、川崎と全体の平均正答率を比較すると全体より本市の方が0．3ポイント上回っているが、令和6年度中3は2．2ポイント上回っています。

※「A、B、C、D層」の欄は平均正答率（%）を、「C-D層の差」の欄はC層とD層の差（ポイント）を表しています。

○4層分析におけるC-D層間の比較

中学校

【中 国語】年度・学年	川崎市学力層別				
	A層	B層	C層	D層	C-D層の差
令和6年度・中1	84.5	70.1	57.4	37.2	20.2
令和5年度・小6	90.3	78.6	66.9	46.7	20.2
令和6年度・中2	89.7	78.1	67.2	47.3	19.9
令和5年度・中1	91.4	79.9	67.6	46.4	21.2
令和6年度・中3	89.8	79.2	68.4	47.0	21.4
令和5年度・中2	91.7	82.1	71.4	50.8	20.6

【中 数学】年度・学年	川崎市学力層別				
	A層	B層	C層	D層	C-D層の差
令和6年度・中1	91.0	77.8	61.4	33.0	28.4
令和5年度・小6	90.9	74.1	55.5	30.2	25.3
令和6年度・中2	84.1	63.6	45.1	21.2	23.9
令和5年度・中1	91.5	78.0	63.0	36.9	26.1
令和6年度・中3	80.5	58.0	36.7	13.0	23.7
令和5年度・中2	78.3	59.8	42.8	20.9	21.9

【中 英語】年度・学年	川崎市学力層別				
	A層	B層	C層	D層	C-D層の差
令和6年度・中1	100.0	95.2	90.3	71.5	18.8
令和6年度・中2	90.6	69.5	46.6	26.2	20.4
令和5年度・中1	91.8	81.4	72.6	56.0	16.6
令和6年度・中3	94.2	80.5	58.1	29.4	28.7
令和5年度・中2	93.0	76.2	55.6	33.6	22.0

【中 社会】年度・学年	川崎市学力層別				
	A層	B層	C層	D層	C-D層の差
令和6年度・中1	73.3	54.3	41.9	27.3	14.6
令和6年度・中2	78.8	57.7	42.3	24.7	17.6
令和5年度・中1	76.9	58.5	45.8	29.7	16.1
令和6年度・中3	79.0	61.8	46.0	26.4	19.6
令和5年度・中2	73.7	54.1	39.9	24.5	15.4

【中 理科】年度・学年	川崎市学力層別				
	A層	B層	C層	D層	C-D層の差
令和6年度・中1	82.2	66.1	52.4	31.8	20.6
令和6年度・中2	72.6	53.1	40.5	25.4	15.1
令和5年度・中1	83.6	68.7	55.6	35.7	19.9
令和6年度・中3	79.3	59.5	43.2	24.4	18.8
令和5年度・中2	76.9	59.2	44.1	26.6	17.5

【5教科平均】年度・学年	川崎市学力層別				
	A層	B層	C層	D層	C-D層の差
令和6年度・中1	86.2	72.7	60.7	40.2	20.5
令和5年度・小6	90.6	76.4	61.2	38.5	22.7
令和6年度・中2	83.2	64.4	48.3	29.0	19.3
令和5年度・中1	87.0	73.3	60.9	40.9	20.0
令和6年度・中3	84.6	67.8	50.5	28.0	22.5
令和5年度・中2	82.7	66.3	50.8	31.3	19.5

※「令和5年度・小6」の数値は、「令和6年度・中1」と受検者数が約 2,400 人異なるため参考値とする。

【中学校の調査結果全体について】

川崎と全体の各教科、各学年の平均正答率の差に着目すると、半数以上が全体を上回る結果となり、また、同一母集団の比較では、ほとんどの項目で令和5年度に比べ、良い結果となりました。5教科平均では、令和5年度中1では、全体と比較して「1．1下回る」結果でしたが、令和6年度中2は、全体と比較して「1．5上回る」結果となりました。同様に、令和5年度中2と令和6年度中3を比較すると令和6年度中3が上回る結果となり、小学校と同様、日々の取組の成果が表れています。

4層分析に着目すると、中1の英語を除くすべてで、D層の平均正答率が50％未満となっております。また、5教科平均のC－D層間の差に着目すると各学年で約20ポイント開いており、令和5年度の調査結果と同様な結果であることから、引き続き、D層に注視していく必要があります。

2 中学校国語

【第1学年】

集計項目	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	AとD層の差	パターン判定
教科総合	62.3	84.5	70.1	57.4	37.2	47.3	
知識・技能	66.8	86.9	75.2	63.0	42.0	44.9	
思考・判断・表現	58.9	82.6	66.3	53.1	33.7	48.9	

設問番号			設問内容	基礎応用	出題形式	観点1	観点2	川崎市	川崎市学力層別					
大問	小問					知識・技能	思考・判断・表現		A層	B層	C層	D層	AとD層の差	パターン判定
1	1		話し合いの目的を選ぶ	基礎	選択式		●	76.9	95.0	87.7	75.9	49.0	46.0	
1	2		山下さんの意見を選ぶ	基礎	選択式		●	79.3	94.9	87.6	78.0	56.7	38.2	
1	3		小池さんが見せたイラストを選ぶ	基礎	選択式		●	83.9	93.9	88.4	84.3	69.0	24.9	
1	4		司会者の議論の進め方を選ぶ	基礎	選択式		●	46.7	60.4	48.9	43.2	34.3	26.1	
1	5		話し合いの続きで予想される島田さんの発言を選ぶ	応用	選択式		●	43.2	68.6	47.5	34.2	22.4	46.2	
2	1	ア	漢字の読み(古くからの伝承を書き記す。)	基礎	短答式	●		84.7	99.0	94.6	86.6	58.7	40.3	
2	1	イ	漢字の読み(小学校の同窓会に出席する。)	基礎	短答式	●		82.4	89.5	85.7	84.0	70.4	19.1	
2	1	ウ	漢字の読み(この写真の形は縦長だ。)	基礎	短答式	●		87.1	97.8	93.9	89.4	67.2	30.6	
2	2	ア	漢字の書き(自動車のせいぞう工場。)	基礎	短答式	●		30.9	67.2	37.4	15.7	3.4	63.8	Ⅰ
2	2	イ	漢字の書き(大臣をにんめいする。)	基礎	短答式	●		47.7	81.3	58.1	37.4	14.2	67.1	
2	2	ウ	漢字の書き(転んだ友人を気のどくに思う。)	基礎	短答式	●		63.5	88.7	74.6	59.7	30.9	57.8	Ⅲ
2	3		読みの変化しない複合語を選ぶ	基礎	選択式	●		61.6	90.0	73.1	54.2	29.1	60.9	Ⅲ
2	4		同じ構成の三字熟語を選ぶ	基礎	選択式	●		79.9	97.8	91.6	79.7	50.6	47.2	
2	5		同じ構成の四字熟語を選ぶ	基礎	選択式	●		72.0	96.4	87.9	68.0	35.7	60.7	Ⅲ
2	6		述語に対応する主語を選ぶ	基礎	選択式	●		72.7	78.9	76.2	72.9	62.7	16.2	
2	7		成り立ちが同じ漢字の組み合わせを選ぶ	基礎	選択式	●		31.0	59.0	34.0	19.2	12.0	47.0	
3	1		文章の内容について正しい説明を選ぶ	基礎	選択式		●	64.5	85.9	74.4	62.0	35.7	50.2	Ⅲ
3	2		正しい接続詞の組み合わせを選ぶ	基礎	選択式		●	66.4	84.7	73.3	64.2	43.2	41.5	
3	3		意味段落ごとの見出しの組み合わせを選ぶ	基礎	選択式		●	62.5	91.3	75.8	55.7	27.3	64.0	Ⅲ
3	4		条件に従ってまとめの中の空欄に入る言葉を書く	応用	記述式		●	51.3	86.3	63.8	39.1	16.2	70.1	Ⅱ
4	1		文章中の空欄に入る言葉を選ぶ	基礎	選択式		●	52.5	81.2	57.8	41.9	29.1	52.1	Ⅰ
4	2		場面の状況に合う説明を選ぶ	基礎	選択式		●	75.4	94.2	84.8	73.6	49.0	45.2	
4	3		文章の描写に合う説明を選ぶ	基礎	選択式		●	56.3	74.0	62.9	54.0	34.2	39.8	
4	4		話し合いの空欄に入る登場人物の考えの違いを書く	応用	記述式		●	21.5	62.5	18.3	4.7	0.4	62.1	Ⅰ
5	1		同訓異字から正しいものを選ぶ	基礎	選択式	●		87.4	97.4	94.8	89.2	68.4	29.0	
5	2		表現の重なりがある文を選ぶ	基礎	選択式		●	47.3	78.7	53.2	36.2	21.1	57.6	Ⅰ
5	3		意見文の原稿に見られる工夫を選ぶ	基礎	選択式		●	72.5	95.5	86.1	70.0	38.4	57.1	Ⅲ
5	4		条件に従って文章を書き直す	応用	記述式		●	43.0	75.3	50.6	33.0	12.8	62.5	Ⅰ

【観点別分析】

知識・技能について

漢字の読みを問う設問については、どの問題も正答率が82%以上と高く、A－D層の差が小さい傾向にあります。同じ構成の三字熟語を選ぶ設問や、述語に対応する主語を選ぶ設問も、高い正答率がみられます。

漢字の書きを問う問題では、A－D層の差が50ポイント以上と開きが大きくなっています。さらに、D層の無解答が 30%以上と高く、C層も設問によって無解答率が30%を超えています。同じ構成の四字熟語を選ぶ設問では、A－D層の差が60ポイント以上あります。

漢字を書くことや漢字に関する知識について、昨年度に引き続き、今年度も同じ傾向の課題がみられます。

授業改善の手立てとして、漢字の意味や用法を**実生活とつながりのある言葉として活用できるよう日頃から工夫すること**が大切です。また、そこで得た知識の定着とともに、書く力も向上させていけるような場面を設定することも必要です。

思考・判断・表現について

放送で聞き取ったことをもとに答える設問では、話し合い活動の話題を答える設問の正答率は70%以上と高いことがわかります。一方、聞き取った内容から発展させて考える設問では正答率の低さがみられます。

説明的な文章では、条件に従ってまとめの中の空欄に入る言葉を書く設問でA層の正答率が86%以上あるのに対し、D層は約16%でA－D層の差は70ポイントです。資料を読み取る設問でも、条件作文で同様の傾向があり、条件に従ってまとめて書くことに課題があります。D層の無解答率も40%以上あります。

文学的な文章では、選択式の設問で正答率が50%を超えています。しかし、記述式の設問では、A－D層の差が60ポイント以上と大きな開きがあります。また、B層の無解答率も20%を超えています。

昨年度同様、全体を通して記述式問題の正答率が低いことがわかります。

授業改善の手立てとして、**日頃の学習から読み取ったことを、条件に沿って自分でまとめる活動をおこなっていくこと**が大切です。

【授業づくりのアイデア例】

設問内容：大問4（4）（思考・判断・表現　記述式）
「話し合いの空欄に入る登場人物の考えの違いを書く。」

＜実際の設問＞

(4) 次は、文章を読んだあとに、小川さんと水田さんが話し合っている場面です。小川さんのまとめの中の［　　］にあてはまる言葉を、あとの〈条件〉にしたがって書きなさい。

小川さん　「ヒロと心平の合唱コンクールに対する考え方は違っているけれど、二人とも共通して発言している語があるね。」
水田さん　「心平に『ヒロ以外は言いそうにないこと』と思われたヒロの発言と、ヒロに『へ』と驚かれた心平の発言の中の語だね。この二つの発言には、合唱コンクールについての二人の考え方が書かれているね。」
小川さん　「二人の考え方の違いがわかるようにまとめてみよう。」

小川さんのまとめ

・合唱コンクールについて、［　　］だと考えている。

〈条件〉ヒロと心平の発言の中で、共通している語を使って、それぞれの考え方を書くこと。

《正答率と4層分析データ》

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	A−D層の差	パターン判定
令和6年度・中1	21.5	62.5	18.3	4.7	0.4	62.1	Ⅰ
令和5年度・中1	46.4	89.8	57.9	29.7	8.0	81.8	Ⅰ

〈分析結果〉

共通している語として「チャンス」を使い、ヒロと心平のそれぞれの考えを書くことが正答の条件です。

正答率は21．5％と昨年度の中１を下回る結果でした。また無解答率は29．3％、誤答率は46．4％でした。

課題としては、

①問題文で問われている内容が把握できていないこと。

②登場人物の関係性を読み取ること。

③読み取ったことを条件にしたがって自分の言葉で表現すること。

などが考えられます。A－D層の差は62．1ポイントあり、昨年度の81．8ポイントは下回るものの、依然大きく差があることがわかります。 さらには、A－B層の差も44．2ポイントと大きく差がありました。このことから、多くの生徒にとって上記の3点が課題であると言えます。また、あてはまる言葉を入れた際に、文法的に間違いがないか確認することが大切です。

〈実態に応じた授業づくりの工夫〉

①学習課題を理解する

問題文で問われている内容が把握できていないという課題に対して、授業での振り返りカードの活用が有効ではないかと考えます。

授業の初めにその授業の目標を生徒と確認します。振り返りカードの記述に、授業の中で「何が理解できたか」を書くことで、授業の目標が理解できているかを確認することができます。また、課題を理解する力を育むことも期待できます。

②登場人物の関係性を読み取る

大問4「クラスメイツ〈後期〉」の文中に、(4)の解答の核となる「心平に『ヒロ以外は言いそうにないこと』と思われた発言」と「ヒロに『へ』と驚かれた心平の発言」があります。まずは、会話文が誰の発言であるかを捉える力が必要不可欠です。誰の発言かを捉えたうえで、共通の言葉を見つけ、二人の考え方の違いを理解することが課題です。

授業づくりについては、登場人物の発言を色分けし、線を引くなど、視覚的にわかりやすくする活動が考えられます。また、登場人物の相関図を作り、読み取ったことを根拠に班員と登場人物について確認するなど交流することも効果的です。

③自分の言葉で表現する

(4)のように、文章中の言葉を使い、「条件にしたがって」自分の言葉で書くことに苦手意識を持つ生徒が多く、無解答率も高くなっています。自分の言葉で表現することに課題があります。

授業づくりについては、本文の言葉を使って登場人物の心情を説明したり、文章で表したりなど、言葉をつなぎながら表現していく活動が効果的だと考えます。

〈事例〉

文学的な文章を扱う中で、「登場人物の心情を把握する」ことを目標にします。「会話文」「行動」「情景」に着目させ、教科書の根拠となる部分に線を引かせるところから始め、段階的に文章で根拠を説明する活動を行うことで、読み取ったことを自分で表現できるようになっていくことが期待できます。

さらには、人物相関図をノートに作ることを習慣化することで、視覚的にもわかりやすくなり、苦手な生徒も取り組みやすくなるのではないかと考えます。

また、まとめた人物相関図を班で交流する活動を通して、苦手な生徒が登場人物の心情を把握するための新しい発見や気付きが生まれるようにします。交流する中で他者に根拠を持って説明することが求められるので、なぜそう考えるのかを、根拠を持って説明する活動を繰り返し行っていくことで、自分の考えを表現することにつながると考えます。

「本文の言葉を使って説明していく」ことを意識させ、自分の言葉と本文の言葉をつなぎながら表現する力を身に付けることが大切です。

【主体的に学習に取り組む態度　質問別回答状況一覧】

質問番号	質問内容	母集団	年度・学年	肯定群回答割合（%）	選択肢別回答割合（%）					学力層別　肯定群回答割合（%）				
					よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	その他無回答	A層	B層	C層	D層	A-D層の差
1	質問したりアドバイスし合ったりして思いや考えを伝え、先生や友だち、地域の人と進んで交流しようとしている。	川崎市	令和6年度・中1	59.8	16.1	40.8	32.8	5.5	4.8	69.3	63.4	55.6	50.3	19.0
			令和5年度・中1	61.3	16.5	41.8	32.4	4.4	5.0	68.6	65.7	59.7	50.4	18.2
2	友だちが書いた文章や話したことを参考にして、自分にはない新しい考えや自分とは違う考えを持とうとしている。	川崎市	令和6年度・中1	83.6	27.0	52.5	14.0	1.5	4.9	90.0	85.6	82.9	75.8	14.2
			令和5年度・中1	85.3	30.6	50.3	12.9	1.1	5.2	92.0	87.6	84.4	76.5	15.5
3	自分が書いた文章や話すときの原稿を見直して、理由が書けているか、もとの文章を踏まえているか、構成がしっかりしているかなどを振り返っている。	川崎市	令和6年度・中1	77.7	28.3	45.3	18.7	2.4	5.2	90.0	84.0	75.5	60.8	29.2
			令和5年度・中1	80.5	33.6	42.4	16.3	2.1	5.6	92.2	86.4	77.9	64.4	27.8
4	言葉を選んだり工夫して使ったりして、きめ細かな心の様子や情景を伝えようとしている。	川崎市	令和6年度・中1	83.4	31.2	47.3	14.2	1.5	5.8	91.0	86.2	83.3	72.4	18.6
			令和5年度・中1	84.3	33.6	45.6	13.4	1.4	6.1	91.7	87.4	84.6	72.5	19.2
5	本で読んだことを参考にして、学校や家庭の学習や生活の場面で、より良くなるよう工夫している。	川崎市	令和6年度・中1	59.7	24.1	32.0	29.9	7.9	6.1	70.5	60.9	53.4	53.6	16.9
			令和5年度・中1	61.9	26.2	31.7	28.2	7.4	6.4	71.2	61.8	58.4	55.7	15.5
6	敬語や丁寧語に、どのような心が込められているかを考えている。	川崎市	令和6年度・中1	84.1	33.4	45.5	13.1	1.8	6.2	86.4	85.0	84.3	80.3	6.1
			令和5年度・中1	84.9	36.3	42.9	12.4	1.7	6.7	87.0	86.4	85.7	80.4	6.6
7	はっきりと正確に伝わるように、違う言葉を使ったり文章を書き直したりしている。	川崎市	令和6年度・中1	85.9	32.6	47.7	11.6	1.6	6.5	93.6	88.9	85.9	74.8	18.8
			令和5年度・中1	87.5	36.8	44.7	10.5	1.2	6.9	95.6	91.0	86.8	75.5	20.1

国語では、語彙や表現など、様々な場面で学んだことを活用することが大切です。質問番号7では、肯定群が85%と高く、昨年度同様、課題に対して自己調整をしようとする生徒が多いと考えられます。質問番号5では、本から得た知識を活用する場面に課題があります。昨年度の同一学年と比較すると、すべての層で肯定群の回答割合が低い数値を示しています。また、質問番号1、質問番号5ともにA層の回答割合の低さがみられます。

日頃の学習では、語彙を増やすだけでなく、本や資料で得た知識を**実生活とつながりのある言葉として活用できる課題設定が必要**だと考えられます。

【第2学年】

集計項目	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	AID層の差	パターン判定
教科総合	70.6	89.7	78.1	67.2	47.3	42.4	
知識・技能	73.9	89.9	79.8	70.9	55.1	34.8	
思考・判断・表現	68.1	89.5	76.9	64.4	41.5	48.0	

設問番号			設問内容	基礎応用	出題形式	知識・技能	思考・判断・表現	川崎市	川崎市学力層別					
大問	小問								A層	B層	C層	D層	AID層の差	パターン判定
1	1		放送された内容のテーマを選ぶ	基礎	選択式		●	83.5	96.2	90.1	83.5	64.1	32.1	
1	2		田中さんの意見の内容を選ぶ	基礎	選択式		●	69.6	83.8	74.1	65.6	54.8	29.0	
1	3		大谷さんの提案の理由を選ぶ	基礎	選択式		●	82.5	96.6	90.0	82.7	60.8	35.8	
1	4		司会者の議論の進め方を選ぶ	基礎	選択式		●	78.9	94.7	87.1	77.4	56.3	38.4	
1	5		話し合いの続きの前提となる発言の内容を選ぶ	応用	選択式		●	74.7	93.3	84.4	73.6	47.5	45.8	
2	1	ア	漢字の読み（ここからの眺望はすばらしい。）	基礎	短答式	●		59.6	86.4	70.4	52.6	29.1	57.3	Ⅲ
2	1	イ	漢字の読み（歌いすぎて喉が痛い。）	基礎	短答式	●		99.4	100.0	99.9	99.9	97.7	2.3	
2	1	ウ	漢字の読み（手を添えて助ける。）	基礎	短答式	●		94.0	99.9	99.1	96.7	80.3	19.6	
2	2	ア	漢字の書き（作品が高くひょうかされた。）	基礎	短答式	●		54.9	83.6	64.2	46.5	25.1	58.5	Ⅲ
2	2	イ	漢字の書き（月は地球のえいせいである。）	基礎	短答式	●		26.7	59.2	28.3	14.7	4.6	54.6	Ⅰ
2	2	ウ	漢字の書き（多くの人のささえがあった。）	基礎	短答式	●		87.8	99.7	97.4	89.4	64.8	34.9	
2	3		古語を現代仮名遣いに直す	基礎	短答式	●		94.3	99.6	98.9	97.1	81.7	17.9	
2	4		文の文節の数を選ぶ	基礎	選択式	●		66.4	80.6	70.1	63.5	51.4	29.2	
2	5		文を単語に分ける	基礎	選択式	●		73.7	93.4	84.1	69.9	47.5	45.9	
2	6		異なる部首の漢字を選ぶ	基礎	選択式	●		90.1	98.2	95.9	92.2	74.1	24.1	
2	7		正しい接続語を選ぶ	基礎	選択式	●		95.9	99.8	99.4	98.1	86.2	13.6	
3	1		文章全体の構成を把握して、適切な接続語を選ぶ	基礎	選択式		●	86.7	99.2	96.0	89.2	62.4	36.8	
3	2		文章中の空欄に入る言葉を選ぶ	基礎	選択式		●	86.5	98.7	95.0	88.9	63.5	35.2	
3	3		文章の内容について、正しい説明を選ぶ	基礎	選択式		●	69.0	92.0	78.5	64.7	40.7	51.3	Ⅲ
3	4		条件に従って、まとめの中の空欄に入る言葉を書く	応用	記述式		●	47.6	82.2	57.9	36.0	14.2	68.0	Ⅰ
4	1		文章の内容について、正しい説明を選ぶ	基礎	選択式		●	73.7	92.9	84.6	70.6	46.5	46.4	
4	2		文章中の空欄に入る言葉を書く	基礎	短答式		●	62.3	94.3	77.2	56.2	21.5	72.8	Ⅲ
4	3		登場人物の心情を選ぶ	基礎	選択式		●	81.9	97.9	93.4	83.8	52.6	45.3	
4	4		条件に従って、まとめの中の空欄に入る言葉を書く	応用	記述式		●	61.7	86.5	73.2	60.2	26.8	59.7	Ⅲ
5	1		原稿の推敲について正しく説明したものを選ぶ	基礎	選択式		●	38.8	64.9	40.4	29.8	20.3	44.6	
5	2		修飾している語を選ぶ	基礎	選択式	●		44.2	78.7	49.8	30.1	18.2	60.5	Ⅰ
5	3		原稿の構成の工夫について説明したものを選ぶ	基礎	選択式		●	42.4	72.4	47.1	29.4	20.6	51.8	Ⅰ
5	4		条件に従って、具体的にまとめた文を空欄に書く	応用	記述式		●	49.9	87.0	61.4	39.1	12.1	74.9	Ⅲ

【観点別分析】

知識・技能について

昨年度は漢字の書きに課題がありました。今年度の漢字の書きに関する設問は、正答率が 26.7%と低いものもあり、A層においても約60%と低い数値となっています。さらに、A－D層の差が50ポイント以上になっている設問が2問あり、D層だけでなくC層の無解答率も高いという結果から、引き続き課題があることがわかります。また漢字の読みに関しても、正答率が60%を下回り、A－D層の差が57ポイントと大きい設問があります。D層の無解答率も3人に1人と多いことがわかります。

現代仮名遣いに直す、部首を判断する、適切な接続語を選ぶ設問に関しては、90%を上回る結果となっており、A－D層の差が低い数値となっています。

一方、文節に分ける、単語に分ける、修飾語に関する設問では正答率が下がり、A－D層の差が60ポイントを上回るものもあります。

授業改善の手立てとして、読書活動を通して、漢字の読み書きに関する力を高めていく工夫が必要です。また、**得た知識を活用する場面を想定し、言葉の特徴や使い方を体験的に学ぶ機会を設定することで、より多くの知識を定着させる活動を取り入れること**も必要です。

思考・判断・表現について

放送で聞き取ったことをもとに答える設問では、どの問題においてもほとんどの生徒が解答をしており、正答率も高い数値となっています。また、どの設問もD層の正答率が高いことがわかります。

説明的な文章では、構成の把握、空欄を埋めるといった選択問題では、いずれも正答率が86%以上と高くなっており、D層においても60%を上回る結果となっています。しかし、文章の内容を説明する設問ではA－D層の差が51ポイントと大きいことがわかります。

文学的な文章においても、文章の内容を理解する設問で正答率が下がり、A－D層の差も72.8ポイントと大きく、D層における無解答率も3人に1人という結果となっています。

さらに、記述式の設問は圧倒的に正答率が低く、A－D層の差も74.9ポイントと高いものもあり、D層の無解答率も2人に1人と多い数値が見られます。C層においても無解答率が5人に1人を超える設問があり、昨年度と同様に記述に関して大きな課題があることがわかります。

日頃から資料を読み取り、読み取った情報を自分の意見としてまとめる力を高めることができる授業の工夫が必要です。

【授業づくりのアイデア例】
設問内容：大問4（4）（思考・判断・表現、記述式）
「条件に従って、まとめの中の空欄に入る言葉を書く」

＜実際の設問＞

(4) 次は、文章を読んだ酒井さんが、実良の弓道に対する考え方の変化をまとめたノートです。□にあてはまる言葉を、あとの〈条件1・2〉に従って書きなさい。

酒井さんのまとめたノート

部活動を選んだときの思い　　部活動をしてきた中で気づいた思い
⇦　　⇦
□
だと思っている。

〈条件1〉「仲間」という語を用いること。
〈条件2〉実良の考え方の変化がわかるように書くこと。

＜正答率と４層分析データ＞

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	A−D層の差	パターン判定
令和6年度・中2	61.7	86.5	73.2	60.2	26.8	59.7	Ⅲ
令和5年度・中1	46.4	89.8	57.9	29.7	8.0	81.8	Ⅰ

＜分析結果＞

昨年度と同じ設問内容の状況と比較すると、全体の正答率が15．3ポイント上昇、B層からD層の正答率もそれぞれ15ポイント以上の上昇しました。

しかしながら、C－D層の差は33．4ポイント、D層の無解答率も46．1%と、依然としてD層の生徒が極端に正答できていない状況にあります。登場人物の言動の意味や心情を読み取る力、その内容をまとめて適切に記す力等、段階的に力が身に付くような手立てや個に応じた支援が必要です。

（4）では「個人競技だと思っていたという内容がない」という誤答例が全体の約20%にみられます。その場の心情だけでなく、「なぜその心情になったのか」、「どのように移り変わったのか」など、生徒が**複数の情報を根拠として積み重ね、内容を解釈すること**ができるようになる授業が求められます。

＜実態に応じた授業づくりの工夫＞

複数の情報を根拠として積み重ね、内容を解釈する

大問4「たまごを持つように」の文中、「このごろ気づいたことがある」から始まる段落には、「個人競技だとばかり思っていた弓道が、実はそうではない」と、(4)の解答の核となる表現があります。大切なのは「なぜ個人競技ではないと考えを変えたのか」であり、それを的確に読み取るには、そもそも「なぜ実良は個人競技を選んだ(選びたかった)のか」を理解する必要があります。

作中、実良は周りから浮いてしまう存在として描かれています。これは前述の段落にはなく、冒頭の5～7段落にかけて書かれている情報です。このように、離れた部分にある情報も根拠として積み重ねることが今回の課題です。

手立て 【集めた複数の情報を手元に残す(カードにする)】

本文中から分かる情報に線を引かせる、あるいはそこから読み取れる(書かれていない)情報を記録させるなど、基本的な読解の指導は変わりません。加えて、それらの情報をカードにする、記録する枠を別に用意するなど、文章を読み進めた後でもすぐに見て比べられるように手元に残せる手立てを講じます。見つけた情報を手元に残しながら積み重ねることで、その後の登場人物の言動の意味や心情と結びつけやすくすることをねらいます。

ページを何度もめくり、離れた部分と往来しながら答えを考えることが難しいという生徒もいます。個に応じて、複数の情報を根拠に内容を解釈する力を養うための手立てが求められます。

大問4 「たまごを持つように」を用いた例

1. 基本の発問 実良は、弓道を始めたときはどのような人物でしたか。実良の感情や考えが分かる部分に線を引きましょう。

線を引く部分	⇒	読み取れること
・「実良はトラブルメーカーだった」 ・「周りから浮いてしまう」 ・「教室も家も～居心地が悪い」	⇒	・対人関係が苦手。 ・一人でいられる方がいい。
・「(射場に立っている)その間だけは安全だ」 ・「セーフティーゾーンに逃げこめる」 ・「的に中(あた)ったぶんだけ、肯定される」	⇒	・弓道があるから、一人になれる。 ・弓道を認められる場だと思っている。

この情報をカードとして手元に残す

2. ねらいにせまる発問 実良の弓道に対する考えは、どのように変化しましたか。「カード」の言葉も用いて考えをまとめましょう。

・対人関係が苦手。

・一人でいられる方がい

・弓道があるから、一人になれる。

手元のカードと比べながら、登場人物(実良)の心情の変化にせまる。

このごろ気づいたことがある。個人競技だとばかり思っていた弓道が、実はそうではないことに。(中略)そして気がついた。弓は自分にとって、一番大事なものだと思っていたけれど、もしかすると、もっと大事なのは、仲間かもしれない。

【主体的に学習に取り組む態度　質問別回答状況一覧】

質問番号	質問内容	母集団	年度・学年	肯定群回答割合（%）	選択肢別回答割合（%）					学力層別　肯定群回答割合（%）				
					よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	その他無回答	A層	B層	C層	D層	A-D層の差
1	質問したりアドバイスし合ったりして思いや考えを伝え、先生や友だち、地域の人と進んで交流しようとしている。	川崎市	令和6年度・中2	59.4	16.7	41.5	33.3	6.5	1.9	69.3	62.0	57.7	48.2	21.1
			令和5年度・中1	61.3	16.5	41.8	32.4	4.4	5.0	68.6	65.7	59.7	50.4	18.2
2	友だちが書いた文章や話したことを参考にして、自分にはない新しい考えや自分とは違う考えを持とうとしている。	川崎市	令和6年度・中2	84.1	29.2	53.2	14.0	1.5	2.1	91.6	87.9	84.1	72.9	18.7
			令和5年度・中1	85.3	30.6	50.3	12.9	1.1	5.2	92.0	87.6	84.4	76.5	15.5
3	自分が書いた文章や話すときの原稿を見直して、理由が書けているか、もとの文章を踏まえているか、構成がしっかりしているかなどを振り返っている。	川崎市	令和6年度・中2	79.4	31.0	46.7	17.8	2.4	2.1	90.7	85.6	78.2	62.7	28.0
			令和5年度・中1	80.5	33.6	42.4	16.3	2.1	5.6	92.2	86.4	77.9	64.4	27.8
4	言葉を選んだり工夫して使ったりして、きめ細かな心の様子や情景を伝えようとしている。	川崎市	令和6年度・中2	84.2	31.7	50.4	14.0	1.4	2.4	90.9	87.5	84.4	73.6	17.3
			令和5年度・中1	84.3	33.6	45.6	13.4	1.4	6.1	91.7	87.4	84.6	72.5	19.2
5	本で読んだことを参考にして、学校や家庭の学習や生活の場面で、より良くなるよう工夫している。	川崎市	令和6年度・中2	53.7	21.7	30.7	33.5	11.6	2.5	62.8	55.9	49.3	46.7	16.1
			令和5年度・中1	61.9	26.2	31.7	28.2	7.4	6.4	71.2	61.8	58.4	55.7	15.5
6	敬語や丁寧語に、どのような心が込められているかを考えている。	川崎市	令和6年度・中2	82.2	33.9	46.3	14.9	2.4	2.5	83.4	83.4	82.8	79.3	4.1
			令和5年度・中1	84.9	36.3	42.9	12.4	1.7	6.7	87.0	86.4	85.7	80.4	6.6
7	はっきりと正確に伝わるように、違う言葉を使ったり文章を書き直したりしている。	川崎市	令和6年度・中2	87.6	34.4	50.8	10.7	1.4	2.7	95.2	90.6	87.6	76.8	18.4
			令和5年度・中1	87.5	36.8	44.7	10.5	1.2	6.9	95.6	91.0	86.8	75.5	20.1

国語では自分の考えをもち他者の意見を取り入れながら推敲し、その考えを深めていくことが大切です。質問番号1、3では、A－D層の差がそれぞれ20ポイント以上と大きいことが分かります。一方、違う言葉を使うことに関しては、肯定群の割合が若干上がりA－D層の差が縮まっています。また、質問1、5は全体的に肯定群の割合が昨年度に引き続き低くなっています。**自分が書いた文章を推敲する習慣を身に付けるとともに、読書を通して得られる知識を様々な場面で活用していく工夫**が必要だと考えられます。

【第3学年】

集計項目	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	AとD層の差	パターン判定
教科総合	71.1	89.8	79.2	68.4	47.0	42.8	
知識・技能	61.6	85.2	70.3	55.9	35.0	50.2	Ⅲ
思考・判断・表現	78.2	93.3	85.9	77.8	55.9	37.4	

設問番号			設問内容	基礎応用	出題形式	知識・技能	思考・判断・表現	川崎市	川崎市学力層別					
大問	小問								A層	B層	C層	D層	AとD層の差	パターン判定
1	1		放送された内容のテーマを選ぶ	基礎	選択式		●	95.9	99.2	98.3	96.7	89.3	9.9	
1	2		鈴木さんの発表の説明を選ぶ	基礎	選択式		●	71.6	81.5	74.4	68.3	62.1	19.4	
1	3		岡田さんが用いた資料を選ぶ	基礎	選択式		●	93.4	97.8	96.4	94.0	85.3	12.5	
1	4		司会者の議論の進め方を選ぶ	基礎	選択式		●	91.4	99.3	97.7	94.0	74.4	24.9	
1	5		これからの話し合いの方向を選ぶ	応用	選択式		●	81.1	91.8	84.5	81.3	66.9	24.9	
2	1	ア	漢字の読み（哀れみを感じる。）	基礎	短答式	●		90.7	99.6	98.5	94.9	70.0	29.6	
2	1	イ	漢字の読み（萎縮して実力が出ない。）	基礎	短答式	●		59.2	95.9	77.7	47.0	16.3	79.6	
2	1	ウ	漢字の読み（宣誓を行う。）	基礎	短答式	●		77.1	99.3	94.0	78.9	36.3	63.0	Ⅲ
2	2	ア	漢字の書き（ピアノをえんそうする。）	基礎	短答式	●		58.1	90.3	72.0	49.0	21.0	69.3	Ⅲ
2	2	イ	漢字の書き（雨粒がたれる。）	基礎	短答式	●		43.9	79.3	52.1	31.7	12.6	66.7	Ⅰ
2	2	ウ	漢字の書き（機械がこしょうする。）	基礎	短答式	●		56.1	92.1	71.4	43.5	17.2	74.9	Ⅱ
2	3		同じ意味・用法の助動詞「れる・られる」を選ぶ	基礎	選択式	●		49.1	71.4	50.8	38.4	35.7	35.7	
2	4		活用形が同じ動詞を選ぶ	基礎	選択式	●		28.3	51.2	27.8	19.4	14.8	36.4	
2	5		古文の単語の意味を現代語訳から書き抜く	基礎	短答式	●		87.5	97.9	94.3	90.7	67.3	30.6	
2	6		正しい敬語を選ぶ	基礎	選択式	●		64.0	81.6	66.4	56.7	51.2	30.4	
2	7		指定された二つの部分の関係として適切なものを選ぶ	基礎	選択式	●		79.8	95.6	89.3	80.0	54.2	41.4	
3	1		文章全体の構成を説明した文章の空欄に入る段落を選ぶ	基礎	選択式		●	85.1	98.2	93.7	85.9	62.5	35.7	
3	2		文章を踏まえて説明しているものを選ぶ	基礎	選択式		●	84.2	97.6	93.5	85.3	60.6	37.0	
3	3		文章中の空欄にあてはまる言葉を選ぶ	基礎	選択式		●	92.4	99.6	98.4	95.0	76.8	22.8	
3	4		条件に従って、ノートの空欄に入る言葉を書く	応用	記述式		●	61.7	88.9	74.8	57.3	25.8	63.1	Ⅲ
4	1		登場人物の関係について正しく説明しているものを選ぶ	基礎	選択式		●	77.5	92.7	86.0	76.2	55.1	37.6	
4	2		登場人物の心情について書き抜く	基礎	短答式		●	74.1	97.6	89.6	75.3	34.1	63.5	Ⅲ
4	3		登場人物の心情について正しく説明しているものを選ぶ	基礎	選択式		●	91.4	99.1	96.9	95.8	74.0	25.1	
4	4		話し合いと文章の内容を踏まえて空欄に入る言葉を書く	応用	記述式		●	56.3	82.8	66.6	53.7	22.1	60.7	Ⅲ
5	1		同じ品詞のものを選ぶ（たいへん）	基礎	選択式	●		45.2	67.9	49.4	40.3	23.0	44.9	
5	2		意見文の下書きの構成について正しい説明を選ぶ	基礎	選択式		●	70.6	92.6	80.5	69.1	40.4	52.2	Ⅲ
5	3		意見文の下書きを改良した点を選ぶ	基礎	選択式		●	75.1	95.3	85.6	73.1	46.5	48.8	
5	4		複数の条件に従って自分の考えを書く	応用	記述式		●	49.7	78.3	57.3	43.9	19.4	58.9	Ⅲ

【観点別分析】

知識・技能について

文法の知識を問う全ての設問でA－D層の差が42ポイントより小さくなっています。昨年度はA－D層の差が大きい設問もあったため、日頃の授業の成果であると考えられます。

課題は、漢字の読み、書きを問う設問でのA－D層の差が大きいことです。特に漢字の書きを問う全ての設問でA－D層の差が66ポイント以上であることから、漢字を日頃から活用する指導が必要であると考えられます。また、昨年度はA－D層の差のパターンがⅢのみであったのに対して、今年度はⅠからⅢの全てのパターンが見られます。D層だけでなくB層、C層への指導も必要です。

授業改善の手立てとして、漢字の学習だけでなく、**文章中の漢字を取り上げることや漢字を書こうとする意識を向上させていけるような授業の工夫を日頃から行っていくこと**が必要です。

思考・判断・表現について

放送の内容から意見を聞き取る設問は正答率が高く、昨年度と比べてもA－D層の差が小さくなっています。その中でも議論の進め方を選ぶ設問ではA－D層の差が昨年度に比べて小さくなり、改善が見られます。日頃のグループワーク活動、話し合い活動での工夫が効果的であると考えられます。また、資料を読み取り自分の意見を書く設問ではA－D層の差が58ポイント、D層の無解答率が45％という結果になっています。昨年度も全体的に正答率が低いことから、資料を読み取ること、自分の意見をもち自分の言葉で表現することにまだ課題があると考えられます。

日頃の授業から資料を読み取り、読み取った情報を自分の意見に生かすことができるようになる授業の工夫を継続的に行うことが必要です。

【授業づくりのアイデア例】

設問内容：大問5（4）（思考・判断・表現、記述式）
「複数の条件に従って自分の考えを書く」

意見文の下書き

新聞の紙版とデジタル版についての考察

二班　中山すずな

インターネットが普及している現在、私たちはニュースをポータルサイトやSNSで知ることが(あ)たいへん多くなっていると思います。しかし、情報の出どころが確かでなかったり、にせの情報、いわゆるフェイクニュースの問題が起こったりしています。そこで改めて、(い)情報源として、新聞に目を向けてみようと思いました。

新聞にも、従来からの紙版のほかに、新聞社が作成しているデジタル版があります。新聞を読む際は、どちらで読むほうがよいのか、比較してみました。

私は、次のようなよさに注目しました。

※提案の根拠となる資料を入れる場所。（資料1～4のいずれか）

※提案の根拠となる資料を入れる場所。（資料1～4のいずれか）

以上の資料から、私は新聞を読むときは［　　］㋒からです。

(4) あなたなら、新聞を読むときに、紙版とデジタル版のどちらを読もうと思いますか。意見文の下書きの［㋒］にあてはまる文章を、次の〈条件1～3〉に従って書きなさい。

〈条件1〉紙版とデジタル版の、どちらを選ぶかを書くこと。（どちらを選ぶかは、この問題の正誤に影響しません。）

〈条件2〉資料1～資料4のうちから二つ以上の資料を用い、それぞれの資料から、自分の選んだ版にどのようなよさがあるかを読み取り、根拠として書くこと。

〈条件3〉九十字以上、百十字以内で書くこと。（ただし、句読点は字数に含めます。）

＜正答率と４層分析データ＞

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	A−D層の差	パターン判定
令和6年度・中3	49.7	78.3	57.3	43.9	19.4	58.9	Ⅲ
令和5年度・中2	62.3	97.7	80.9	53.8	16.7	81.0	Ⅲ

＜分析結果＞

昨年度はA－D層の差は81ポイント、今年度は、58．9ポイントでした。今年度に着目してみると、A－B層の差が約21ポイントあり、昨年度と同様、A層とB、C、D層に開きがあることがわかります。また、無解答率はC層で16．3％、D層では45．1％となっています。依然として「複数の条件に従って自分の考えを書く」ことが苦手な分野であると考察できます。

昨年度に引き続き、資料から複数の情報を読み取り、自分の考えをまとめ、書く経験が必要です。そのためには、

①複数の資料から読み取った情報を整理すること。

②読み取った情報を根拠にし、自分の考えを明確に述べること。

の2つの学習活動を授業で扱うことが求められます。

＜実態に応じた授業づくりの工夫＞

複数の資料から読み取った情報を整理する

大問5の「さまざまなメディアの特徴について考える」場面で、ある班が生活に身近な新聞に着目しました。そこで紙版とデジタル版に注目して話し合っている中で、(4)の問題が出てきます。ポイントとなるのが、「あなたなら」という視点で書いていくことを押さえます。

資料1・2→紙版について　資料3・4→デジタル版について整理するうえで、

①自分が読みたくなる方はどちらかの立場を明確にする
②なぜ読みたくなるのかという「よさ」を会話文から見つける
③会話文の語句を用いて、文章を作っていく
①～③の段階を経て書くことで文章ができます。

資料を2つ以上用い、「よさ」を述べなければならないこと、どのような「よさ」があるのかを明確にすること、2つの文をどのようにつなぎ合わせればよいのか等を生徒が意識できる手立てが必要です。

読み取った情報を根拠にし、自分の考えを明確に述べる

まず、上記で読み取った情報をどのように並べるか、また、自分の考えがどうすれば説得力のある文になるかを考えます。中には、文のつなぎ合わせが不自然になり、自分の考えか会話文の生徒の意見なのかを区別できない生徒もいます。順序だてて読み取った情報を構成する経験が必要になります。

＜具体的な事例＞

1　実際に紙媒体の新聞とデジタル版の新聞を使って読み取った情報を付箋に書いて整理する。※キーワードの収集

GIGA端末を効果的に使用したいところです。今まで通り、付箋を使い、書く活動も大切ですが、ネット社会に生きる生徒たちにとって、デジタルツールを駆使する力も大切であると考えます。また、他者との共有がしやすい面もあります。まずは、短い言葉をたくさん書き出し、その後、必要な情報を取捨選択することも重要です。例えば、複数の新聞社の同じ対象の物を準備し、書き方の違いを見つけ、どちらがより効果的なのか、伝わりやすいのか等を考える工夫ができます。

2　日常的に資料から読み取ったことを基に自分の意見を書く活動を取り入れる。※自分の意見を明確にする

「根拠」と「考え」を区別するように心がけることが大切です。新聞の中にあるグラフや図を基に、説明的な文章などを扱う授業の冒頭で継続的に行うことで効果が期待できます。

①伝えたいことに合わせて様々な情報を収集すること。
②目的や形式に応じて、引用したり言い換えたりしてまとめること。
③日頃の授業で資料から読み取った情報をまとめること。
④情報を基に自分の意見を組み立てること。

これらの活動を通して、複数の情報を根拠に読み取る力の向上を目指します。その際、「根拠」と「考え」の区別がつかず、調べたものをそのまま自分の考えとして使わない指導の継続が必要です。

【主体的に学習に取り組む態度　質問別回答状況一覧】

質問番号	質問内容	母集団	年度・学年	肯定群回答割合（%）	選択肢別回答割合（%）					学力層別　肯定群回答割合（%）				
					よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	その他無回答	A層	B層	C層	D層	A-D層の差
1	質問したりアドバイスし合ったりして思いや考えを伝え、先生や友だち、地域の人と進んで交流しようとしている。	川崎市	令和6年度・中3	62.5	18.7	42.1	30.6	6.0	2.6	73.1	67.2	58.9	50.4	22.7
			令和5年度・中2	62.9	17.4	44.4	31.8	4.8	1.6	72.6	66.5	60.4	51.7	20.9
2	友だちが書いた文章や話したことを参考にして、自分にはない新しい考えや自分とは違う考えを持とうとしている。	川崎市	令和6年度・中3	85.9	32.4	51.2	12.0	1.7	2.7	92.7	90.1	85.8	74.8	17.9
			令和5年度・中2	85.6	31.9	52.3	12.8	1.3	1.7	92.0	89.9	85.7	74.6	17.4
3	自分が書いた文章や話すときの原稿を見直して、理由が書けているか、もとの文章を踏まえているか、構成がしっかりしているかなどを振り返っている。	川崎市	令和6年度・中3	81.4	34.4	44.7	15.6	2.5	2.8	92.5	87.1	79.8	65.7	26.8
			令和5年度・中2	78.4	31.1	45.8	18.6	2.7	1.8	88.4	84.7	76.4	63.7	24.7
4	言葉を選んだり工夫して使ったりして、きめ細かな心の様子や情景を伝えようとしている。	川崎市	令和6年度・中3	74.1	35.0	48.8	11.9	1.4	3.0	92.7	91.0	86.0	75.3	17.4
			令和5年度・中2	83.7	31.5	50.4	14.4	1.6	2.0	90.9	87.4	83.5	72.6	18.3
5	本で読んだことを参考にして、学校や家庭の学習や生活の場面で、より良くなるよう工夫している。	川崎市	令和6年度・中3	53.9	20.9	31.4	33.0	11.6	3.1	62.7	55.8	50.9	46.0	16.7
			令和5年度・中2	54.9	23.0	30.7	33.1	11.1	2.2	61.8	56.9	51.7	49.0	12.8
6	敬語や丁寧語に、どのような心が込められているかを考えている。	川崎市	令和6年度・中3	80.3	30.3	47.4	16.4	2.7	3.1	82.9	81.3	79.5	77.2	5.7
			令和5年度・中2	83.7	36.0	45.8	13.9	2.0	2.4	85.5	85.9	84.1	79.4	6.1
7	はっきりと正確に伝わるように、違う言葉を使ったり文章を書き直したりしている。	川崎市	令和6年度・中3	88.7	38.5	47.3	9.7	1.2	3.2	94.9	93.7	88.0	77.7	17.2
			令和5年度・中2	87.7	36.1	49.4	10.8	1.2	2.5	95.8	91.0	87.5	76.2	19.6

国語では様々な場面で学んだ語彙や表現を活用することが大切です。質問番号1、3では昨年度と同様にA－D層の差が20ポイント以上開いており、引き続き課題があると考えられます。質問番号5の回答で本から知識を得る機会が昨年度よりも減り、A－D層の差が約4ポイント広がっています。**豊かな語彙や表現を得るために、本を読む機会や語句の意味を調べる機会を与え、自ら知識を得ようとする姿勢を身に付ける工夫**が必要だと考えられます。

【学習意識調査から】

質問番号:【45】
質問内容:自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えることができる。

現学年	年度・学年	川崎市	A層	B層	C層	D層	A-Dの差
第1学年	令和6年度・中1	63.2	74.5	69.0	58.6	51.0	23.5
第2学年	令和6年度・中2	60.6	73.1	65.0	57.3	47.4	25.7
	令和5年度・中1	65.6	76.7	68.5	64.1	53.2	23.5
第3学年	令和6年度・中3	62.1	74.7	66.8	60.6	46.6	28.1
	令和5年度・中2	63.3	74.8	67.6	60.9	50.0	24.8

＜分析結果＞
「自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝える」ことは、国語の学習においても大切です。調査結果では、調査を実施したすべての学年でA－D層の差が20ポイント以上あることがわかります。さらに、各層の間で最も差が大きいのは、昨年度同様、C、D層です。相手にわかりやすく伝えるための基礎となるのが語彙力です。言葉に関する知識の習得には差があるため、日頃から個に応じた学習を丁寧に進めていくとともに、グループワークの活用等話し合い活動を通して、自分の考えを伝える場面を設定していくことが課題として考えられます。
＜実態に応じた授業づくりの工夫＞
先のとおり各学年の分析では、中1は、根拠を明確にしたうえで文章の内容を把握し自分の言葉でまとめ直すこと、中2は、複数の情報を根拠として積み重ね内容を解釈すること、中3は、複数の資料から読み取った情報を整理したうえで、自分の考えを明確に述べることについて取り上げました。全学年の課題に共通して、読み取った情報を根拠に内容全体をまとめたり、そこから発展させて考えを述べたりすることの難しさが挙げられます。しかし、左に挙げた質問への回答を見ると、日頃からわかりやすく伝えようと意識している生徒は全学年において60%を超えることがわかります。実際の正答率と意識調査の肯定的な回答の割合の差から、文章(他人によって与えられる情報)の全体像をしっかり把握すること、あるいは話すことはできても文字に起こすことに困難を抱えている生徒が多いと推察できます。
文章の全体像を捉えるために必要なことは、まず、与えられた中から必要な情報と不要な情報を見極めることです。そのもととなるものが読解力です。読解力とは、話の「話題」を捉える力と、伝えたいことは何か「結論」を捉える力のことです。物語文であれば、まずは会話文、行動、情景に着目させ、説明文であれば根拠と考えを区別します。さらに、資料に線を引くだけではなく、カードにしたり、GIGA端末を利用したりすることで、集めた情報を一目で見ることができ、全体像を捉えやすくなります。また、考えを言語化することが難しい生徒に対しては、比較的取り組みやすい5W1Hをさらに簡素化した「何が起こって」「どのようにして」「感じたこと」を短い言葉で考え、それをつなげる、そこに接続詞や動詞をつける、語順を整える、とアドバイスし合いながら少しずつステップアップしていくことで、言葉をアウトプットしていくことへの苦手意識を取り除いていく手立てが考えられます。

3 中学校社会

【第1学年】

集計項目	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	AID層の差	パターン判定
教科総合	49.2	73.3	54.3	41.9	27.3	46.0	
知識・技能	54.1	77.9	60.0	47.3	31.1	46.8	
思考・判断・表現	24.9	50.0	25.9	14.9	8.6	41.4	

設問番号			設問内容	基礎応用	出題形式	知識・技能	思考・判断・表現	川崎市	川崎市学力層別					
大問	小問								A層	B層	C層	D層	AID層の差	パターン判定
1	1		基本的人権の説明として正しいものを選ぶ	基礎	選択式	●		89.1	98.9	96.6	92.2	68.9	30.0	
1	2		国の収入のグラフから読み取れるものを選ぶ	基礎	選択式	●		60.8	84.1	67.2	52.0	39.9	44.2	
1	3		三権分立の図から内閣が裁判所に対して行うことを選ぶ	基礎	選択式	●		51.8	80.7	59.7	42.0	24.9	55.8	Ⅰ
1	4		選挙権が与えられる年齢を書く	基礎	短答式	●		78.2	88.7	81.5	79.5	63.0	25.7	
1	5		資料を見て市区町村の政治について読み取る	応用	選択式	●		85.3	97.2	94.3	87.4	62.3	34.9	
2	1		資料から縄文時代の住居の名称を書く	基礎	短答式	●		34.5	68.6	40.4	20.4	8.6	60.0	Ⅰ
2	2		弥生時代の人々の暮らしについて説明した文を選ぶ	基礎	選択式	●		35.8	64.3	40.0	24.2	14.7	49.6	
2	3		弥生時代の歴史が現在伝わっている理由を書く	応用	記述式		●	24.7	49.6	27.9	15.4	5.8	43.8	
2	4		行基の業績として正しいものを選ぶ	基礎	選択式	●		52.8	77.2	56.3	44.9	32.8	44.4	
2	5		平安時代に書かれた作品とその作者を選ぶ	基礎	選択式	●		79.3	91.7	85.6	79.8	60.1	31.6	
3	1		源頼朝の業績として正しいものを選ぶ	基礎	選択式	●		30.9	56.8	25.5	21.8	19.7	37.1	
3	2		元寇の時の執権の名を選ぶ	基礎	選択式	●		43.2	83.6	46.5	26.7	16.1	67.5	Ⅰ
3	3		足利義満が貿易を行った中国の王朝名を書く	基礎	短答式	●		5.3	18.5	1.8	0.6	0.1	18.4	
3	4		室町時代の文化の説明として正しい文を選ぶ	基礎	選択式	●		62.6	85.3	66.5	57.2	41.5	43.8	
3	5		北条政子の活躍した時期を選ぶ	応用	選択式		●	30.9	60.1	28.0	19.1	16.2	43.9	
4	1		豊臣秀吉について正しい文を選ぶ	基礎	選択式	●		49.7	90.3	63.5	30.8	14.4	75.9	Ⅱ
4	2		江戸時代の村で連帯責任を負う制度の名称を選ぶ	基礎	選択式	●		59.7	95.0	77.5	48.5	17.7	77.3	Ⅲ
4	3		大名の配置の特徴を地図から読み取り選ぶ	基礎	選択式	●		67.9	96.6	84.8	65.8	24.4	72.2	Ⅲ
4	4		江戸時代の外国との交流について正しい文を選ぶ	基礎	選択式	●		80.1	98.0	92.2	81.4	49.1	48.9	
4	5		江戸時代に日本地図を作った人物を選ぶ	基礎	選択式	●		72.9	98.1	89.5	70.2	33.6	64.5	Ⅲ
4	6		江戸時代に発展した文化を選ぶ	基礎	選択式	●		40.1	69.1	39.3	30.3	21.5	47.6	
5	1		明治維新の政策として誤っているものを選ぶ	基礎	選択式	●		42.3	70.3	40.6	28.8	29.4		
5	2		初代の内閣総理大臣の名を書く	基礎	短答式	●		32.3	76.4	35.0	14.7	3.0	73.4	Ⅰ
5	3		日清戦争に関係している出来事として正しいものを選ぶ	基礎	選択式	●		30.4	36.0	29.9	27.4	28.4		
5	4		工業の発展のグラフから読み取れる内容を選ぶ	応用	選択式	●		53.5	75.1	61.0	48.4	29.4	45.7	
5	5		満州事変から終戦までに起こった出来事を選ぶ	基礎	選択式	●		45.2	63.7	51.3	41.4	24.6	39.1	
5	6	ア	家電普及率のグラフから読み取れる内容を選ぶ	基礎	選択式	●		68.1	84.2	72.2	66.7	49.4	34.8	
5	6	イ	戦後の出来事の正しい順番を選ぶ	応用	選択式		●	20.5	33.5	17.9	14.9	15.7		
6	1		大日本帝国と日本国の憲法下の主権者の違いを書く	応用	記述式		●	38.7	78.1	48.1	23.5	5.3	72.8	Ⅰ
6	2		資料から日本が国連に加盟できなかった理由を書く	応用	記述式		●	9.6	28.9	7.7	1.7	0.1	28.8	

【観点別分析】

知識・技能について

平均正答率は54．1％でした。資料から読み取る問題や正しい説明文を選ぶ問題の正答率が低い傾向がありました。

「武士の政治の始まりと室町文化」では、室町文化の説明を選ぶ問題は比較的良い結果がみられましたが、源頼朝の業績を選ぶ問題の平均正答率は30．9％であり、理解が不十分でした。

「江戸幕府の政治と人々の暮らし」では、大名の配置の特徴を地図から読み取り正しい説明文を選ぶ問題では、比較的良い結果がみられました。しかし、A－D層の差が70％以上かけ離れており、その中でも特にC－D層の差が一番大きく開きました。

このようなことから、資料から読み取れたことを**これまでの既習事項と関連付けながら、歴史的事象の背景を考えたり、時代の特色を大観したりすることができる学習活動**を取り入れた授業を実践することが必要です。

思考・判断・表現について

「戦争から平和の時代へ」では、戦後の出来事の正しい順番を選ぶ問題については正答率が20.5％で理解が不十分でした。

また、資料から日本が国連に加盟できなかった理由を記述する問題では、A層の正答率は28.9％、B－D層は、10.0％を下回っており、A－D層の差は28.8ポイントでした。この問題は「資料3　サンフランシスコ平和条約に調印した国と調印しなかった国」からアメリカ合衆国が調印したのに対し、ソ連が調印していないことから、2国間が対立関係にあったことを読み取ります。そして、「資料4　国際連合安全保障理事会について」から拒否権の内容を読み取り、2つの資料から読み取った内容を関連付けて考えます。

このようなことから、**複数の資料から情報を読み取り、様々な社会的事象を関連付けて時代の特色を大観したり、対話的な深い学びを実現したりすることができる学習活動**を取り入れていくことが大切です。

【主体的に学習に取り組む態度　質問別回答状況一覧】

質問番号	質問内容	母集団	年度・学年	肯定群回答割合（%）	選択肢別回答割合（%）					学力層別　肯定群回答割合（%）				
					よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	その他無回答	A層	B層	C層	D層	A-D層の差
1	世界が平和で争いがない社会になるには、どのようなことが必要か考えている。	川崎市	令和6年度・中1	77.6	28.2	48.4	18.6	3.5	1.3	83.2	78.3	76.5	72.3	10.9
			令和5年度・中1	78.7	31.3	46.3	17.7	3.3	1.4	82.0	80.0	78.7	74.2	7.8
2	授業で設定した学習の問題（課題）を、進んで調べたり考えたりして解決しようとしている。	川崎市	令和6年度・中1	74.9	25.4	48.5	21.6	3.1	1.3	87.0	78.5	71.1	62.7	24.3
			令和5年度・中1	77.1	27.7	48.3	19.8	2.8	1.4	87.4	80.4	74.5	66.0	21.4
3	インタビューや現地調査をするときには、自ら進んで取り組むようにしている。	川崎市	令和6年度・中1	69.5	21.4	47.2	25.7	4.3	1.4	78.2	73.1	66.1	60.6	17.6
			令和5年度・中1	71.1	23.8	46.3	25.1	3.4	1.5	77.2	75.3	69.4	62.5	14.7
4	自分のふるさとを大切にしたり、より良くしたいという気持ちを持っている。	川崎市	令和6年度・中1	89.2	49.2	38.6	9.1	1.5	1.5	89.5	89.6	89.2	88.5	1.0
			令和5年度・中1	88.8	51.1	36.3	9.2	1.8	1.5	89.1	89.5	89.7	86.9	2.2
5	日本のいろいろな地域の農業や工業、商業が発展することを願っている。	川崎市	令和6年度・中1	89.1	50.5	37.3	9.4	1.4	1.4	92.4	90.3	89.4	84.2	8.2
			令和5年度・中1	89.3	52.0	35.8	9.2	1.3	1.5	91.2	90.7	89.7	85.5	5.7
6	社会の出来事を、いろいろな立場や視点から見るようにしている。	川崎市	令和6年度・中1	75.5	28.1	46.2	21.1	3.0	1.5	83.7	75.5	74.1	68.6	15.1
			令和5年度・中1	76.9	30.0	45.7	20.0	2.7	1.7	85.0	79.1	75.4	68.1	16.9
7	異なる国のそれぞれの社会の出来事を関連づけて考えるようにしている。	川崎市	令和6年度・中1	70.1	24.1	44.9	24.6	4.8	1.6	80.8	71.7	65.9	61.8	19.0
			令和5年度・中1	73.1	26.5	45.3	22.4	4.1	1.7	83.0	75.4	70.6	63.2	19.8

質問番号5における肯定群の割合は 89.1%で、高い割合を維持しています。その一方で質問番号2の肯定群の割合は74.9%で、昨年度の77.1%から 2.2%下回りました。日本のいろいろな地域の産業に関係するような学習の問題（課題）を授業で設定し、これまでの既習事項をもとにして、その**問題（課題）の解決を探究するような学習活動**がより重要になります。

【授業づくりのアイデア例】

設問内容：源頼朝の業績として正しいものを選ぶ（知識・技能）

＜実際の設問＞

3 けんたさんは、鎌倉時代と室町時代の人物について調べ、カードA～Dにまとめました。カードA～Dは、年代の古い順に並べられています。あとの問いに答えなさい。

> **カードA**
> わたしは、子どものとき、武士のかしらの一人であった父とともに平氏と戦ったが敗れ、伊豆（静岡県）に送られた。しかし成人後、再び平氏と戦い、平氏をほろぼした。

> **カードB**
> わたしは、武士（御家人）たちをまとめて、元の軍勢と戦った。元は、集団で戦ったり、てつはうという火薬を用いた武器を使ったりしてきたが、わたしたちは激しく抵抗し、元軍を追い返した。

(1) カードAの人物が行ったこととして正しいものを、次の1～4から1つ選んで、解答用紙の番号に○をつけなさい。

1 中国との貿易のために、兵庫（摂津）の港を整えた。
2 娘を天皇のきさきとし、生まれた子が天皇となることで大きな力を持った。
3 武士として初めて、太政大臣となった。
4 家来になった武士を、守護・地頭に任命した。

(2) カードBにあてはまる人物を、次の1～4から1つ選んで、解答用紙の番号に○をつけなさい。

1 源義経　2 北条時宗　3 藤原道長　4 平清盛

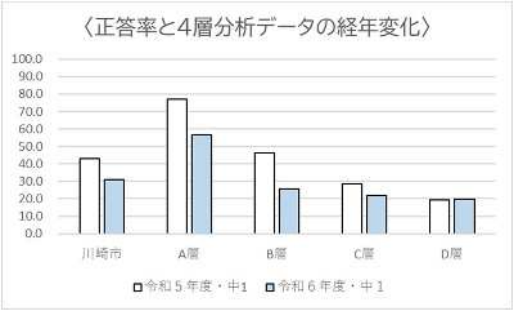
(5) けんたさんは、カードA～Dに次のカードEを追加することにしました。カードEを入れる位置として正しいものを、あとの1～4から1つ選んで、解答用紙の番号に○をつけなさい。

> **カードE**
> わたしは、将軍の妻である。夫が死んだあと、朝廷が幕府をたおそうと兵をあげたときに、武士（御家人）たちの前で将軍の恩に報いるようにうったえた。武士は団結し、その結果、幕府側が勝利した。

1 カードAとカードBの間　2 カードBとカードCの間
3 カードCとカードDの間　4 カードDのあと

＜正答率と４層分析データと分析結果＞

大問3(1)における平均正答率は30.9%であり、A層の平均正答率は56.8%で、B、C、D層では26%以下の平均正答率で、理解が不十分でした。(1)誤答として多かった選択肢は2と3で、カードの内容に平氏が入っていることから平清盛が行った政策の内容を選んでしまっている可能性が考えられます。



昨年度と同様の傾向がある問題を比較すると、A－D層の差が大きくなっています。小学校の既習事項を踏まえて、中学校では、歴史上の人物と歴史的事象を関連付けることができる学習活動を取り入れる必要があります。

＜実態に応じた授業づくりの工夫＞

小学校学習指導要領解説社会編では、「源平の戦い，鎌倉幕府の始まり，元との戦いを手掛かりに，武士による政治が始まったことを理解すること」といった知識及び技能を習得することが示されています。小学校でこうした指導がなされてきたことを踏まえ、中学校では次のような授業改善を図る必要があります。

既習事項を生かした社会的事象とのつながりや因果関係を踏まえて資料をもとに時代を大観することができるようにする。

中学校では小学校での既習事項を踏まえて、どのように歴史的事象との関連性があるのか、因果関係・資料をもとに時代を大観することができる学習活動を取り入れる必要があります。

中学校学習指導要領解説社会編では、「武家政治の成立とユーラシアの交流」について「鎌倉幕府の成立，元寇（モンゴル帝国の襲来）などを基に，武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し，その支配が広まったこと，元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解すること」について取り扱うことが示されています。

他にも大問3（2）では、A 層の正答率が83．6％であるものの、C－D層が誤答1を選んだ割合が30％を超えているため、カード B の「武士（御家人たち）をまとめて」という記述から鎌倉時代の源氏に関係のある人物を選んでしまっていると考えられます。また（5）では、誤答2が40．6％と正答1の30．9％を上回っています。このことから時代の移り変わりや関わりについて理解ができるように、例えば導入の際に源頼朝と平清盛の政策の違いなどを比較することなどが挙げられます。これらを踏まえて、**資料からわかることを読み取る技能や、小学校で得た人物史の既習事項がどのように歴史的事象と因果関係があるかなど、まとめの際に年表や関連資料を用いて1つ1つの知識をつなげる学習活動**の工夫が必要です。

【第2学年】

集計項目	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	AIDの差層	パターン判定
教科総合	50.9	78.8	57.7	42.3	24.7	54.1	Ⅰ
知識・技能	54.9	82.0	62.7	46.9	27.9	54.1	Ⅰ
思考・判断・表現	34.8	66.1	37.5	23.6	12.2	53.9	Ⅰ

設問番号			設問内容	基礎応用	出題形式	知識・技能	思考・判断・表現	川崎市	川崎市学力層別					
大問	小問								A層	B層	C層	D層	AIDの差層	パターン判定
1	1		インドが位置する大陸名を選ぶ	基礎	選択式	●		76.0	98.7	92.1	73.0	40.1	58.6	Ⅲ
1	2		オーストラリアの位置を正しく説明した文を選ぶ	基礎	選択式	●		71.6	96.1	87.6	69.4	33.2	62.9	Ⅲ
1	3		日付が変わるのが最も遅い都市を選ぶ	基礎	選択式	●		62.1	83.1	65.8	57.1	42.5	40.6	
1	4		赤道を選ぶ	基礎	選択式	●		60.2	86.0	67.5	52.7	34.7	51.3	Ⅰ
2	1		温帯の説明文を選ぶ	基礎	選択式	●		66.0	86.7	77.0	60.7	39.7	47.0	
2	2		仏教に関する写真を選ぶ	基礎	選択式	●		27.0	52.4	25.7	16.9	12.9	39.5	
2	3		熱帯の地域の伝統的な住居の説明文を選ぶ	基礎	選択式	●		53.8	83.9	59.5	43.5	28.3	55.6	Ⅰ
3	1		ASEANを書く	基礎	短答式	●		42.6	79.0	51.7	29.3	10.3	68.7	Ⅰ
3	2		東南アジアの国々の輸出の変化について正しい文を選ぶ	基礎	選択式	●		73.9	95.2	85.9	73.1	41.3	53.9	Ⅲ
3	3		ヨーロッパが高緯度でも温暖な気候の理由を考える	応用	選択式	●		62.3	86.1	71.6	58.3	33.3	52.8	Ⅲ
3	4		サハラ砂漠とナイル川の組み合わせを選ぶ	基礎	選択式	●		73.4	93.3	81.9	69.6	48.6	44.7	
4	1	ア	アメリカの農業の特徴を考えて書く	応用	記述式		●	36.9	66.1	46.2	28.1	7.2	58.9	Ⅲ
4	1	イ	適地適作を書く	基礎	短答式	●		40.6	80.0	49.5	26.5	6.3	73.7	Ⅰ
4	2	ア	アンデス山脈と大草原の組み合わせを選ぶ	基礎	選択式	●		53.6	72.8	57.4	47.7	36.6	36.2	
4	2	イ	南アメリカ州の輸出品の特徴について正しい文を選ぶ	基礎	選択式	●		61.4	87.8	71.7	54.4	31.6	56.2	Ⅲ
5	1		始皇帝を書く	基礎	短答式	●		24.6	67.5	24.0	6.0	1.2	66.3	Ⅰ
5	2		副葬品の違いから埋葬された人の特徴を考える	応用	選択式		●	48.2	77.3	53.1	39.6	22.7	54.6	Ⅰ
5	3		須恵器を選ぶ	基礎	選択式	●		53.3	91.4	68.1	41.5	12.2	79.2	Ⅲ
6	1		聖徳太子が行ったことを選ぶ	基礎	選択式	●		71.6	93.5	85.3	68.3	39.4	54.1	Ⅲ
6	2		調を選ぶ	基礎	選択式	●		42.8	65.7	44.7	34.7	26.2	39.5	
6	3	ア	遣唐使の派遣を停止した理由を考える	応用	選択式		●	66.8	93.5	79.4	59.9	34.4	59.1	Ⅲ
6	3	イ	国風文化に関係が深い写真を選ぶ	基礎	選択式	●		39.4	61.8	41.4	31.0	23.4	38.4	
7	1		御成敗式目を選ぶ	基礎	選択式	●		65.5	96.5	82.5	56.5	26.6	69.9	Ⅲ
7	2		地頭について正しい文を選ぶ	基礎	選択式	●		67.6	89.0	77.6	64.6	39.0	50.0	Ⅲ
7	3		院政を選ぶ	基礎	選択式	●		47.0	83.2	53.6	31.9	19.3	63.9	Ⅰ
7	4		足利尊氏を書く	基礎	短答式	●		18.2	55.6	12.9	4.0	0.5	55.1	Ⅰ
7	5		カードを政治の実権を握った順に並べ替える	応用	選択式		●	22.2	54.4	17.5	8.5	8.3	46.1	
8	1		明が海禁政策を取った理由を考えて書く	応用	記述式		●	22.1	62.8	21.1	4.4	0.3	62.5	Ⅰ
8	2		琉球の貿易の特徴について考えて書く	応用	記述式		●	12.9	42.7	7.6	0.9	0.2	42.5	
8	3		現在の東アジアの国の貿易について正しい文を選ぶ	基礎	選択式	●		62.9	83.2	70.7	55.9	41.8	41.4	

【観点別分析】

知識・技能について

平均正答率は54．9％でした。同一母集団の経年変化でみると、A－D層の正答率には差が開きました。

「世界のすがた」では、大陸や大洋、国の位置を捉える設問の正答率は比較的良い結果がみられましたが、地図中に示された地点の気候の特徴やそこで生活を送る人々の営みの様子を解答する設問の理解は、やや不十分でした。

「中世の歴史」では、政治史について解答する設問の正答率は比較的良い結果がみられましたが、農民の税の内容を問う設問や国風文化に関わりの深い写真を選ぶ設問の正答率がやや不十分でした。

このことから気候やそこでの生活の特徴を理解し、その特徴とともに分布を捉えていくことや歴史を多様な面から捉えていくことができるようにすることが大切です。そのために、**生徒が授業の中で、調べたり、資料を活用したりすることで一つの知識から他の知識と関連付けていくことができるような学習活動**の工夫を取り入れていくことが必要です。

思考・判断・表現について

平均正答率は34．8％でした。同一母集団の経年変化でみると、昨年度よりも7．5ポイント低下する結果となりました。また、A－D層の生徒の平均正答率には差が開きました。

「世界のすがた」では、複数の資料を活用してアメリカの農業の特徴を考察し、記述する設問の理解が、やや不十分でした。

「歴史の流れ・原始から古代まで」では、遣唐使の派遣を停止した理由を考察する設問の正答率は比較的良い結果がみられましたが、中世の頃に政治の実権を握った人物らについて、活躍した時期に並べ替える設問や複数の資料を活用して明が海禁政策を行った理由を考察し、記述する設問の理解は不十分でした。

このことから、明や朝鮮との交流が日本に与えた影響を考える問いを設定し、追究することが大切です。そのために、**複数の資料から目的に応じて情報を読み取り、考察することで時代を大きな流れで捉えられるような授業**の工夫をしていくことが必要です。

【主体的に学習に取り組む態度　質問別回答状況一覧】

質問番号	質問内容	母集団	年度・学年	肯定群回答割合（%）	選択肢別回答割合（%）					学力層別　肯定群回答割合（%）				
					よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	その他無回答	A層	B層	C層	D層	A-D層の差
1	世界が平和で争いがない社会になるには、どのようなことが必要か考えている。	川崎市	令和6年度・中2	69.4	21.5	47.4	24.6	5.7	0.7	72.7	69.9	69.4	65.8	6.9
			令和5年度・中1	78.7	31.3	46.3	17.7	3.3	1.4	82.0	80.0	78.7	74.2	7.8
2	授業で設定した学習の問題（課題）を、進んで調べたり考えたりして解決しようとしている。	川崎市	令和6年度・中2	71.0	21.8	48.7	24.5	4.3	0.8	83.7	75.3	68.1	56.9	26.8
			令和5年度・中1	77.1	27.7	48.3	19.8	2.8	1.4	87.4	80.4	74.5	66.0	21.4
3	社会で働いている人の話を聞いたり、最新の社会に関する資料を読んだりして、自分の考えを持とうとしている。	川崎市	令和6年度・中2	58.6	16.8	41.4	33.7	7.3	0.8	66.3	61.1	56.8	50.3	16.0
			令和5年度・中1	71.1	23.8	46.3	25.1	3.4	1.5	77.2	75.3	69.4	62.5	14.7
4	自分のふるさとを大切にしたり、より良くしたいという気持ちを持っている。	川崎市	令和6年度・中2	83.2	36.7	45.8	13.9	2.8	0.9	82.9	83.6	84.8	81.5	1.4
			令和5年度・中1	88.8	51.1	36.3	9.2	1.8	1.5	89.1	89.5	89.7	86.9	2.2
5	日本のいろいろな地域の農業や工業、商業が発展することを願っている。	川崎市	令和6年度・中2	88.1	45.7	41.6	10.2	1.6	0.9	92.1	90.4	88.2	81.7	10.4
			令和5年度・中1	89.3	52.0	35.8	9.2	1.3	1.5	91.2	90.7	89.7	85.5	5.7
6	社会の出来事を、異なる意見や価値観を比べて深く考えるようにしている。	川崎市	令和6年度・中2	69.6	22.4	46.6	25.9	4.3	0.9	80.5	72.5	66.5	58.6	21.9
			令和5年度・中1	76.9	30.0	45.7	20.0	2.7	1.7	85.0	79.1	75.4	68.1	16.9
7	異なる国のそれぞれの社会の出来事を関連づけて考えるようにしている。	川崎市	令和6年度・中2	67.9	22.8	44.4	26.4	5.4	1.0	79.7	71.3	65.0	55.4	24.3
			令和5年度・中1	73.1	26.5	45.3	22.4	4.1	1.7	83.0	75.4	70.6	63.2	19.8

結果の分析

　同一母集団の経年変化でみると、質問番号6では、A－D層の差が昨年度よりも5ポイント大きくなっており、今年度は21.9 ポイントとなっています。また、D層の生徒が肯定群の回答をした割合は昨年度よりも 9.5 ポイント低下していました。このことから、**社会の出来事に対して、対話的に意見を共有する時間をつくったり、社会の出来事に対して多面的・多角的な見方で思考する時間をつくったりすること**が必要だと考えられます。

【授業づくりのアイデア例】

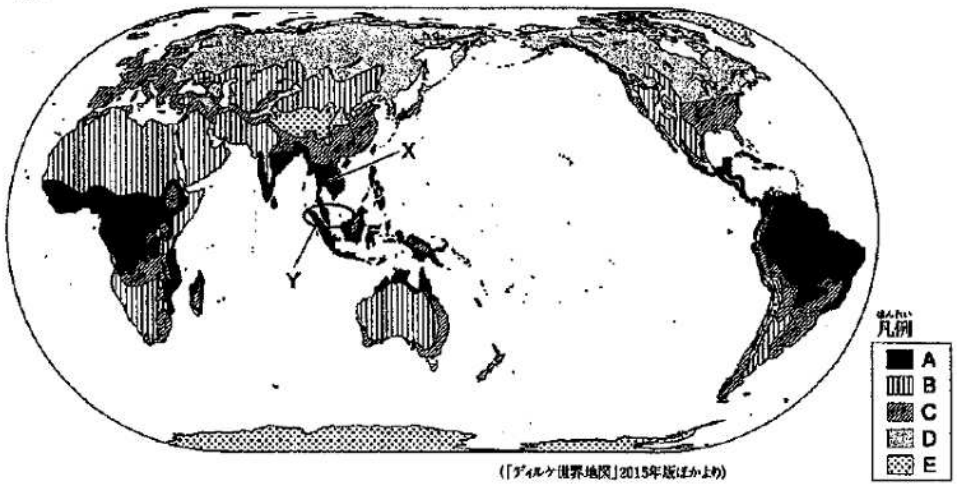
設問内容：熱帯の地域の伝統的な住居の説明文を選ぶ

（知識・技能）

〈実際の設問〉

2 次の気候帯の分布を示した地図を見て、あとの問いに答えなさい。

地図



（「ダイルケ世界地図」2015年版ほかより）

(3) 地図中にYで示した地域で見られる伝統的な住居を説明した文として最も適切なものを、次の1～4から1つ選び、解答用紙の番号に○をつけなさい。

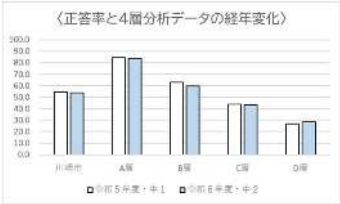
1 伝統的な家は、木材を手に入れることが難しいため、土をこねて固めた日干しれんがでつくられている。

2 伝統的な石造りの家は、夏の強い日差しをさえぎるため、窓が小さく、壁は厚くつくられている。強い日差しを吸収しないように、壁を石灰で白くぬった家もある。

3 豊富な木材を利用してつくられた家は、寒さを防ぐため、窓が二重になっている。また、一年中凍ったままの土の上につくられた家は、熱で土が解けないように床を高くしている。

4 木やヤシの葉を利用してつくられた家は、熱や湿気をさけるため、床を高くし、風通しをよくしている。

〈正答率と４層分析データと分析結果〉



大問2(3)における平均正答率は 53.8%であり、理解はやや不十分でした。4 層分析でみると、A 層の平均正答率は 83.9%であり、A 層の生徒は十分に理解しているものと捉えることができます。しかし、D層の平均正答率は 28.3%であり、A－層D間には 55.6 ポイントの差がありました。また、 A－B層間には 24.4 ポイントの差がありました。これらのことから、B、C、D層の幅広い範囲の生徒に熱帯地域の位置や熱帯地域の伝統的な住居の特徴について理解できるような学習活動を取り入れる必要があります。

同一母集団の経年変化でみると、位置や空間的な広がりについての理解において、昨年度と同様に A 層の生徒と B、C、D層の生徒との間に大きな差がみられます。このことから、引き続き、地図帳を活用して位置や空間的な広がりについて生徒が理解できるように指導していく必要があります。

＜実態に応じた授業づくりの工夫＞

大問2(3)を正答するためには、熱帯地域の正しい位置と熱帯地域の伝統的な住居の特徴の双方を理解していなければなりません。また、中学校学習指導要領解説社会編では、大項目B世界の様々な地域の中項目(1)世界各地の人々の生活と環境について、「人々の生活は，その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり，その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解すること。」と示されており、熱帯地域の伝統的な住居の特徴が自然環境からどのような影響を受けてそのようになったのかを理解できるように指導していく必要があります。これらのことから、次のような授業改善を図る必要があります。

資料を活用して熱帯地域の位置と熱帯地域に住む人々の生活と自然環境との関連性についての理解を促す

まず、熱帯地域の位置についての理解を促す授業展開としては、『ケッペンの気候区分』を示した主題図や様々な位置の熱帯地域の写真を活用して、**生徒が熱帯地域の分布の規則性を見いだしたり、経度が異なっても赤道付近であれば植生が共通していることを見出したりできる活動**を取り入れていく必要があります。

次に、熱帯地域に住む人々の生活と自然環境との関連性についての理解を促す授業展開としては、熱帯地域の気候が人々の衣食住に与えている影響とはどのようなものなのかを思考する活動が考えられます。その際、雨温図を活用して熱帯地域の気候の特徴を捉える活動を取り入れることや、現地の人々の衣食住の様子がわかる写真を示して衣食住の特徴が熱帯の気候とどのように関連付いているのかを考える活動を取り入れることが必要です。例えば、熱帯地域の雨温図とともに熱帯地域の伝統的な住居の写真を示し、**熱帯地域は1年を通して高温多雨であるため、そこで暮らす人々は高床で窓を大きくした風通しのよい家を建てていることに気付くことができるような活動を行うこと**が考えられます。また、こうした活動を行うことによって、**自然環境の影響を受けることで人々の営みが形づくられていくという概念的な理解を促すこと**にもつながります。

【第3学年】

集計項目	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	AID層の差	パターン判定
教科総合	53.3	79.0	61.8	46.0	26.4	52.6	Ⅲ
知識・技能	55.9	80.6	64.0	49.5	29.5	51.1	Ⅲ
思考・判断・表現	42.9	72.6	52.8	32.2	13.9	58.7	Ⅱ

設問番号			設問内容	基礎応用	出題形式	知識・技能	思考・判断・表現	川崎市	川崎市学力層別					
大問	小問								A層	B層	C層	D層	AID層の差	パターン判定
1	1	ア	日本アルプスに含まれる山地・山脈を選ぶ	基礎	選択式	●		49.4	78.5	55.1	38.5	25.5	53.0	Ⅰ
1	1	イ	三角州を書く	基礎	短答式	●		22.8	54.7	23.3	11.0	2.4	52.3	Ⅰ
1	2		日本の鉱産資源の輸入について正しい文を選ぶ	基礎	選択式	●		66.2	92.7	77.6	61.1	33.4	59.3	Ⅲ
1	3		日本の発電量の内訳を示したグラフを選ぶ	応用	選択式	●		78.5	95.8	90.3	80.2	47.7	48.1	
2	1	ア	九州地方の地形について正しい文を選ぶ	基礎	選択式	●		60.6	87.3	69.4	53.2	32.5	54.8	Ⅲ
2	1	イ	資料を読み取り地熱発電を選ぶ	基礎	選択式	●		76.6	97.6	91.6	76.3	41.0	56.6	Ⅲ
2	2		人口増減率について正しい文を選ぶ	基礎	選択式	●		75.4	95.8	86.5	74.9	44.5	51.3	Ⅲ
2	3		リアス海岸を書く	基礎	短答式	●		68.5	97.5	88.3	65.4	22.9	74.6	Ⅲ
2	4		阪神工業地帯について正しい文を選ぶ	基礎	選択式	●		77.0	92.7	85.8	78.1	51.5	41.2	
3	1	ア	東海の都市の雨温図を選ぶ	基礎	選択式	●		44.1	70.7	48.4	33.7	23.4	47.3	
3	1	イ	北陸の農業を示すグラフとその理由を選ぶ	応用	選択式		●	74.3	98.0	91.4	73.7	34.2	63.8	Ⅲ
3	2		北関東工業地域が発達した理由を考えて書く	応用	記述式		●	22.2	49.9	27.3	9.5	2.1	47.8	
3	3	ア	東北地方の地形について正しい文を選ぶ	基礎	選択式	●		54.2	73.2	59.3	52.1	32.2	41.0	
3	3	イ	やませを正しく説明した文を選ぶ	基礎	選択式	●		44.0	57.7	46.3	40.5	31.3	26.4	
4	1		江戸時代の農業について誤っている文を選ぶ	基礎	選択式	●		35.2	58.8	34.6	25.4	21.8	37.0	
4	2		薩摩藩が窓口となった貿易相手国として琉球王国を選ぶ	基礎	選択式	●		45.5	76.3	47.4	32.9	25.5	50.8	Ⅰ
4	3		田沼意次が行ったことについて正しい文を選ぶ	基礎	選択式	●		45.5	82.2	48.5	29.3	22.0	60.2	Ⅰ
4	4		化政文化について正しい文を選ぶ	基礎	選択式	●		15.0	26.7	13.3	9.0	10.9		
5	1	ア	日米修好通商条約の条約名と条約を結んだ人物を選ぶ	基礎	選択式	●		49.8	69.2	55.6	46.2	28.1	41.1	
5	1	イ	西郷隆盛を書く	基礎	短答式	●		53.3	91.3	67.8	40.9	13.0	78.3	Ⅲ
5	1	ウ	カードを年代の古い順に並べ替える	応用	選択式		●	38.5	63.2	43.8	28.6	18.6	44.6	
5	2		江戸時代と明治時代の教育について説明した文を選ぶ	基礎	選択式	●		55.9	77.2	67.0	49.4	30.0	47.2	
6	1		工場制手工業について正しい内容を選ぶ	基礎	選択式	●		72.2	91.4	81.8	69.6	45.9	45.5	
6	2		アヘン戦争を書く	基礎	短答式	●		46.3	89.7	60.7	27.9	6.9	82.8	Ⅱ
6	3		条約が不平等だった点を考えて書く	応用	記述式		●	38.4	86.2	50.2	14.9	2.5	83.7	Ⅰ
6	4		五箇条の御誓文を選ぶ	基礎	選択式	●		75.5	93.3	82.0	71.8	55.1	38.2	
6	5		地租改正について正しい文を選ぶ	基礎	選択式	●		53.6	86.7	62.3	42.0	23.5	63.2	Ⅰ
7	1		現代の日本の貿易相手について正しい文を選ぶ	基礎	選択式	●		76.7	98.0	93.8	78.6	36.4	61.6	Ⅲ
7	2		開国後に起きた日本の社会の変化について考えて書く	応用	記述式		●	17.4	41.8	19.3	7.0	1.3	40.5	
7	3		開国後の貿易相手国の変化の理由を選ぶ	応用	選択式		●	66.5	96.5	84.7	59.8	24.9	71.6	Ⅲ

【観点別分析】

知識・技能について

平均正答率は55.9%でした。1つのグラフを正しく読み取ることは比較的良い結果がみられましたが、複数の資料を正しく読み取ることはやや不十分でした。

「日本の地域的特色」では、日本アルプスの位置の理解がやや不十分でしたが、日本の発電量の内訳のグラフの読み取りは比較的良い結果がみられました。授業で、語句を地図や写真などの資料と関連付けるとともに、日本のエネルギー事象について資料を読み取り、現状を把握することができる学習活動を今後も続けていくことが必要です。

「江戸時代の日本」では、元禄文化と化政文化の特徴の理解が不十分でした。授業で、各時代の文化を比較して、共通点や相違点を資料から読み取るなど、文化の特徴の理解を深められる活動が必要です。

同一母集団の経年変化でみると、5.7 ポイント上昇しており、大まかな知識は理解しているものの、山脈の名称や人物名などの具体的な語句の定着・活用に課題があります。**生徒が語句と地域・産業・時代などを関連付けながら学習できる授業**の工夫が必要です。

思考・判断・表現について

平均正答率は42.9%でした。2つ以上の資料からできごとの理由を考察することがやや不十分でした。

「日本の諸地域」では、北陸の農業を示すグラフとその理由を適切に考察することは、比較的良い結果がみられました。事象の因果関係を明らかにしながら、複数の資料を用いた授業づくりを行うことが今後も必要です。

「近世から近代まで」では、江戸時代から明治時代にかけての出来事の流れについて資料をもとにした適切な考察がやや不十分でした。授業では、出来事が起こった理由や時代の背景、出来事が起こったあとの社会の変化について考えることができる学習活動を取り入れる必要があります。

同一母集団の経年変化でみると、3.6ポイント上昇しており、今年度も引き続き主体的に学習に取り組めるような課題設定を設けた授業づくりを進めていくことが大切です。しかし、昨年度よりもA－D層の差が大きくなっていることから、**協働的な学習を取り入れるなど、多様な他者とともに問題の発見や解決に挑む授業展開**の工夫が必要になります。

【主体的に学習に取り組む態度　質問別回答状況一覧】

質問番号	質問内容	母集団	年度・学年	肯定群回答割合（%）	選択肢別回答割合（%）					学力層別　肯定群回答割合（%）				
					よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	その他無回答	A層	B層	C層	D層	A-D層の差
1	世界が平和で争いがない社会になるには、どのようなことが必要か考えている。	川崎市	令和6年度・中3	68.1	20.4	47.3	25.3	6.4	0.6	69.4	70.1	67.7	65.1	4.3
			令和5年度・中2	70.8	23.0	47.2	23.4	5.6	0.8	73.6	71.6	71.5	66.3	7.3
2	授業で設定した学習の問題（課題）を、進んで調べたり考えたりして解決しようとしている。	川崎市	令和6年度・中3	73.0	23.4	49.2	22.5	4.3	0.6	84.0	79.7	70.0	58.3	25.7
			令和5年度・中2	70.8	21.5	48.7	24.7	4.2	0.8	85.6	76.3	65.4	55.8	29.8
3	社会で働いている人の話を聞いたり、最新の社会に関する資料を読んだりして、自分の考えを持とうとしている。	川崎市	令和6年度・中3	62.5	18.9	43.2	30.9	6.4	0.6	69.1	65.7	59.5	55.6	13.5
			令和5年度・中2	59.6	17.9	41.2	33.1	6.9	0.8	68.4	62.6	55.9	51.6	16.8
4	自分のふるさとを大切にしたり、より良くしたいという気持ちを持っている。	川崎市	令和6年度・中3	81.4	33.0	47.8	15.0	3.5	0.7	81.0	82.5	82.4	79.5	1.5
			令和5年度・中2	84.2	39.8	43.6	13.1	2.6	0.9	84.1	86.6	84.6	81.4	2.7
5	日本のいろいろな地域の農業や工業、商業が発展することを願っている。	川崎市	令和6年度・中3	89.1	47.5	41.0	8.7	2.1	0.7	93.5	91.7	88.5	82.6	10.9
			令和5年度・中2	87.9	46.8	40.3	10.1	1.9	0.9	92.6	91.0	87.2	80.5	12.1
6	社会の出来事を、異なる意見や価値観を比べて深く考えるようにしている。	川崎市	令和6年度・中3	71.8	24.1	47.2	23.7	4.3	0.7	82.5	76.8	68.5	59.3	23.2
			令和5年度・中2	70.6	23.4	46.6	25.1	4.0	0.9	82.9	76.0	66.8	56.6	26.3
7	異なる国のそれぞれの社会の出来事を関連づけて考えるようにしている。	川崎市	令和6年度・中3	69.8	23.5	45.8	24.8	5.1	0.7	81.3	74.6	66.0	57.1	24.2
			令和5年度・中2	68.8	23.3	44.8	25.6	5.3	1.0	80.6	73.3	65.3	55.8	24.8

同一母集団の経年変化でみると、肯定群回答割合が上昇している質問がいくつかあります。特に質問番号2のC層の肯定群回答割合については、4．6ポイント上昇しています。しかし、質問番号1については2．7ポイント、質問番号4については2．8ポイント肯定群回答割合が低下しています。このことから、**生徒が世界や自分の住む地域に関心を持ち、より良いものにしようと前向きに考える場面を設定すること**が授業改善の一つとして考えられます。

【授業づくりのアイデア例】
設問内容：北陸の農業を示すグラフとその理由を選ぶ（思考・判断・表現）
＜実際の設問＞問3（1）イ

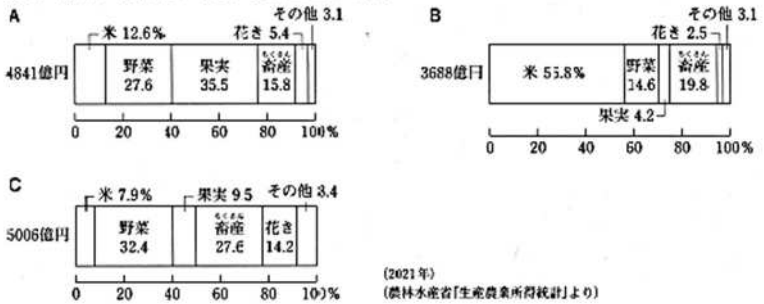
会話文１

そら：中部地方は、地図１のように地形や気候によって、東海、中央高地、北陸の３つの地域に分けられ、それぞれの地域では異なる特徴が見られると学んだよ。
みゆ：その特徴によって、農業にも大きな違いがあると思って、資料を見つけてきたよ。
そら：資料で、北陸を示しているのは、［　あ　］だね。
みゆ：そうだね。北陸は［　い　］から、そのように考えられるね。

地図１　中部地方の３つの地域区分

イ　次の資料のグラフＡ～Ｃは、地図１中に示した東海、中央高地、北陸のいずれかの地域の農業生産額の割合を示しています。会話文１中の［　あ　］にあてはまるグラフと、［　い　］にあてはまる内容の組み合わせとして最も適切なものを、あとの１～６から１つ選び、解答用紙の番号に○をつけなさい。

資料　東海、中央高地、北陸の農業生産額の割合



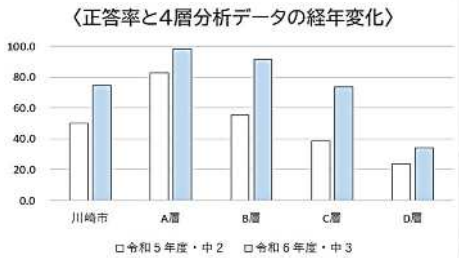
（2021年）
（農林水産省「生産農業所得統計」より）

内容
Ｘ　一年を通して気候が温暖で、野菜や果実、花の栽培がさかんだ
Ｙ　雪解け水が豊富で、それを使った米作りがさかんだ
Ｚ　水はけのよい傾斜地を利用した果実の栽培がさかんだ

１　あ：Ａ　い：Ｘ　　２　あ：Ａ　い：Ｚ　　３　あ：Ｂ　い：Ｘ
４　あ：Ｂ　い：Ｙ　　５　あ：Ｃ　い：Ｙ　　６　あ：Ｃ　い：Ｚ

＜正答率と４層分析データと分析結果＞

正答は4であり、正答率は74.3%でした。A－C層は比較的良い結果がみられましたが、C－D層の差が39．5ポイントと大きな差があります。
　この設問は、東海・中央高地・北陸の気候や地形の特色と、その特色を活かした農作物の栽培の組み合わせを考えることが大切で、雨温図やグラフ、地図帳を活用した地図を読み取る技能を身に付けることができる学習活動を取り入れる必要があります。



＜実態に応じた授業づくりの工夫＞

中学校学習指導要領社会編では、産業を中核とした考察の仕方で「中核となる事象の成立条件を，地域の広がりや地域内の結び付き，人々の対応などに着目して，他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し，表現すること」と述べられています。

日本の諸地域の気候や地形と
産業の関連を考える場を設定する

授業づくりの工夫として、地域の農業や工業などの産業に関する特色として、自然環境や交通・通信などに関する事象と関連付け、産業が地域の自然環境や交通・通信などと深い関係をもっていることを、さまざまな資料や雨温図を用いながら生徒が考えることができる学習活動を取り入れる必要があります。

本問の場合では、東海・中央高地・北陸の気候や地形の特色に着目する必要があります。そこで生徒が、日本海側の北陸では、冬の湿った季節風の影響で雪が多く、雪解け水を活用した米作りがさかんであることに気付けるような授業展開の工夫が必要になります。

授業では、地域の自然環境、人口、産業、交通・通信は、それぞれ独立した特色ではなく、様々な事象が結びつき、影響を及ぼし合って成り立っていることに着目して、地域的特色を中核とした事象と他の事象との関連を捉え、その成り立ちを考察することが大切です。その際に、生徒がそのようなことに気付けるような資料、単元の課題などを用意すること、調べる時間を設けることや、考え、話し合うことを授業に取り入れ、協働的な学習を通して、多面的・多角的に地域的特色をとらえられるように工夫することが大切です。

【学習意識調査から】

質問番号:【95】
「社会の授業で、いま、世の中で起こっていることについて、資料を基に考えることがある。」

＜肯定的な回答割合・4層分析＞

現学年	年度・学年	川崎市	A層	B層	C層	D層	A-Dの差
第1学年	令和6年度・中1	67.3	77.6	72.2	64.0	55.7	21.9
第2学年	令和6年度・中2	59.7	65.9	62.3	59.7	51.7	14.2
	令和5年度・中1	67.3	77.0	72.2	65.0	54.8	22.2
第3学年	令和6年度・中3	59.2	60.9	63.4	59.8	52.5	8.4
	令和5年度・中2	60.0	67.2	64.6	60.0	48.3	18.9

＜分析結果＞

「世の中で起こっていることについて、資料を基に考える」ことは、授業と生徒が生活している社会をつなげるために、とても大切なことです。3学年合わせた肯定的な回答割合の平均は約62.1%であり、昨年度よりも1ポイント上昇しています。また、同一母集団の経年変化でみると中3ではD層の肯定的な回答の割合は4.2ポイント高くなっていることから、D層の授業中での資料を活用する機会が増えていることがうかがえます。一方で、D層の割合が昨年度よりも低くなっているので、引き続き全体の層としても資料を基に考えることへの意識を高めていく必要があります。

世の中で起こっていることに関して、自ら資料を使って調べ、考えることは、主体的な取組といえます。普段の授業を通して、生徒が課題について自主的に調べたり、考えたりすることで得た知識が、今の実際の世の中で起きている社会的な事象と結びついたとき、より社会への関心が高まることが期待されます。

＜実態に応じた授業づくりの工夫＞

社会科の授業では、一つの単元について単元の課題が設定され、その単元の課題を基に単元を計画します。生徒は、単元の課題を自ら解決するために、資料を使って調べたり、比較したりして考えます。生徒が活用する資料は、教科書や資料集、地図帳だけでなくGIGA端末を使いインターネット上でも調べることができます。授業では、生徒が様々なものから調べることができる機会を設けることも大切です。そのためには、それぞれの資料の活用方法を授業での教材を通して教える必要があります。また、情報量が多すぎると、どのように調べたらよいのか分からない生徒も出てくると考えられるので、個に応じた指導も必要になります。

生徒が自ら資料を活用して主体的に学習に取り組むためには、単元の課題や、1コマの授業の課題に対して、生徒の興味や関心を引き出すことが大切です。そのためには、**生徒達から出てきた発言を課題に取り上げたり、身近なものをテーマに取り上げたりするなどの工夫**が必要になります。この**課題設定の工夫1つで、生徒の社会科を学習することへの必要感を高めることができます**。また、生徒が自ら調べたり考えたりしたことを人に伝える機会を設けることも大切です。**自分の意見を伝え、他の人の意見を聞いて学び合うことで得た生きた知識と今の実際の世の中で起きている社会的な事象と結びついたとき、より社会への関心が高まる**ことが期待されます。

4 中学校数学

【第1学年】

集計項目	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	AID層の差	パターン判定
教科総合	65.8	91.0	77.8	61.4	33.0	58.0	Ⅲ
知識・技能	68.6	91.4	79.9	65.5	37.4	54.0	Ⅲ
思考・判断・表現	55.1	89.5	69.5	45.5	16.0	73.5	Ⅲ

設問番号			設問内容	基礎応用	出題形式	知識・技能	思考・判断・表現	川崎市	川崎市学力層別					
大問	小問								A層	B層	C層	D層	AID層の差	パターン判定
1	1	1	7/8×12/35を計算する	基礎	短答式	●		83.8	99.0	95.7	89.7	50.9	48.1	
1	1	2	4/5÷24/25を計算する	基礎	短答式	●		82.4	98.6	95.4	88.8	46.6	52.0	Ⅲ
1	1	3	2 1/6×1 5/13を計算する	基礎	短答式	●		77.2	97.5	92.0	80.3	39.0	58.5	Ⅲ
1	1	4	8/9÷5/16×15/32 を計算する	基礎	短答式	●		69.3	94.3	86.0	70.3	26.7	67.6	Ⅲ
1	1	5	1.3×5/26÷0.75を計算する	基礎	短答式	●		54.4	88.2	69.8	48.4	11.1	77.1	Ⅲ
1	2		計算の見積もりで正しいものを選ぶ	基礎	選択式	●		47.3	81.2	53.3	33.4	21.3	59.9	Ⅰ
1	3		場面を表す文字式で正しいものを選ぶ	基礎	選択式	●		80.5	98.7	93.3	79.7	50.3	48.4	
2	1		正方形と円を組み合わせた図形の面積を求める式を選ぶ	応用	選択式	●		42.1	76.2	46.9	26.8	18.6	57.6	Ⅰ
2	2		角柱の体積を選ぶ	基礎	選択式	●		65.8	91.7	74.5	57.2	39.9	51.8	
2	3		円柱の体積を求める	基礎	短答式	●		56.4	89.3	71.1	50.5	14.7	74.6	Ⅲ
2	4		点対称な図形であるが線対称な図形ではない図形を選ぶ	基礎	選択式	●		78.3	96.5	89.2	78.4	49.3	47.2	
2	5	1	点対称な図形の対応する頂点を選ぶ	基礎	選択式	●		78.8	95.7	88.8	79.2	51.4	44.3	
2	5	2	点対称な図形の対応する辺を選ぶ	基礎	選択式	●		82.4	97.4	92.3	83.8	56.1	41.3	
2	6		拡大図の対応する辺の長さを選ぶ	基礎	選択式	●		83.8	99.3	94.2	83.8	58.0	41.3	
2	7		台形の1/2の縮図をかく	基礎	短答式	●		42.6	67.5	50.1	35.5	17.2	50.3	Ⅲ
2	8		池のおよその面積を求める式を選ぶ	基礎	選択式	●		76.9	95.8	88.7	75.4	47.9	47.9	
3	1		比を使ってミルクの量を求める	基礎	選択式	●		75.0	98.0	90.3	69.0	42.6	55.4	Ⅲ
3	2		比例の関係を表す式を選ぶ	基礎	選択式	●		90.4	98.7	97.1	92.8	73.2	25.5	
3	3		反比例の関係を表した表のあてはまる数を求める	基礎	短答式	●		59.2	91.0	77.5	52.3	16.0	75.0	Ⅲ
4	1		5人のうち3人を選ぶときの決め方の数を選ぶ	基礎	選択式	●		43.1	69.3	46.3	33.8	22.8	46.5	
4	2		4個の中から2個を選ぶ組み合わせの数を選ぶ	基礎	選択式	●		61.6	86.9	73.5	55.4	30.4	56.5	Ⅲ
4	3		柱状グラフで12番目の人の入る階級を選ぶ	応用	選択式	●		70.3	92.3	81.0	66.6	41.2	51.1	Ⅲ
5	1		油1Lの重さから6 1／4L分の重さを求める	応用	記述式		●	62.4	96.0	82.8	56.0	14.6	81.4	Ⅲ
5	2		赤いリボンの長さから青いリボンの長さを求める	応用	記述式		●	37.5	75.2	44.2	24.0	6.8	68.4	Ⅰ
6	1		行き方が何通りあるかを求める	基礎	短答式	●		75.3	98.2	91.1	76.0	35.7	62.5	Ⅲ
6	2		金額の差が何円かを求める	基礎	短答式		●	69.0	95.3	87.8	67.4	25.5	69.8	Ⅲ
6	3		午後3時までに着くことができるかを説明する	応用	記述式		●	66.9	92.5	81.6	63.8	29.7	62.8	Ⅲ
7	1		みおさんの考え方について説明する	応用	記述式		●	48.6	86.9	59.8	34.4	13.1	73.8	Ⅰ
7	2		400人分のセットをつくることができるかを説明する	応用	記述式		●	46.4	91.3	60.6	27.4	6.3	85	Ⅱ

【観点別分析】

知識・技能について

今回最も正答率が高かった問題は、比例の関係の表を見て式を選ぶという大問 3(2)で、D層の正答率も70%を超えています。これは昨年と同様の結果であり、比例の関係を表と式から読み取ることが小学校の段階で定着していると考えられます。一方で反比例の関係を表す表を見て空欄を埋める大問3(3)では、正答率は59%まで下がります。C層では、(2)では93%正答していたのに対し、(3)は52%となっています。比例の表は横に1枠ずつ見比べていけば関係がみえてくるのに対して、反比例は変化の割合が一定ではないので、比例に比べると関係性を理解しにくいと予想されます。

昨年の結果と大きく変化があった問題では、円柱の体積を求める大問2(3)です。昨年度から10ポイント下がっています。これは今年度、円柱の向きを変えた形で出題されたことが原因だと考えます。**同じ題材をいろいろな視点から問うような問題**を取り入れる必要があります。

思考・判断・表現について

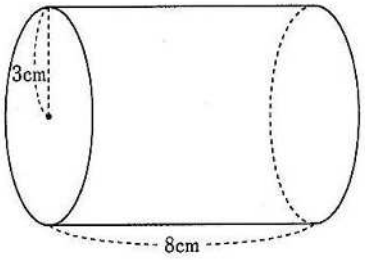
昨年度多くの課題があった記述式の問題で、今年度は正答率が60%を超える問題が増えました。考えを説明する問題にも前向きに取り組める生徒が増えたのではないかと考えられます。多くの問題でパターン判定がⅢの結果になっているのに対して、パターン判定がⅠとなったのが大問7(1)です。全体の重さから封筒が何枚あるのか考察する問いです。問題の中にある式の意味を考えれば説明できる問題でしたが、全体の無解答率は16%、B層の正答率も60%を下回る結果となりました。自分で答えを導くだけでなく、**他の人が考えた式について考察・説明するような場面**を、授業で設定することで、**式を見てその式がどのような意味なのか考え、説明する力をつけること**ができると考えます。昨年度よりD層の無解答率が高かった問題としては、大問5の文章から式をつくり、解く問題です。文章題に苦手意識がある生徒は多くいるので、文章を読んで立式する手順を丁寧に指導していく必要があります。

【主体的に学習に取り組む態度　質問別回答状況一覧】

質問番号	質問内容	母集団	年度・学年	肯定群回答割合（%）	選択肢別回答割合（%）					学力層別　肯定群回答割合（%）				
					よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	その他無回答	A層	B層	C層	D層	A-D層の差
1	算数・数学を使うと、複雑な問題でも簡単な式で表現できたり、わからない値が求められたりして便利だと思う。	川崎市	令和6年度・中1	86.9	46.7	38.4	10.6	2.2	2.0	96.9	93.9	87.8	68.6	28.3
			令和5年度・中1	86.6	46.2	39.2	11.0	2.1	1.4	96.8	92.8	85.9	70.7	26.1
2	解き方がわからない問題でも、これまでに学習したことを活用して、論理的に少しずつ解こうとしている。	川崎市	令和6年度・中1	83.2	34.3	47.2	14.2	2.2	2.1	95.9	89.7	83.3	63.5	32.4
			令和5年度・中1	84.5	38.2	45.1	13.7	1.6	1.4	96.0	91.4	82.9	67.2	28.8
3	新しい問題を解くときに、これまでに習ったことをどうやって使えば解けそうか、考えるようにしている。	川崎市	令和6年度・中1	84.0	37.8	44.4	13.5	2.1	2.2	95.2	89.7	84.0	66.9	28.3
			令和5年度・中1	86.2	41.5	43.4	11.9	1.7	1.6	95.8	91.1	85.0	72.6	23.2
4	アンケート結果をもとに自分たちで結果をまとめたり考察したりするときには、統計の考え方を生かしている。	川崎市	令和6年度・中1	72.0	22.1	48.2	23.7	3.6	2.4	84.0	75.5	71.3	56.9	27.1
			令和5年度・中1	74.1	24.3	48.5	22.4	3.1	1.8	85.0	78.0	70.8	62.3	22.7
5	文章題で求められていることを、式に正しく表すことができたかどうかを振り返って検討するようにしている。	川崎市	令和6年度・中1	72.5	26.0	44.7	23.3	3.6	2.5	85.6	77.3	70.8	55.7	29.9
			令和5年度・中1	75.2	29.4	44.4	21.0	3.3	1.8	86.3	80.6	72.4	60.9	25.4
6	1つの問題について、これまで習ったことを工夫して使えば、いろいろな解き方があると気づくことがある。	川崎市	令和6年度・中1	74.5	29.4	43.2	21.3	3.5	2.6	86.9	80.1	73.2	57.4	29.5
			令和5年度・中1	77.0	31.9	43.6	19.7	2.9	2.0	87.4	81.4	76.2	62.4	25.0
7	問題を解いた後で、もう一度解き方を振り返って、良いところと間違っているところやもっと工夫ができることを見つけ出して、より良い解き方を考えるようにしている。	川崎市	令和6年度・中1	69.6	24.6	43.1	24.6	4.9	2.7	81.6	74.0	67.9	54.6	27.0
			令和5年度・中1	72.9	26.5	44.9	22.4	4.1	2.1	82.9	76.6	70.7	61.2	21.7

質問3での肯定群回答割合は84%でした。D層では３割以上の生徒が「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」と解答しています。授業の中で、今回の問題を解くために既習のどのような内容を使っているのかと意識できるような説明をしながら、**まず「既習を使えないか」と考えるような意識付け**が必要であると考えます。最も肯定群回答割合が低かったのは質問7で、70%を下回っていました。

【授業づくりのアイデア例】
設問内容：円柱の体積を求める（知識・技能）
＜実際の設問＞　大問2
（3）下の円柱の体積を求めなさい。ただし、円周率は 3.14 とします。



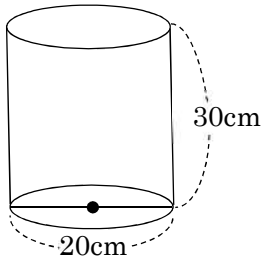
＜正答率と 4 層分析データと分析結果＞

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	A−D層の差	パターン判定
令和6年度・中1	56.4	89.3	71.1	50.5	14.7	74.6	Ⅲ
令和5年度・中1	66.6	92.8	83.9	67.2	22.4	70.4	Ⅲ

4層分析データから A−D層の差が 74.6 ポイント開いていることがわかります。また、同一学年で比較すると、正答率が 56.4%となっており、これは昨年よりも 10 ポイント下がっています。このことから空間図形を一つの方向からしか観察できていないように考えられます。平面図形の運動によって立体が構成されているという見方を養うことが大切です。

＜昨年度の設問＞中1　大問2

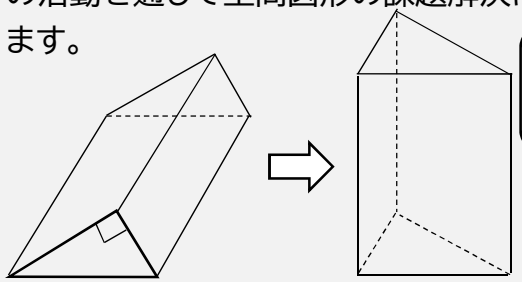
（3）右の円柱の体積を求めなさい。
ただし、円周率は 3.14 とします。



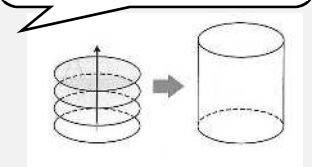
〈実態に応じた授業づくりの工夫〉

空間図形を平面図形をもとにして考える

中学校学習指導要領解説数学編にも、空間図形を考察する際、その構成要素に着目し、立体図形を直線や多角形、円などの平面図形の運動によって構成されたものとみる視点を与えることは、空間的な想像力や直観力を伸ばす上で大切になります。また、角柱や円柱をその底面である多角形や円が一定の方向に平行に移動してできたものとみることとあります。まずは、底面の図形が何かをはっきりと理解できるように一つの方向だけで図形を観察するのではなく、多方向の視点から観察できるように普段の授業から操作などの活動を通して空間図形の課題解決につながると考えられます。



空間図形の持つ性質を頭の中で考察することが大



【第2学年】

集計項目	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	AIDの差層	パターン判定
教科総合	53.5	84.1	63.6	45.1	21.2	62.9	Ⅲ
知識・技能	58.6	89.6	71.6	50.6	22.8	66.8	Ⅲ
思考・判断・表現	45.2	75.3	50.8	36.2	18.7	56.6	Ⅰ

設問番号			設問内容	基礎応用	出題形式	知識・技能	思考・判断・表現	川崎市	川崎市学力層別					
大問	小問								A層	B層	C層	D層	AIDの差層	パターン判定
1	1		正負の計算で常に成り立つものを選ぶ	基礎	選択式	●		84.7	99.5	96.9	88.0	54.3	45.2	
1	2		ある数より小さい整数の中で最も大きなものを答える	基礎	短答式	●		22.2	63.1	19.3	5.6	1.0	62.1	Ⅰ
1	3		正しい文字式を選ぶ	基礎	選択式	●		52.7	90.5	69.2	38.4	12.9	77.6	Ⅱ
1	4		式の値を求める	基礎	短答式	●		58.3	95.0	80.3	48.4	9.6	85.4	Ⅲ
1	5		方程式を解く	基礎	短答式	●		75.1	99.0	95.0	79.7	26.7	72.3	Ⅲ
1	6		方程式を解く	基礎	短答式	●		37.7	76.8	48.7	22.2	3.0	73.8	Ⅰ
2	1		平面上の直線や点の位置関係について正しい文を選ぶ	基礎	選択式	●		64.6	92.0	78.1	57.3	31.1	60.9	Ⅲ
2	2		三角形の頂点と頂点が重なるような折り目を作図する	基礎	短答式	●		58.6	87.7	70.9	53.4	22.6	65.1	Ⅲ
2	3		回転体の立体の名称について正しいものを選ぶ	基礎	選択式	●		67.2	87.6	79.1	67.4	34.6	53.0	Ⅲ
2	4		投影図で表される立体の辺の数を答える	基礎	短答式	●		67.3	94.7	81.7	62.6	30.1	64.6	Ⅲ
2	5		展開図を組み立ててできる円柱の体積を求める	基礎	短答式	●		52.5	87.1	64.9	42.8	15.0	72.1	Ⅲ
3	1		反比例するものを選ぶ	基礎	選択式	●		49.1	85.2	52.8	31.5	26.9	58.3	Ⅰ
3	2		反比例の式を求める	基礎	短答式	●		41.5	89.1	55.9	18.8	2.1	87.0	Ⅱ
3	3		表にあてはまる数を求める	基礎	短答式		●	68.7	92.0	84.6	70.0	28.4	63.6	Ⅲ
3	4		x、y座標がともに整数となる点の個数を求める	基礎	短答式		●	20.3	44.5	18.4	10.5	7.6	36.9	
4	1		相対度数を求める	基礎	短答式	●		80.6	98.1	93.7	83.9	46.9	51.2	Ⅲ
4	2		特定の階級未満の割合を求める	基礎	短答式	●		58.3	93.5	78.4	50.2	11.3	82.2	Ⅲ
5	1		数量関係を正しく表した方程式を選ぶ	基礎	選択式	●		67.6	94.2	80.0	60.0	36.1	58.1	Ⅲ
5	2	ア	表の法則性から特定の箇所の数を答える	基礎	短答式		●	86.7	96.5	92.7	88.6	69.2	27.3	
5	2	イ	表の法則性から特定の数になる表の位置を答える	応用	短答式		●	29.4	53.3	32.1	21.5	10.8	42.5	
6	1		図形の法則を用いて画用紙の枚数から面積を答える	基礎	短答式		●	64.0	92.8	75.3	58.8	28.9	63.9	Ⅲ
6	2		図形の法則を用いて面積から画用紙の枚数を答える	応用	短答式		●	59.9	92.5	68.5	52.9	25.6	66.9	Ⅲ
6	3		画用紙n枚のときの面積の求め方を説明し文字式で表す	応用	記述式		●	23.6	69.8	20.8	3.4	0.3	69.5	Ⅰ
7	1		歯車Bの1秒間の回転数を答える	応用	短答式		●	56.2	96.4	72.4	42.6	13.5	82.9	Ⅱ
7	2		歯車Bの歯の数と毎秒の回転数の関係を式で表す	応用	短答式		●	35.5	86.2	40.1	13.5	2.2	84.0	Ⅰ
7	3		歯車Cの回転に必要な秒数の求め方を説明し答える	応用	記述式		●	8.0	28.7	3.0	0.5	0.0	28.7	

【観点別分析】

知識・技能について

昨年度は計算の見積もりで正しいものを選ぶ問題ではパターン判定がⅢを示していましたが、今年度は大問1の(1)の正負の計算で常に成り立つものを選ぶ問題では正答率が80%を超え、数量や計算の原理・性質に対する理解の深まりがみられます。一方で、大問1の(4)、(5)の式の値を求めたり、方程式を解いたりする、中学校で初めて取り組む計算の問題ではパターン判定がⅢを示しています。今回の方程式の問題では、かっこのついた方程式でしたが、かっこがあるから解けなかった、移項など基礎となる部分に困難さを抱えているなど、様々な原因が考えられます。**どこにつまずきをもっているのか、生徒一人ひとりの困り感に寄り添い、理解度に応じて個別最適な学びを選択できる授業を行っていくこ**とが重要です。

また、昨年度に続き、小数や分数を含む問題は正答率が低く、無解答率も高く、苦手意識が依然としてあるようにみられます。授業のねらいを明確にしながらも、小数や分数についても粘り強く指導していく必要があります。

思考・判断・表現について

昨年度はパターン判定がⅠもしくはⅡでしたが、今年度は多くの問題でパターン判定Ⅲがみられました。パターン判定Ⅲを示したいずれの問題も、数量の変化や規則性に関するものでした。**事象を数量や図形の関係・変化に着目し捉えるために、授業でも表・式・グラフと関連づけて考えること**を意識させていくことが必要です。数学的な見方・考え方が必要となる場面を設定し、既習の事項と結びつけていく学習活動が大切です。

各単元の導入においても、指導に工夫を凝らし、つまずきを減らしたいところです。

また、大問6の(3)、大問7の(2)のように、ことがらを、文字を用いた式で表す問題はパターン判定がⅠを示し、無解答率が高く、正答率も23.6%、35.5%となっています。一方で、具体的な数量を答える大問5(2)アでは正答率が80%を超えています。具体的な数量から考え方を広げ、表・式・グラフを適切に使って帰納的に考えていくことで、文字を数量として捉えられるよう指導していくことが必要です。

【主体的に学習に取り組む態度　質問別回答状況一覧】

質問番号	質問内容	母集団	年度・学年	肯定群回答割合（%）	選択肢別回答割合（%）					学力層別　肯定群回答割合（%）				
					よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	その他無回答	A層	B層	C層	D層	A-D層の差
1	算数・数学を使うと、複雑な問題でも簡単な式で表現できたり、わからない値が求められたりして便利だと思う。	川崎市	令和6年度・中2	80.5	35.4	44.2	15.3	4.0	1.1	95.0	87.3	77.9	61.4	33.6
			令和5年度・中1	86.6	46.2	39.2	11.0	2.1	1.4	96.8	92.8	85.9	70.7	26.1
2	解き方がわからない問題でも、これまでに学習したことを活用して、論理的に少しずつ解こうとしている。	川崎市	令和6年度・中2	77.9	28.8	48.3	18.6	3.2	1.1	94.0	86.1	75.4	55.9	38.1
			令和5年度・中1	84.5	38.2	45.1	13.7	1.6	1.4	96.0	91.4	82.9	67.2	28.8
3	新しい問題を解くときに、これまでに習ったことをどうやって使えば解けそうか、考えるようにしている。	川崎市	令和6年度・中2	80.4	32.7	46.7	16.5	2.9	1.1	93.8	86.1	80.7	60.6	33.2
			令和5年度・中1	86.2	41.5	43.4	11.9	1.7	1.6	95.8	91.1	85.0	72.6	23.2
4	アンケート結果をもとに自分たちで結果をまとめたり考察したりするときには、統計の考え方を生かしている。	川崎市	令和6年度・中2	63.4	16.3	46.2	30.2	6.0	1.3	76.5	68.8	60.3	47.7	28.8
			令和5年度・中1	74.1	24.3	48.5	22.4	3.1	1.8	85.0	78.0	70.8	62.3	22.7
5	文章題で求められていることを、式に正しく表すことができたかどうかを振り返って検討するようにしている。	川崎市	令和6年度・中2	68.6	22.3	45.5	25.8	5.2	1.2	82.2	74.5	67.3	50.3	31.9
			令和5年度・中1	75.2	29.4	44.4	21.0	3.3	1.8	86.3	80.6	72.4	60.9	25.4
6	1つの問題について、これまで習ったことを工夫して使えば、いろいろな解き方があると気づくことがある。	川崎市	令和6年度・中2	68.0	23.2	44.0	26.3	5.2	1.3	83.2	72.3	66.1	50.2	33.0
			令和5年度・中1	77.0	31.9	43.6	19.7	2.9	2.0	87.4	81.4	76.2	62.4	25.0
7	問題を解いた後で、もう一度解き方を振り返って、良いところと間違っているところやもっと工夫ができることを見つけ出して、より良い解き方を考えるようにしている。	川崎市	令和6年度・中2	68.4	21.9	45.5	25.3	5.8	1.4	81.7	74.0	66.5	51.3	30.4
			令和5年度・中1	72.9	26.5	44.9	22.4	4.1	2.1	82.9	76.6	70.7	61.2	21.7

昨年度と比べて、A－D層の差の開きが10ポイント程度と、いずれも大きくなりました。特に質問2、3、6では、学年が上がるにつれて既習内容が増え、どの考え方を使えば解けるのか、想像することが難しくなったように考えられます。数学が苦手な生徒には、教科書やノートのどの部分を振り返ると良いか、ヒントを出す等、自力思考を促す手立てが必要です。また、質問7ではA層は昨年度とあまり変わらない中で、D層は10ポイントほど下がりました。D層の生徒に対して、**自分の解き方を振り返ったり他者の解き方と比較したりする方法を指導する**必要もあると考えられます。

【授業づくりのアイデア例】

設問内容：表にあてはまる数を求める（思考・判断・表現）

＜実際の設問＞大問3

(3) 次の表は、y が x に比例する関係を表したものです。表のアにあてはまる数を求めなさい。

表

x	…	-4	…	0	…	5	…
y	…	ア	…	0	…	-15	…

＜昨年度の設問＞中1　大問3

(3) 下の表は，面積がきまっている三角形の底辺 $x$cm と高さ $y$cm の関係を表したものです。表の㋐にあてはまる数を書きなさい。

底辺 x(cm)	1	2	…	5	…	20	…
高さ y(cm)	60	30	…	㋐	…	3	…

＜正答率と４層分析データと分析結果＞

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	A−D層の差	パターン判定
令和6年度・中2	68.7	92.0	84.6	70.0	28.4	63.6	Ⅲ
令和5年度・中1	75.1	97.5	91.0	77.9	33.9	63.6	Ⅲ

A－D層の差が今年度も昨年度も63．6ポイントと、変化はみられませんでした。パターン判定はいずれもⅢで、C－D層の差が40ポイント以上開いています。このことから、苦手な生徒がわからないまま授業が進んでいる状況であることが考えられます。

各層の正答率を見ると、どの層の正答率も5ポイント程度下がっています。主に、次の3つにつまずきがあったと考えられます。

①表の中に負の数が出てくる

②「三角形の面積」という具体的な事象ではなく、「比例する」という言葉になったことにより、xとyの関係を式にすることが難しい

③今年度の表は「xを2倍、3倍…するとyも2倍、3倍…になる」という関係からの推測が難しい

＜実態に応じた授業づくりの工夫＞

場面から、表・式・グラフを関連付けて考える

中学校学習指導要領解説数学編にも、育成を目指す資質・能力として「関数の特徴を見いだす場合に，表，式，グラフが有効であることを理解するとともに，関数として捉えられる二つの数量の変化や対応の特徴を表，式，グラフによって適切に表現できるようにする」とあります。表に関しては、小学校の学習では表を横に見ていくのに対し、中学校では表を縦に見ていく考え方が、式に表す上で重要になります。授業では、表の特徴を見いだし、説明する活動を増やすことが求められます。

小学校

x	…	1	…	3	…
y	…	4	…	12	…

xを3倍するとyも3倍になる

中学校

x	…	0	…	5	…
y	…	0	…	−15	…

xを－3倍するとyになる

⇒　式　$y=-3x$

【第3学年】

集計項目	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	AとD層の差	パターン判定
教科総合	47.1	80.5	58.0	36.7	13.0	67.5	Ⅲ
知識・技能	47.1	80.3	59.3	36.5	12.3	68.0	Ⅲ
思考・判断・表現	47.0	81.1	54.5	37.4	14.9	66.2	Ⅰ

設問番号			設問内容	基礎応用	出題形式	知識・技能	思考・判断・表現	川崎市	川崎市学力層別					
大問	小問								A層	B層	C層	D層	AとD層の差	パターン判定
1	1		文字式の累乗の計算をする	基礎	短答式	●		69.8	96.2	86.6	70.5	25.8	70.4	Ⅲ
1	2		式の値を求める	基礎	短答式	●		65.7	89.9	81.4	70.1	21.5	68.4	Ⅲ
1	3		文字式の乗法、除法の計算をする	基礎	短答式	●		44.8	79.8	57.7	34.9	7.0	72.8	Ⅲ
1	4		文字式の加減の計算をする	基礎	短答式	●		53.0	87.9	69.7	46.1	8.4	79.5	Ⅲ
1	5		連立方程式を解く	基礎	短答式	●		67.9	94.3	86.7	71.9	18.7	75.6	Ⅲ
1	6		正しい文字式を答える	基礎	短答式	●		48.3	94.8	69.7	26.6	2.1	92.7	Ⅱ
2	1		平行線の性質を利用して角度を求める	基礎	短答式	●		79.3	96.0	92.1	84.4	44.8	51.2	Ⅲ
2	2		等積変形を利用して三角形の面積を答える	応用	短答式		●	44.9	77.7	51.8	36.4	13.7	64.0	Ⅰ
2	3		図形の性質を利用して角度を求める	基礎	短答式	●		48.7	65.8	59.6	48.0	21.5	44.3	
2	4		特別な四角形の成立条件を答える	基礎	選択式		●	63.6	87.3	73.9	58.4	34.7	52.6	Ⅲ
3	1		1次関数の特徴として適切なものを選ぶ	基礎	選択式	●		67.4	96.7	83.2	56.6	33.3	63.4	Ⅱ
3	2		交点の座標から定数a、bを求める	基礎	短答式	●		43.1	85.1	61.0	24.7	1.3	83.8	Ⅱ
3	3	ア	傾きと1点から1次関数の式を求める	基礎	短答式	●		46.9	94.7	71.5	20.3	1.1	93.6	Ⅱ
3	3	イ	1点と切片から1次関数の式を求める	基礎	短答式	●		36.4	92.0	47.7	5.9	0.1	91.9	Ⅰ
3	4		2直線の交点の座標を求める	基礎	短答式	●		36.5	89.7	48.7	7.2	0.1	89.6	Ⅱ
3	5		変域から1次関数の式を求める	基礎	短答式	●		9.7	35.1	3.1	0.4	0.0	35.1	
4	1		場合の数を求める（硬貨）	基礎	短答式	●		59.4	91.6	74.4	53.0	19.1	72.5	Ⅲ
4	2	ア	確率を求める（さいころ）	基礎	短答式	●		57.9	92.6	76.1	52.5	11.1	81.5	Ⅲ
4	2	イ	確率を求める（さいころ）	基礎	短答式	●		36.5	80.2	48.4	17.0	1.0	79.2	Ⅰ
4	3		正しい確率を選ぶ（硬貨、数直線）	基礎	選択式	●		44.8	72.8	45.5	33.4	27.8	45.0	
4	4		確率を求める（カード、図形）	基礎	短答式	●		4.1	8.9	3.3	2.4	1.8	7.1	
5			正しい文字式を入れ、説明を完成させる	基礎	短答式	●		20.3	60.3	17.6	3.1	0.2	60.1	Ⅰ
6	1		長方形の性質から角の大きさを求める	応用	短答式		●	69.1	95.0	87.1	69.2	25.1	69.9	Ⅲ
6	2	ア	等積変形を利用して適切な点のとり方を答える	応用	短答式		●	29.8	77.5	29.8	10.2	1.7	75.8	Ⅰ
6	2	イ	等積変形を利用して適切な点のとり方を答える	応用	短答式		●	39.6	82.5	44.5	22.8	8.7	73.8	Ⅰ
7	1		1次関数を用いて値を答える	基礎	短答式		●	50.8	81.6	59.9	44.7	17.2	64.4	Ⅲ
7	2		1次関数を用いて自分の考えを述べる	応用	記述式		●	30.9	66.5	34.2	19.8	3.2	63.3	Ⅰ

【観点別分析】

知識・技能について

大問1は数と式の領域の問題で、基本的な計算力を問う問題が5問出題されており、5問の正答率を平均すると60%程度となります。しかし、すべてのパターン判定がⅢになっています。A、B、C 層とD層の理解度の差が大きくなっており、改めてD層の計算力を高めていきたいところです。

大問3(5)の変域から1次関数の式を求める問題の正答率が10%に届かず、「1次関数の値の増減とグラフ」や「変域とグラフ」、「1次関数の式の求め方」での内容を関連づけて考えられるように指導する必要があります。

大問5のおうぎ形の弧の長さや面積を文字式で表す問題では、求められる知識等は同じであるにも関わらず、問われ方が変わったことで昨年度と比べ正答率が下がりました。おうぎ形が円の一部であると考え、**公式を自分で導き出すこと**が大切になります。

昨年度の知識・技能の正答率は59.9%で、今年度は47.1%となり、12.8ポイント下がっていますが、全体の知識・技能の正答率も13.6ポイント下がっており、難易度が高かったためと考えられます。

思考・判断・表現について

昨年度の思考・判断・表現の正答率は24.9%で、今年度は47.0%となり、22.1ポイント上がっています。昨年度と比べ出題形式の記述式が減り、短答式が増えた等の変化はありますが、よくできています。これは、日頃の授業で活用に関する問題を多く取り上げたり、生徒が粘り強く取り組んだりした結果が表れたものだと考えられます。

大問2(2)の等積変形を利用して三角形の面積を答える問題では正答率が44.9%となっています。一方で無解答率が35.8%となっています。パターン判定もⅠという判定が出ており、A 層と B、C、D層との正答率の差が大きくなっています。

大問6(1)長方形の性質から角の大きさを求める問題では正答率が70%近くになりました。また、大問2(4)特別な四角形の成立条件を答える問題の正答率も60%を超えています。**日頃の授業からさまざまな図形の性質を丁寧に指導**し、定着している結果と考えられます。

【主体的に学習に取り組む態度　質問別回答状況一覧】

質問番号	質問内容	母集団	年度・学年	肯定群回答割合（%）	選択肢別回答割合（%）					学力層別　肯定群回答割合（%）				
					よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	その他無回答	A層	B層	C層	D層	A-D層の差
1	算数・数学を使うと、複雑な問題でも簡単な式で表現できたり、わからない値が求められたりして便利だと思う。	川崎市	令和6年度・中3	77.7	32.0	44.5	16.4	5.5	1.7	93.8	85.6	74.2	57.4	36.4
			令和5年度・中2	75.9	31.1	43.3	18.6	5.0	2.0	92.6	83.7	71.6	55.7	36.9
2	解き方がわからない問題でも、これまでに学習したことを活用して、論理的に少しずつ解こうとしている。	川崎市	令和6年度・中3	76.8	27.8	47.7	18.5	4.3	1.7	95.3	86.2	72.8	53.0	42.3
			令和5年度・中2	74.9	25.4	48.0	20.9	3.7	2.1	93.1	82.8	70.2	53.5	39.6
3	新しい問題を解くときに、これまでに習ったことをどうやって使えば解けそうか、考えるようにしている。	川崎市	令和6年度・中3	80.8	32.0	47.4	15.2	3.7	1.7	95.9	88.0	78.0	61.1	34.8
			令和5年度・中2	79.2	29.8	47.7	17.1	3.2	2.1	93.5	86.2	75.6	61.5	32.0
4	アンケート結果をもとに自分たちで結果をまとめたり考察したりするときには、統計の考え方を生かしている。	川崎市	令和6年度・中3	58.1	14.8	42.3	33.2	7.9	1.8	71.2	63.7	54.5	42.9	28.3
			令和5年度・中2	62.3	16.4	44.5	30.8	6.0	2.3	75.3	68.4	58.5	47.1	28.2
5	文章題で求められていることを、式に正しく表すことができたかどうかを振り返って検討するようにしている。	川崎市	令和6年度・中3	69.0	23.3	44.4	24.7	5.8	1.8	86.6	76.1	65.6	47.6	39.0
			令和5年度・中2	66.9	21.4	43.9	26.7	5.7	2.3	81.9	73.7	62.6	49.2	32.7
6	1つの問題について、これまで習ったことを工夫して使えば、いろいろな解き方があると気づくことがある。	川崎市	令和6年度・中3	68.9	23.2	44.3	24.4	6.1	1.9	86.1	75.9	64.4	49.0	37.1
			令和5年度・中2	66.5	21.5	43.4	27.0	5.6	2.4	81.4	73.5	61.6	49.5	31.9
7	問題を解いた後で、もう一度解き方を振り返って、良いところと間違っているところやもっと工夫ができることを見つけ出して、より良い解き方を考えるようにしている。	川崎市	令和6年度・中3	68.5	23.4	43.8	24.0	6.8	1.9	85.4	75.3	64.6	48.8	36.6
			令和5年度・中2	66.7	21.3	43.8	26.0	6.4	2.6	80.2	73.1	63.3	50.3	29.9

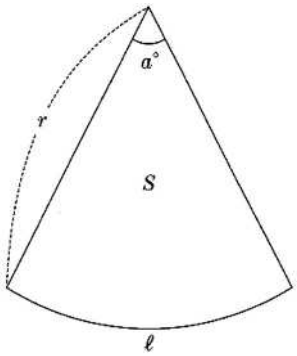
質問3より、既習事項を生かして考えようとしている生徒の割合が80%を超えたことがわかります。**日頃から、既習事項を利用して自分の考えを導き出し解決する活動を積み重ねている**結果と考えられます。質問5と質問7からは、振り返ることに課題があることがわかります。どちらもA－D層の差が、昨年度よりも6ポイント以上大きくなっています。**結論が出た時点で考えることを止めるのではなく、粘り強く考え、問題解決の過程を振り返って評価・改善する態度を養う**場面を増やすことが大切です。

【授業づくりのアイデア例】

設問内容：正しい文字式を入れ、説明を完成させる（知識・技能）

＜実際の設問＞

5 右の図のように、半径が r、中心角が $a°$ のおうぎ形があります。このとき、おうぎ形の弧の長さを ℓ、おうぎ形の面積を S とすると、$S=\frac{1}{2}\ell r$ となります。このことを、次のように【説明】しました。①、②に入る式を答えなさい。ただし、円周率は π を用いるものとします。



【説明】

ℓ を r、a を使った式で表すと、$\ell=$ ①

S を r、a を使った式で表すと、$S=$ ②

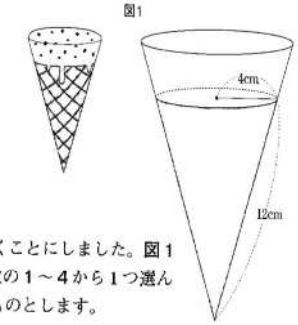
このとき、$\frac{1}{2}\ell r=\frac{1}{2}r\times$ ① $=$ ② だから、

$S=\frac{1}{2}\ell r$ である。

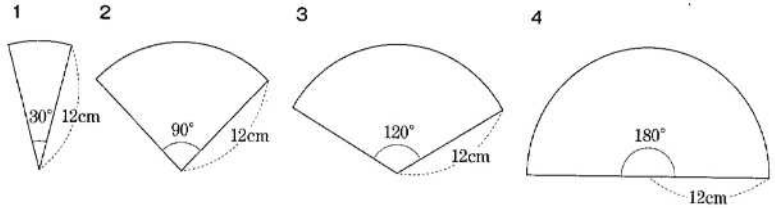
＜昨年度の設問＞

6 英太さんは，週末にホームパーティーを開く予定です。そこで，アイスクリームとコーンを買ってきました。アイスクリームが図1のように円錐の形をしているとき，あとの問いに答えなさい。

図1



(1) 英太さんはアイスクリームを食べやすくするため，コーンのまわりに紙を巻くことにしました。図1のように，円錐部分（色のついた部分）に紙を巻くとき，紙の正しい展開図を次の1～4から1つ選んで，解答用紙の番号に○をつけなさい。ただし，のりしろについては考えないものとします。



＜正答率と４層分析データと分析結果＞

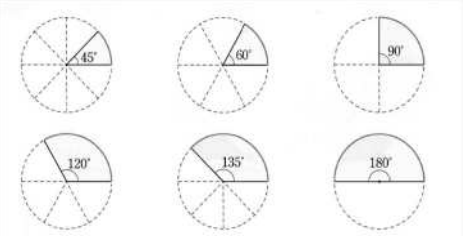
年度・学年	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	A−D層の差	パターン判定
令和6年度・中3	20.3	60.3	17.6	3.1	0.2	60.1	I
令和5年度・中2	75.1	93.5	78.7	71.1	57.0	36.5	

昨年度は「正しい円錐の側面の展開図を選ぶ」問題で、正答率は 75.1%と、円錐を見ておうぎ形の中心角を考え、選ぶことができました。今年度は「おうぎ形の弧の長さや面積を文字を使った式で表す」問題で、求められる知識等は同じであるにも関わらず、正答率が下がりました。基本的な知識・技能の定着はもちろん、問われ方が変わったときに粘り強く考える経験を積むことが必要です。公式をただ覚えるのではなく、なぜそのような公式になるのかというところから理解し、自分でもその公式を導き出すことができるようになることが必要です。

＜実態に応じた授業づくりの工夫＞

公式を自分で導き出す

$l=2\pi r\times\frac{a}{360}$ や $S=\pi r^2\times\frac{a}{360}$ の公式をただ覚えるのではなく、おうぎ形が円の一部だということを考えることが大切です。図のように、円に対してどのくらいの割合になっているかを考えながら授業を行い、円とおうぎ形を関連させながら授業を行うことで、公式の定着を図ることができます。



また、$S=\frac{1}{2}lr$ という公式を覚えるのではなく、なぜそうなるのかを考え、自分でその公式を導いてみるということが大切になります。

【学習意識調査から】

質問番号:【44】
質問内容:筋道立てて、ものごとを考えることができる。

＜肯定的な回答割合・4層分析＞

年度・学年	川崎市	A層	B層	C層	D層	A-Dの差
令和6年度・中1	68.3	81.0	72.3	64.7	55.3	25.7
令和6年度・中2	65.7	78.9	71.5	62.8	50.4	28.5
令和5年度・中1	70.5	83.8	73.2	69.0	56.0	27.8
令和6年度・中3	68.2	83.5	73.3	64.0	52.4	31.1
令和5年度・中2	68.4	83.1	71.6	64.4	54.6	28.5

＜分析結果＞

質問番号44「筋道立てて考える」の肯定的な回答割合について、A－D層の差は3学年ともに20ポイント以上の差がつく結果となっています。経年比較の結果においても、中2、中3ともに、さらに差が開く結果となりました。さらに4層分析では、中2はすべての層においてポイントの低下がみられます。中3は、A、B層はポイントが上昇したのに対し、C、D層が低下した結果、さらに二極化が進んでいることがわかります。これらの結果から考えられることとしては、学年が上がるにつれ、関数、証明などの学習は抽象的であり、生徒にとっては理解するのに時間を要することや、前段階として基礎的な知識や技能が不足していると、論理的思考をするにも難しいことが考えられます。

＜実態に応じた授業づくりの工夫＞

筋道立てて考える力を育むための授業づくりの工夫として、例えば次のような改善策が考えられます。

1. 数学の学習における抽象的な概念の理解を深める

抽象的な概念を具体的な例を使って説明します。例えば、**関数のグラフを描くことで変化の様子を視覚的に理解させる**、**変数を日常の具体的な事例で説明させる**などが有効です。

2. 自分の考えを振り返る時間を設ける

生徒が自分の解答や考え方を振り返る機会が少なく、間違いや改善点に気付きにくい場合には、定期的な自己評価と内省の時間を設けることが必要です。**日常的に生徒が自分の考え方を振り返られるよう、習慣化すること**が重要です。

3. 個に応じた基礎・基本の定着を図る

数学に対する興味・関心が低い生徒や、基礎・基本が定着していないと考えられる生徒にとっては、筋道立てて考えることに対する苦手意識があると思われます。**数学の学習が実生活でどのように役立つのかを具体的な例で示したり**、**基礎・基本を定着させるために個に応じた指導を行う時間を単元の中に確保したりすること**が必要です。

それぞれの生徒には異なる学習スタイルがあり、一律の方法ではすべての生徒にとって効果的ではない場合があります。GIGA端末のドリルパークなどの学習ソフトに取り組むなど、既習の知識や技能を繰り返し活用できるよう**個別の学習スタイルに合わせた指導方法を組み合わせた授業づくりを行うことが大切**です。

5 中学校理科

【第1学年】

集計項目	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	AID層の差	パターン判定
教科総合	58.1	82.2	66.1	52.4	31.8	50.4	Ⅲ
知識・技能	61.9	84.1	69.9	57.3	36.1	48.0	
思考・判断・表現	45.8	76.0	53.3	36.2	17.7	58.3	Ⅰ

設問番号			設問内容	基礎応用	出題形式	知識・技能	思考・判断・表現	川崎市	川崎市学力層別					
大問	小問								A層	B層	C層	D層	AID層の差	パターン判定
1	1		肺のはたらきとして適切なものを選ぶ	基礎	選択式	●		85.3	98.3	95.2	87.0	60.7	37.6	
1	2		二酸化炭素を多く含む血液が流れる血管を選ぶ	基礎	選択式	●		48.8	75.8	53.6	39.3	26.5	49.3	
1	3		養分がたくわえられる臓器とその名前を選ぶ	基礎	選択式	●		57.2	92.6	70.6	43.7	21.7	70.9	Ⅱ
1	4		尿をつくるはたらきをする臓器を選ぶ	基礎	選択式	●		40.6	79.2	45.2	24.1	14.0	65.2	Ⅰ
2	1		半月の名称を書く	基礎	短答式	●		87.8	94.4	91.4	89.7	75.7	18.7	
2	2		太陽の位置をもとに示された半月が見える位置を選ぶ	基礎	選択式	●		56.0	83.3	63.9	47.6	29.4	53.9	Ⅰ
2	3		月の形と位置の変化を選ぶ	基礎	選択式	●		28.5	31.0	28.0	29.5	25.5		
3	1		ろうそくの火が消えた理由について選ぶ	基礎	選択式	●		81.1	99.4	94.6	80.4	50.3	49.1	
3	2		二酸化炭素ができたことを確かめる液体の名称を書く	基礎	短答式	●		62.2	94.5	80.7	54.8	19.0	75.5	Ⅲ
3	3		ろうそくが燃える時間を短くする方法を選ぶ	応用	選択式		●	58.4	88.4	72.4	50.4	22.5	65.9	Ⅲ
4	1		作用点と、持ち上げるのに必要な力の変化を選ぶ	基礎	選択式	●		56.7	80.3	64.2	51.0	31.5	48.8	
4	2		力点、支点、作用点の並び順が同じものを選ぶ	応用	選択式		●	66.9	92.8	75.7	60.4	38.6	54.2	Ⅲ
4	3		てこのつり合いから袋の重さを求める	応用	短答式		●	25.2	46.9	26.6	17.4	9.9	37.0	
5	1		葉が青紫色に変化した部分を選ぶ	基礎	選択式	●		72.2	93.6	80.4	68.0	46.7	46.9	
5	2		植物のからだの中の水が出ていく部位を選ぶ	基礎	選択式	●		84.7	99.6	97.9	90.4	50.9	48.7	
5	3		水循環の中の水の状態を選ぶ	基礎	選択式	●		77.2	96.7	89.0	78.6	44.6	52.1	Ⅲ
5	4		食物連鎖の順として適切なものを選ぶ	基礎	選択式	●		35.6	57.4	32.6	28.2	24.1	33.3	
6	1		実験結果から気体が溶けている水溶液を選ぶ	基礎	選択式	●		35.8	60.1	38.2	26.7	18.3	41.8	
6	2		実験結果から水溶液の液性を書く	基礎	短答式	●		62.0	89.8	69.4	51.6	37.0	52.8	Ⅰ
6	3		水を蒸発させると固体が残る水溶液を選ぶ	応用	選択式		●	65.2	96.3	80.7	58.1	25.9	70.4	Ⅲ
6	4		実験結果について適切なものを選ぶ	基礎	選択式	●		63.0	92.7	75.8	55.9	27.6	65.1	Ⅲ
7	1		泥の層の成り立ちと特徴について適切なものを選ぶ	基礎	選択式	●		62.5	80.9	66.3	60.0	42.7	38.2	
7	2		断層が生じたときに起きたことを選ぶ	基礎	選択式	●		75.9	95.7	83.7	72.7	51.7	44.0	
7	3		「化石」と答える	基礎	短答式	●		83.9	98.9	96.5	89.3	51.1	47.8	
8	1		豆電球の光を強くする方法を答える	基礎	短答式	●		81.2	99.2	94.9	84.0	46.7	52.5	Ⅲ
8	2		電気を運動に変換して利用しているものを選ぶ	基礎	選択式	●		65.5	93.4	78.0	58.0	32.5	60.9	Ⅲ
8	3		LEDの信号機が雪で見えづらくなる理由を答える	応用	記述式		●	41.5	82.0	52.5	26.2	5.3	76.7	Ⅰ
9	1		「消化液」と答える	基礎	短答式	●		19.0	47.7	18.6	7.8	2.0	45.7	
9	2		試験管A、B内のようすを答える。	応用	選択式		●	27.1	55.6	20.4	16.5	15.7	39.9	
9	3		食物のでんぷんが消化されてできる物質の特徴を答える	応用	短答式		●	36.4	70.1	44.8	24.4	6.2	63.9	Ⅰ

【観点別分析】

知識・技能について

理科用語を答える設問について、日常生活でなじみのある「化石」などの用語の正答率は 83.9%です。一方で、「消化液」など、より専門的な用語は 19.0%と、間違えたり、無回答となったりする傾向があり定着に課題があります。理科用語を授業の中で意図的に取り上げたり、一般的な用語と結び付けて説明したりすることで、関連付けて理解できるようになると考えられます。また、授業以外にも博物館などの紹介をすることも考えられます。

昨年度調査の同一学年の変化を見ると、「葉がヨウ素溶液で変化する部分を選ぶ」設問について正答率が 5.5 ポイント上昇し、光合成のしくみについての理解の定着がみられます。一方で「指示薬や実験器具の名称を答える」設問に対しては、正答率が上昇する傾向がある一方で、A−D層の差が 75.5 ポイントも広がっています。授業の中でどの生徒にも指示薬や実験器具を実際に使用させ、名称とその反応を関連付けて理解させることが必要です。

昨年度調査と比較して正答率が上昇した設問では、A、B、C層は正答率が上昇するもののD層の正答率が低下し、A−D層の差が広がる傾向がみられます。**個別最適な学びの充実や、一人ひとりが主体となって観察、実験に取り組む授業づくりをすること**が大切です。

思考・判断・表現について

「ろうそくの火が消えた理由」の設問では、正答率が81.1%と、経験をもとに根拠を持って結論を導くことができていることがうかがえます。一方で、扱ったことのない未知の課題に対して、無回答率が高くなり、考えることをあきらめてしまう傾向があります。

昨年度調査の同一学年の変化では、「てこの規則性」についての設問の正答率が30ポイント以上上昇したものの、A−D層の差が広がりました。今年度調査の「水を蒸発させると固体が残る水溶液を選ぶ」設問の結果も、A−D層の差が 70.4 ポイントと大きくなっています。観察、実験を受け身ではなく、**生徒一人ひとりが GIGA 端末などを活用した他者参照や、協働的な学びを通して他者の意見を取り入れながら、自分で試行錯誤して取り組む環境をつくること**が大切です。

「ろうそくが燃える時間を短くする方法」「てこの作用点と持ち上げるのに必要な力の変化」など、自身の知識や経験を基に、未知の現象について考える設問に対して正答率が低くなる傾向があります。授業の中で、既習の知識や生活経験の中から問題を見いだし、**根拠を持って結果を予想し、自分なりの仮説を立てる探究活動**を積極的に取り入れていくと効果的です。

【授業づくりのアイデア例】

設問内容：水を蒸発させると固体が残る水溶液を選ぶ（思考・判断・表現）

＜実際の設問＞

〔実験〕

① 試験管あ～えを振ると、試験管あからのみ、あわがたくさん出てきた。

② 試験管あ～えの水溶液をそれぞれ蒸発皿に少量ずつとって加熱すると、試験管うのみに白い粒のようなものが残った。

③ 図2のように、ガラス棒を用いて試験管あ～えに入った水溶液をそれぞれ青色と赤色のリトマス紙につけたところ、試験管あとえの水溶液では、青色のリトマス紙が赤色に変化し、試験管いの水溶液では、赤色のリトマス紙が青色に変化した。試験管うの水溶液では、色の変化がなかった。

④ 図3のように、試験管あ～えにそれぞれアルミニウムを入れたところ、試験管えからのみ、アルミニウムからあわが出て、アルミニウムが完全にとけた。

図2

図3

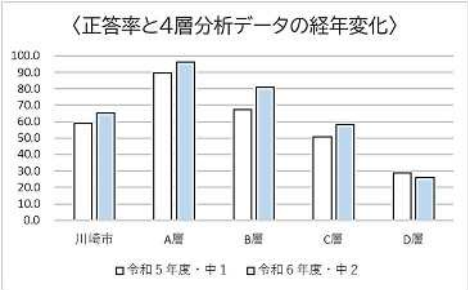
(3) 〔実験〕の結果から、試験管うに入った水溶液として適切なものを、次の1～4から1つ選んで、解答用紙の番号に○をつけなさい。

1 食塩水
2 アンモニア水
3 うすい塩酸
4 炭酸水

＜正答率と４層分析データと分析結果＞

昨年度の類似問題と比べると正答率は6ポイント上昇していますが、4層分析からはC－D層の差が 32 ポイント、A－D層の差が70ポイント開いていること、D層の正答率が昨年度より低下していることがわかります。このことからD層の生徒を中心としたきめ細かな指導、個に応じた指導をさらに充実させることが大切と考えられます。

中1の物質を柱とする領域においては、生活経験や既習の知識を基に、イメージしたり仮説を立てたりする場面が多くありますが、学んだはずの実験器具や指示薬の名称が定着していなかったり、それらを用いることで何がわかるのかが理解できていなかったりする生徒もいます。「どうやって調べればよいのか」「どのような結果になりそうか」など、解決の見通しを立てられない際の手立てが必要と考えられます。



＜実態に応じた授業づくりの工夫＞

「一人ひとりが主体となって実験観察に取り組む」、「根拠を持って結果を予想し、自分なりの仮説を立てる」という視点で授業改善を図るために次のような授業展開や発問をします。特定の単元に限らず、仮説を立てる場面では次の手立てが考えられます。

・生徒が考えをもつ時間を確保し、理解力の高い生徒の考えだけで話し合いを進めないようにします。
・同じような考え、仮説を立てた生徒同士でグループをつくって実験観察を行います。
→生徒一人ひとりの考えを大切にする、いかすという視点をもって指導にあたります。

【中1　身のまわりのものから発生する気体】

①発生の可能性がある気体を想定する場面での発問

「発泡入浴剤を**実際に使った経験から考えられることはありますか**」「**そのとき発生した気体の性質についてわかること**は何だろう」

→色やにおい、換気の必要性の有無などから、発生の可能性がある気体が想定できるようにします。

②仮説を検証する方法を考える場面での発問

既習の実験方法や薬品の場合

「**何を使ったら調べられる**かな？」

未知の実験方法や薬品の場合

「**どのような違いを調べたい**？」

→既習事項を復習するだけでなく、発問を通じて生まれた生徒の考えを起点に、新たな実験器具や薬品を紹介するなど、探究に必要な知識・技能を提示するタイミングを教師が見極めます。

【主体的に学習に取り組む態度　質問別回答状況一覧】

質問番号	質問内容	母集団	年度・学年	肯定群回答割合（%）	選択肢別回答割合（%）					学力層別　肯定群回答割合（%）				
					よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	その他無回答	A層	B層	C層	D層	A-D層の差
1	自ら進んで、自然の様子を観察したり探究しようとしたりしている。	川崎市	令和6年度・中1	66.7	25.0	41.3	26.3	6.8	0.6	74.6	67.9	62.3	62.0	12.6
			令和5年度・中1	68.0	28.1	39.5	25.1	6.7	0.6	74.3	68.5	66.7	62.4	11.9
2	どうやって問題を解決したらいいかと見通しを持って取り組もうとしている。	川崎市	令和6年度・中1	77.3	23.3	53.6	20.1	2.5	0.6	87.6	80.1	75.0	66.5	21.1
			令和5年度・中1	79.2	25.9	52.7	18.5	2.2	0.7	87.7	83.4	78.7	66.8	20.9
3	学習の成果や今後の課題を振り返って明らかにしている。	川崎市	令和6年度・中1	72.2	23.7	48.0	23.9	3.7	0.7	81.2	75.7	70.4	61.5	19.7
			令和5年度・中1	75.0	26.2	48.3	22.2	2.6	0.7	82.9	79.2	75.2	62.7	20.2
4	今日の学習課題をできる限り自分で考えて設定しようとしている。	川崎市	令和6年度・中1	67.4	21.8	45.1	27.6	4.8	0.8	73.8	68.1	66.6	61.0	12.8
			令和5年度・中1	71.1	25.3	45.3	24.8	3.8	0.8	76.8	73.9	70.6	63.1	13.7
5	今日の実験や観察の仮説を自分で立ててから実験や観察に取り組むようにしている。	川崎市	令和6年度・中1	80.4	38.8	41.0	16.6	2.8	0.7	91.1	84.9	78.8	66.4	24.7
			令和5年度・中1	79.9	36.7	42.7	17.1	2.9	0.7	90.5	84.0	78.3	66.6	23.9
6	実験や観察、調査の結果をまとめてレポートに書いている。	川崎市	令和6年度・中1	62.0	20.6	40.9	29.2	8.5	0.8	69.1	65.0	60.5	53.1	16.0
			令和5年度・中1	63.1	21.5	41.1	28.4	8.2	0.7	69.9	65.5	62.0	54.9	15.0
7	実験や観察の結果を踏まえて、主体的に仮説の検証をしている。	川崎市	令和6年度・中1	71.8	26.0	45.1	22.9	5.1	0.9	82.9	74.8	68.1	61.0	21.9
			令和5年度・中1	72.9	28.1	44.2	22.4	4.5	0.8	83.3	76.2	69.4	62.6	20.7

「どうやって問題を解決したらいいかと見通しを持って取り組もうとしている」や「今日の実験や観察の仮説を自分で立ててから実験や観察に取り組むようにしている」ではA－D層の差が20ポイント以上あります。これは昨年度調査と同様であり、引き続き課題がみられます。質問番号5については、昨年度調査と比べ、A、B、C層に改善傾向が見られるものの、D層はほぼ横ばいであることから、 A－D層の差が大きくなっています。特定の単元に限らず、既習の内容や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を立てる経験を十分に重ねるとともに、仮説の検証方法を発想したり、妥当な考えをつくりだしたりする場面を充実させるための工夫が求められます。

【第2学年】

集計項目	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	AIDの層の差	パターン判定
教科総合	47.9	72.6	53.1	40.5	25.4	47.2	
知識・技能	50.1	75.3	56.5	42.8	25.9	49.4	
思考・判断・表現	40.1	63.1	41.2	32.1	24.0	39.1	

設問番号			設問内容	基礎応用	出題形式	知識・技能	思考・判断・表現	川崎市	川崎市学力層別					
大問	小問								A層	B層	C層	D層	AIDの差層	パターン判定
1	A	1	「リンゴ」と「テーブルの上に」を聞き取る	基礎	選択式	●		87.0	97.1	93.3	86.5	71.0	26.1	
1	A	2	曜日と活動を聞き取る	基礎	選択式	●		92.9	99.9	97.8	94.5	79.6	20.3	
1	A	3	「10時15分」を聞き取る	基礎	選択式	●		49.3	71.9	51.4	36.9	37.0		
1	B	1	「あなたは～ですか」への答えを聞き取る	基礎	選択式	●		83.7	98.9	95.0	82.3	58.5	40.4	
1	B	2	「これは誰の鉛筆ですか」への答えを聞き取る	基礎	選択式	●		79.5	99.8	97.5	81.8	39.0	60.8	Ⅲ
1	B	3	「いつ～しましたか」への答えを聞き取る	基礎	選択式	●		61.5	95.2	73.4	45.6	31.9	63.3	Ⅱ
1	C	1	「サリーは午後どこに行きたいか」を聞き取る	基礎	選択式		●	59.4	97.4	79.4	45.9	14.9	82.5	Ⅱ
1	C	2	「トオルはお祭りで何をしたか」を聞き取る	基礎	選択式		●	62.6	86.2	67.1	54.5	42.9	43.3	
1	D	1	ミドリ公園に毎日行く生徒の数を聞き取る	基礎	選択式		●	63.5	95.3	79.0	54.2	25.5	69.8	Ⅲ
1	D	2	「Bに何が入るか」を聞き取る	応用	選択式		●	68.1	91.1	76.2	60.9	44.2	46.9	
2	A	1	「冬」を英語で書く	基礎	短答式	●		64.0	97.1	87.9	59.0	12.0	85.1	Ⅲ
2	A	2	「食べた」を英語で書く	基礎	短答式	●		63.2	98.4	89.2	56.8	8.5	89.9	Ⅲ
2	B	1	Doを選ぶ	基礎	選択式	●		53.1	90.3	60.0	38.4	23.8	66.5	Ⅰ
2	B	2	be動詞の過去形wasを選ぶ。	基礎	選択式	●		66.3	96.5	86.4	58.8	23.3	73.2	Ⅲ
2	B	3	現在進行形になるようlisteningを選ぶ	基礎	選択式	●		53.7	86.8	54.3	38.2	35.7	51.1	Ⅰ
3	1		命令文を正しい語順で表す	基礎	短答式	●		63.2	99.1	88.8	51.4	13.6	85.5	Ⅲ
3	2		代名詞を使った文を正しい語順で表す	基礎	短答式	●		84.1	99.4	96.0	86.6	54.3	45.1	
3	3		How manyで始まる疑問文を正しい語順で表す。	基礎	短答式	●		46.6	92.7	63.1	26.2	4.2	88.5	Ⅱ
3	4		What+名詞で始まる疑問文を正しい語順で表す	基礎	短答式	●		62.8	98.1	81.3	53.9	18.0	80.1	Ⅲ
4	1		対話の文脈に合う、時刻を尋ねる文を書く	応用	記述式		●	51.7	96.4	78.5	30.0	1.8	94.6	Ⅱ
4	2		対話の文脈に合う、提案等の文を書く	応用	記述式		●	35.2	72.4	45.1	19.7	3.6	68.8	Ⅰ
5	1		メッセージのやり取りを読み、質問に合う答えを書く	基礎	記述式		●	41.8	89.3	57.2	20.0	0.7	88.6	Ⅱ
5	2		メッセージのやり取りを読み、質問に合う答えを書く	基礎	記述式		●	48.0	93.3	70.6	26.5	1.4	91.9	Ⅱ
6	1		ホームページを読み、講習の開催日を選ぶ	応用	選択式		●	81.3	98.4	95.0	81.6	50.3	48.1	
6	2		ホームページを読み、正しい内容を選ぶ	応用	選択式		●	51.9	89.8	55.0	36.8	26.1	63.7	Ⅰ
7			ブログを読み、正しいタイトルを選ぶ	応用	選択式		●	27.2	54.6	21.4	14.4	18.2		
8	1		アンケートの結果と会話を読み、空欄に適する語を選ぶ	基礎	選択式		●	39.3	81.6	39.3	20.4	15.7	65.9	Ⅰ
8	2		アンケートの結果と会話を読み、内容に合う英文を選ぶ	基礎	選択式		●	53.2	95.9	67.7	33.7	15.4	80.5	Ⅱ
9	1		英文を読み、itが表すものを選ぶ	応用	選択式		●	66.8	94.8	80.6	58.7	32.9	61.9	Ⅲ
9	2		英文を読み、内容に合う英文を選ぶ	応用	選択式		●	42.2	82.3	40.2	24.9	21.3	61.0	Ⅰ
9	3	A	英文を読み、英語の要約文に適する語句を選ぶ	応用	選択式		●	43.9	77.4	47.5	28.9	21.5	55.9	Ⅰ
9	3	B	英文を読み、英語の要約文に適する語句を選ぶ	応用	選択式		●	41.5	82.1	40.4	25.8	17.8	64.3	Ⅰ
9	4		英文を読み、質問に対して英文で答える	応用	記述式		●	33.3	90.7	38.0	4.7	0.0	90.7	Ⅰ

【観点別分析】

知識・技能について

「フックの法則について正しい語句を選ぶ」問いではA－D層の差が55．7ポイントであり、「地質年代」という語句を答えさせる問いではA層の正答率が30．8%と低くなっています。単元によって理科用語の定着に差があり、昨年度に引き続き、理科用語を使いながら**概念的な理解を促す授業づくりや、生徒が説明できるような授業**が大切です。

またフックの法則に関しては、昨年度の中2でも「ばねを引く力の大きさとばねののびの関係を作図する」問いでA－D層の差が73．1ポイントとなっており、D層の正答率が低い傾向がみられます。今年度調査では「密度を求める」問いもあり、A－D層の差が74．5ポイントと大きく、フックの法則と同様の傾向があると考えられます。D層の生徒が主体的に取り組み、粘り強く基本的な技能の習得ができるような授業改善を実践していくことが必要です。

思考・判断・表現について

「反射した光の進み方を作図する」問いでは、A－D層の差が68．5ポイントとなっており、続く「虹が見える条件について答える」問いでは、A層の正答率が47．8%と低くなっています。作図の思考・判断・表現については、既習事項の延長と考えられる生徒にとっては難しくないものの、光の反射と屈折を概念的に理解しきれていない生徒にとっては難しく感じられ、学習内容についていけなかった生徒にとってははじめから諦めてしまっている可能性が考えられます。また、虹が見える条件の正答率が低いことについては、日常生活から科学的事象を見いだしたり、考えたりする機会が少なくなっている状況が考えられます。

昨年度に引き続き、**既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説、解決方法を発想し、話し合い活動を通してより妥当な考えを構築できるような授業展開を充実させていくこと**が大切であると考えます。

【授業づくりのアイデア例】

設問内容：フックの法則について正しい語句を選ぶ（知識・技能）

＜実際の設問＞

6 ばねA、Bを使って、次のような〔実験〕を行いました。これについて、あとの問いに答えなさい。ただし、100gの物体にはたらく重力の大きさを1Nとし、ばねはのびきらないものとします。

〔実験〕

図1のような装置で、もとの長さが8.0cmのばねAに質量10gのおもりを1個から5個まで1個ずつつるしていき、おもりの個数とばねののびを測定した。また、もとの長さが5.0cmのばねBを用いて同様にばねののびを測定した。図2は、ばねA、Bにつるしたおもりの個数とばねののびとの関係を表したグラフである。

図1

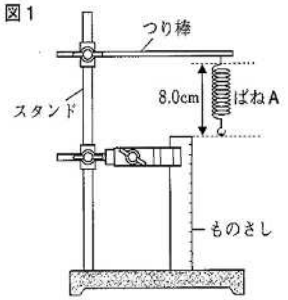
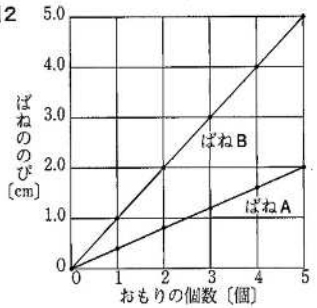


図2



(1) 〔実験〕からわかることについて述べた次の文章中の［あ］、［い］にあてはまる語句の組み合わせとして、正しいものをあとの1～4から1つ選び、解答用紙の番号に○をつけなさい。

> ばねA、Bともに、ばねを引く力の大きさと［あ］が比例していることがわかる。このような関係を［い］という。

1　あ：ばねののび　　い：フックの法則
2　あ：ばねののび　　い：力のつり合い
3　あ：ばねのもとの長さ　い：フックの法則
4　あ：ばねのもとの長さ　い：力のつり合い

＜正答率と4層分析データの経年変化＞

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	A－D層の差	パターン判定
令和5年度・中1	30.2	49.7	31.3	23.4	16.4	33.3	
令和6年度・中2	78.7	98.8	92.5	80.4	43.1	55.7	Ⅲ

＜分析結果＞

今回の「フックの法則」についての問題では、フックの法則という理科用語を聞いたことがあっても、ばねを引く力の大きさとばねののびが比例するという概念的な理解は出来ていないことが考えられます。4層分析では、A層からC層の正答率は高いです。一方で、D層の正答率は43.1%であり、C層との差は約40ポイント開いています。昨年度調査の「はさみの作用点より小さな力で切る方法」の問いにおいても、D層の正答率が低い傾向があるため、D層への指導の充実が課題であると考えます。

＜実態に応じた授業づくりの工夫＞

【力の大きさとばねののびの関係】

①ICTの効果的活用

GIGA端末を活用し、ばねののびの実験をシミュレーションソフトで何度も再現することで、規則性を見いだすことを促します。

②授業改善の工夫

上皿はかりを用いて「なぜだろう？」と考えるきっかけをつくります。「はかりを右に倒すと針はマイナスを指すが、左に倒すと針はどちらを指すでしょうか。」という問いから、仮説を立てます。その後、構造が単純な上皿はかりを用いて、生徒は仮説・検証を進めていきます。その結果として、ばねののびが針の数値と関係していることに気付き、「ばねを引く力の大きさとばねののびが比例する」という概念的な理解につなげていきます。

【主体的に学習に取り組む態度　質問別回答状況一覧】

質問番号	質問内容	母集団	年度・学年	肯定群回答割合（%）	選択肢別回答割合（%）					学力層別　肯定群回答割合（%）				
					よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	その他無回答	A層	B層	C層	D層	A-D層の差
1	自ら進んで、自然の様子を観察したり実験したりしようとしている。	川崎市	令和6年度・中2	56.7	18.6	37.8	32.1	11.0	0.6	60.5	56.0	55.6	54.7	5.8
			令和5年度・中1	68.0	28.1	39.5	25.1	6.7	0.6	74.3	68.5	66.7	62.4	11.9
2	どうやって問題を解決したらいいかと見通しを持って取り組もうとしている。	川崎市	令和6年度・中2	71.8	18.0	53.4	24.2	3.9	0.6	83.9	76.6	66.8	59.8	24.1
			令和5年度・中1	79.2	25.9	52.7	18.5	2.2	0.7	87.7	83.4	78.7	66.8	20.9
3	学習の成果や今後の課題を振り返って明らかにしている。	川崎市	令和6年度・中2	69.6	20.5	48.6	26.2	4.1	0.7	81.6	72.8	66.5	57.3	24.3
			令和5年度・中1	75.0	26.2	48.3	22.2	2.6	0.7	82.9	79.2	75.2	62.7	20.2
4	今日の学習課題を、できる限り自分で考えて設定しようとしている。	川崎市	令和6年度・中2	65.8	20.0	45.3	28.1	5.9	0.7	72.8	69.0	64.2	57.1	15.7
			令和5年度・中1	71.1	25.3	45.3	24.8	3.8	0.8	76.8	73.9	70.6	63.1	13.7
5	今日の実験や観察の仮説を自分で立ててから実験や観察に取り組むようにしている。	川崎市	令和6年度・中2	75.6	27.3	47.8	20.4	3.8	0.7	86.2	79.3	73.3	63.5	22.7
			令和5年度・中1	79.9	36.7	42.7	17.1	2.9	0.7	90.5	84.0	78.3	66.6	23.9
6	実験や観察、調査の結果をまとめてレポートに書いている。	川崎市	令和6年度・中2	70.0	26.8	42.7	23.7	6.1	0.7	79.7	73.9	67.9	58.4	21.3
			令和5年度・中1	63.1	21.5	41.1	28.4	8.2	0.7	69.9	65.5	62.0	54.9	15.0
7	実験や観察の結果を踏まえて、主体的に仮説の検証をしている。	川崎市	令和6年度・中2	67.7	20.6	46.6	26.0	6.1	0.7	80.4	71.7	62.0	56.5	23.9
			令和5年度・中1	72.9	28.1	44.2	22.4	4.5	0.8	83.3	76.2	69.4	62.6	20.7

同一母集団である昨年度の中1の結果と同様に、「どうやって問題を解決したらよいかと見通しを持って取り組もうとしている」や「今日の実験や観察の仮説を自分で立ててから実験や観察に取り組むようにしている」という質問に対して、A－D層の差が20ポイント以上みられます。引き続き**学習のめあてやねらいを明確にして、生徒が自ら課題を見いだせるような発問を意識**し、「なぜだろう？」「きっとこうかもしれない」という仮説を生徒が主体的に立てられるような授業の工夫が必要です。

【第3学年】

集計項目	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	AID層の差	パターン判定
教科総合	51.6	79.3	59.5	43.2	24.4	54.9	Ⅰ
知識・技能	53.8	82.5	62.9	45.0	25.0	57.5	Ⅲ
思考・判断・表現	44.0	68.5	47.7	37.0	22.7	45.8	

設問番号			設問内容	基礎応用	出題形式	知識・技能	思考・判断・表現	川崎市	川崎市学力層別					
大問	小問								A層	B層	C層	D層	AID層の差	パターン判定
1	1		「蒸散」と答える	基礎	短答式	●		55.7	93.4	76.4	43.2	9.9	83.5	Ⅲ
1	2		血液の説明に入る語句の正しい組み合わせを選ぶ	基礎	選択式	●		40.2	77.9	44.6	23.7	14.5	63.4	Ⅰ
1	3		物質のつくり・分類について正しい説明を選ぶ	基礎	選択式	●		68.8	89.7	80.2	66.9	38.2	51.5	Ⅲ
1	4		燃焼について正しい説明を選ぶ	基礎	選択式	●		70.5	94.0	83.1	67.3	37.5	56.5	Ⅲ
1	5		日本の四季について正しい説明を選ぶ	基礎	選択式	●		48.1	67.7	52.0	42.2	30.4	37.3	
1	6		圧力を計算して答える	基礎	短答式	●		18.3	50.7	15.8	5.0	1.8	48.9	
1	7		物質の種類と電気抵抗について正しい説明を選ぶ	基礎	選択式	●		71.7	97.6	88.3	65.9	34.8	62.8	Ⅲ
1	8		電流を計算して答える	応用	短答式	●		26.7	72.6	25.1	7.8	1.4	71.2	Ⅰ
2	1	ア	細胞の核について正しい説明を選ぶ	基礎	選択式	●		77.8	98.0	91.5	75.0	46.9	51.1	Ⅲ
2	1	イ	細胞壁について正しい説明を選ぶ	基礎	選択式	●		69.3	94.3	83.2	67.1	32.5	61.8	Ⅲ
2	2		石灰水が白くにごらなかった理由を正しく選ぶ	応用	選択式		●	77.5	98.5	93.5	78.4	39.5	59.0	Ⅲ
3	1	ア	酸化銀の加熱後の物質について正しい説明を選ぶ	基礎	選択式	●		56.1	89.6	69.3	40.1	25.4	64.2	Ⅱ
3	1	イ	酸化銀の分解により生じる気体の性質を選ぶ	基礎	選択式	●		64.0	93.6	79.2	56.1	27.0	66.6	Ⅲ
3	2		気体の発生量から反応した試薬の質量の範囲を選ぶ	応用	選択式		●	26.6	30.3	20.2	24.5	31.3		
4	1		電流計のつなぎ方の正しい組み合わせを選ぶ	基礎	選択式	●		53.4	87.5	63.0	40.1	23.2	64.3	Ⅰ
4	2		電熱線a、bを直列につないだ回路のグラフをかく	応用	記述式		●	18.1	62.1	9.1	1.0	0.2	61.9	Ⅰ
4	3		消費される電気エネルギーについて正しい説明を選ぶ	基礎	選択式	●		29.4	51.0	26.1	21.4	19.1	31.9	
5	1		血液循環の説明にあてはまる語句の組み合わせを選ぶ	基礎	選択式	●		52.5	81.1	57.5	41.8	29.8	51.3	Ⅰ
5	2		「反射」と答える	基礎	短答式	●		65.3	96.9	84.1	59.7	20.3	76.6	Ⅲ
6	1	ア	酸化により質量がふえる理由の説明を完成させる	基礎	記述式	●		66.4	96.7	89.2	60.9	18.7	78.0	Ⅲ
6	1	イ	物質の酸化前後での反応の説明で正しいものを選ぶ	基礎	選択式	●		34.4	59.2	34.1	23.4	21.0	38.2	
6	2		酸化還元反応の説明に入る語句の組み合わせを選ぶ	基礎	選択式	●		76.8	98.5	93.3	75.7	39.5	59.0	Ⅲ
7	1		電流と方位磁針の向きの正しい組み合わせを選ぶ	基礎	選択式	●		40.6	60.7	38.4	31.5	31.8		
7	2	ア	コイルがより大きく動く方法を選ぶ	基礎	選択式	●		57.4	94.5	71.7	42.0	21.3	73.2	Ⅱ
7	2	イ	コイルが逆向きに動く方法を選ぶ	応用	選択式		●	79.5	98.8	94.6	82.0	42.7	56.1	Ⅲ
8	1		天気図を時間経過順に正しく並べる	基礎	選択式	●		82.6	98.8	94.4	85.0	52.0	46.8	
8	2	ア	低気圧の進路を正しく選ぶ	応用	選択式		●	38.9	60.7	41.2	28.8	24.9	35.8	
8	2	イ	温帯低気圧周辺の風の吹き方の説明を完成させる	基礎	選択式	●		38.2	65.7	39.2	27.5	20.4	45.3	
9	1		「電磁誘導」と答える	基礎	短答式	●		28.2	70.6	30.0	10.3	1.7	68.9	Ⅰ
9	2		発光ダイオードが光るものを選ぶ	応用	選択式		●	36.8	68.9	41.8	24.0	12.5	56.4	Ⅰ
9	3		電磁調理器でなべの中の水が温まるしくみを答える	応用	記述式		●	30.3	59.8	33.1	20.5	7.5	52.3	Ⅰ

【観点別分析】

知識・技能について

平均正答率は、昨年度調査の51.7%から53.8%へ2.1ポイント上昇しています。また、A層は6.7ポイント、B層は4.3ポイント上昇が見られる一方で、C層は0.7ポイントの上昇、D層は3.2ポイントの低下がみられることから**C－D層への支援が必要である**と考えられます。

天気図を時間経過順に正しく並べる設問では、正答率は82.6%でAからC層のいずれも85%を超える結果でした。D層においても52.0%となっており、昨年度調査の70%を超える正答率の問題からも観察力が身に付いていることがわかります。

一方で、「蒸散」を答える設問では、A－D層の差が83.5ポイントで、D層の約半数が無回答でした。誤答としては「蒸散」と「蒸発」を取り違えているなどの可能性が考えられます。また、電流を計算して答える設問、「電磁誘導」と答える設問については、A－D層の差が60ポイントを超えると同時に A－B層の差が40ポイントを超えています。理科用語を正しく用いながら、概念的な理解を深める授業づくりを目指していく必要があります。

思考・判断・表現について

石灰水が白くにごらなかった理由を正しく選ぶ設問では、正答率は77.5%で、光合成の実験に関して条件制御が思考や判断に結び付けられていると考えられます。また昨年度調査の結果からも、実験に関する問題で約70%の正答率であることから、仮説を立て、現象を観察し、結果をレポートにまとめるなどの取組が成果につながっていると考えられます。

一方で、2つの電熱線を直列につないだ回路のグラフをかく設問では、正答率は18.1%で A－B層の差が53.0ポイントでした。A層の特定の生徒だけが、この設問を理解していることがわかります。また、同類の情報を読み取る問題で、昨年度調査の地層に関してある地点の河口からの距離の変化を説明する設問では、正答率は18.7%で無回答は41.5%でした。今年度の無回答が29.5%に低下したものの、情報を正確に読み取り、分析し、判断して表現することに課題がみられます。**既習の内容を基に、根拠のある予想や仮説、解決する方法を発想し、考察を通してより妥当な考えをつくりだす場面を充実させること**が大切です。

【授業づくりのアイデア例】

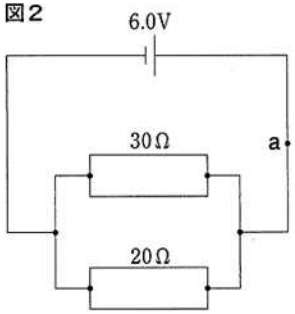
設問内容：電流を計算して答える（知識・技能）

＜実際の設問＞

1 次の問いに答えなさい。

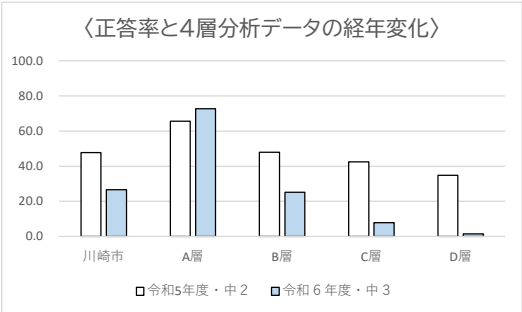
(8) 図２のように、30Ωの抵抗器と 20Ωの抵抗器を並列につなぎ、6.0V の電圧を加えました。このとき、ａ点を流れる電流の大きさは何 A ですか。解答用紙に書きなさい。

図２



＜正答率と4層分析データと分析結果＞

4層分析から、A－D層の差は約70ポイント離れていることがわかります。さらに、A－とB層の差についても、約50ポイント離れていることから、A層だけがこの設問を理解している状況であることが分かります。



また、電流計のつなぎ方の設問では正答率は53％、グラフを記述する設問で正答率18％で、数的処理やグラフ処理という課題の理解につなげるためにも、まずは、「電流は回路が枝分かれするとその値も分かれる」ということや「電圧は抵抗がある区間に加わる」などの本内容の基礎・基本的な概念の理解が大切です。また、昨年度の概念的な理解を要する設問についてもD層にかけて正答率が低下しており、概念的な理解が育まれる授業づくりが大切です。

＜実態に応じた授業づくりの工夫＞

本単元の導入は、豆電球の明るさの違いから、電流や電圧などの規則を探究することから始まります。教科書は、回路を川に見立て、並列回路や直列回路において水流の量や落差を事例として挙げています。しかし、これらの概念を生徒が確立するためには、自発的に考え表現して個別最適な学びを実現していくことが大切です。

左図は、電流を人数、電圧を所持しているお金、それらをかけあわせたものを電力として表現している生徒の事例です。自分なりに電流や電圧や電力を概念的に理解しています。

上記のような概念的な理解のためには、教師が実験を通して、電流の性質を「途中で減らないもの」、「枝分かれすると足し算が成り立つもの」といったように、ポイントをおさえ生徒に指導する必要があります。また、**生徒の表現については、十分ではないものであってもそれを価値付け、その後、自ら考えを調整できるように生徒の理解に応じた授業展開や言葉がけをすること**が大切です。

【主体的に学習に取り組む態度　質問別回答状況一覧】

質問番号	質問内容	母集団	年度・学年	肯定群回答割合（%）	選択肢別回答割合（%）					学力層別　肯定群回答割合（%）				
					よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	その他無回答	A層	B層	C層	D層	A-D層の差
1	自ら進んで、自然の様子を観察したり実験したりしようとしている。	川崎市	令和6年度・中3	55.7	17.9	37.5	32.7	11.4	0.5	61.8	58.1	52.7	50.0	11.8
			令和5年度・中2	58.1	19.3	38.3	31.8	9.9	0.7	61.6	59.1	55.9	55.5	6.1
2	どうやって問題を解決したらいいかと見通しを持って取り組もうとしている。	川崎市	令和6年度・中3	72.6	18.5	53.7	23.5	3.8	0.5	86.0	77.5	69.7	56.9	29.1
			令和5年度・中2	72.7	18.4	53.8	23.8	3.3	0.7	85.6	77.4	69.2	58.6	27.0
3	学習の成果や今後の課題を振り返って明らかにしている。	川崎市	令和6年度・中3	71.7	21.8	49.6	23.7	4.4	0.5	85.9	75.8	67.6	57.5	28.4
			令和5年度・中2	71.2	21.8	48.8	24.8	3.8	0.7	82.9	76.6	67.5	57.6	25.3
4	今日の学習課題を、できる限り自分で考えて設定しようとしている。	川崎市	令和6年度・中3	66.7	20.3	46.0	27.3	5.8	0.5	75.1	70.3	65.7	55.7	19.4
			令和5年度・中2	66.4	20.1	45.8	28.2	5.1	0.8	74.1	69.3	66.0	56.1	18.0
5	今日の実験や観察の仮説を自分で立ててから実験や観察に取り組むようにしている。	川崎市	令和6年度・中3	76.8	27.8	48.6	19.3	3.8	0.5	86.8	82.2	75.7	62.4	24.4
			令和5年度・中2	74.3	26.1	47.6	21.6	3.8	0.8	86.6	78.7	71.8	60.1	26.5
6	実験や観察、調査の結果をまとめてレポートに書いている。	川崎市	令和6年度・中3	77.5	32.2	44.9	17.6	4.8	0.5	88.1	82.8	76.1	63.0	25.1
			令和5年度・中2	71.6	27.3	43.7	22.8	5.4	0.8	81.4	75.2	70.6	59.0	22.4
7	実験や観察の結果を踏まえて、主体的に仮説の検証をしている。	川崎市	令和6年度・中3	70.9	22.5	48.0	23.5	5.4	0.6	85.6	76.9	67.0	54.9	29.7
			令和5年度・中2	67.6	20.9	46.1	26.4	5.7	0.9	80.8	72.5	63.7	53.1	27.7

「今日の実験や観察の仮説を自分で立ててから実験や観察に取り組むようにしている」では、どの層も昨年度調査に比べ肯定群回答の割合が上昇し、A－D層の差は昨年度よりも2．1ポイント縮んでいます。一方で、「学習の成果や今後の課題を振り返って明らかにしている」では、A 層は肯定群回答の割合が上昇していますが、A－D層の差が昨年度調査よりも3.1ポイント開いています。**仮説を自分で立ててから観察、実験を行い、結果をレポートに書くなどの学習活動を継続的に充実していくこと**が大切です。さらに、学習後に自らの学習や学習方法を振り返ったり、生徒同士で話し合ったり議論したりするなど、異なる視点からの意見を参考にしながら、**自らの学びを調整したり、具体的な課題を見つけて今後の課題を明らかにしたりする場面を設定すること**が大切です。

【学習意識調査から】

質問番号:【97】
理科の授業で、実験や調査に取り組む前に、仮説を立てたり結果を予想したりしている。
質問番号:【99】
理科の授業で、実験や調査が終わったあとに、気づいたことや新しい疑問などについて、話し合ったりまとめたりしている。

＜肯定的な回答割合・4層分析＞

97〈肯定的な回答割合・4層分析〉

年度・学年	川崎市	A層	B層	C層	D層	A-Dの差
令和6年度・中1	83.4	93.4	88.4	83	68.9	24.5
令和6年度・中2	80.2	88.2	85.7	79.8	68.1	20.1
令和5年度・中1	82	92.5	88.2	80.2	67	25.5
令和6年度・中3	84.2	90.7	88.7	86.7	71.6	19.1
令和5年度・中2	82.7	92.4	88.2	82.6	67.6	24.8

99〈肯定的な回答割合・4層分析〉

年度・学年	川崎市	A層	B層	C層	D層	A-Dの差
令和6年度・中1	75.1	85.4	79.7	73.3	62.2	23.2
令和6年度・中2	72.2	81.7	76.1	70.9	61.7	20.0
令和5年度・中1	73.5	82.8	78.8	71.8	60.3	22.5
令和6年度・中3	77.2	85.6	80.9	78.3	64.9	20.7
令和5年度・中2	73.6	82.3	77.6	73.7	61	21.3

＜分析結果＞

質問97と比べて99の肯定的回答の割合が低い傾向が見られます。前年度よりD層の肯定的回答の割合が高まり、A－Dの差が縮小していることから、対話を通して自らの学びを振り返り、次の学びにつなごうとする姿がみられる傾向が現れています。探究の過程を通して、97と99の学習活動を一体的に充実させ、科学的に探究する力を育んでいくことが課題です。

＜実態に応じた授業づくりの工夫＞

昨年度の結果から、理科の授業で探究的にグループ活動を行う際に、特定の生徒が中心とならないよう、役割分担やローテーションなど、教師が適切な働きかけを行うことや、事後の活動で、わかったことを挙げさせる指導にとどめず、わからなかったことや、それをどのように解決しようとしたか等の振り返りを行い、活動の質を高めていくことを目指してきました。今年度の分析結果から、これらの課題について授業改善を行ってきた成果が少しずつ現れており、今後も引き続き主体的・対話的で深い学びの質を高めていくことが必要です。

グループ活動では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図った授業改善が必要です。分担表を作成し、実験を計画的に実施する上での役割や順番を明確にすることで、学習が苦手な生徒でも見通しをもって活動に取り組めるよう留意した指導や、分担をローテーションさせることで、一人ひとりの生徒が様々な役割に対してより主体的に取り組むことができるように留意した指導などが考えられます。また、事後の振り返りの時間もしっかりと確保し、グループの中で個人が果たした役割や、それが実験成果にどのように関わったのかをより具体的に振り返らせることで、一人ひとりの生徒が、自己有用感や自己肯定感を高め、その後の学習活動により主体的に取り組むことができるようにしていくことが大切です。

このように、グループ活動においても、主体的・対話的で深い学びの質を高めていくことが、一人ひとりの生徒の「わかる」と自己有用感や自己肯定感の高まりにつながり、かわさき教育プランの基本目標の「共生・協働の精神」を育むことにつながります。

6 中学校英語

【第1学年】

集計項目	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	AID層の差	パターン判定
教科総合	89.8	100.0	95.2	90.3	71.5	28.5	
知識・技能	89.6	100.0	93.4	90.1	71.8	28.2	
思考・判断・表現	90.3	100.0	98.9	90.9	70.9	29.1	

設問番号			設問内容	基礎応用	出題形式	知識・技能	思考・判断・表現	川崎市	川崎市学力層別					
大問	小問								A層	B層	C層	D層	AID層の差	パターン判定
1	1		「インド」を聞き取る	基礎	選択式	●		94.4	100.0	96.3	94.6	85.0	15.0	
1	2		「12」を聞き取る	基礎	選択式	●		81.7	100.0	87.4	80.6	53.1	46.9	
1	3		「獣医」を聞き取る	基礎	選択式	●		88.6	100.0	95.5	91.3	65.7	34.3	
1	4		「7時30分」を聞き取る	基礎	選択式	●		68.2	100.0	65.9	57.0	34.6	65.4	Ⅰ
1	5		「あなたは料理ができますか」への答えを聞き取る	基礎	選択式	●		96.9	100.0	100.0	98.2	89.6	10.4	
1	6		「宿題をする」を聞き取る	基礎	選択式	●		86.9	100.0	95.3	88.9	61.1	38.9	
2	1		「花火を見ることができる」を聞き取る	基礎	選択式	●		86.8	100.0	90.0	86.3	66.2	33.8	
2	2		「修学旅行」を聞き取る	基礎	選択式	●		90.4	100.0	88.6	89.4	78.5		
2	3		「ステーキ」を聞き取る	基礎	選択式	●		98.6	100.0	100.0	98.6	95.9	4.1	
2	4		「12月」を聞き取る	基礎	選択式	●		83.5	100.0	88.9	83.4	56.7	43.3	
3	1		「お腹がすいていますか」への答えを聞き取る	基礎	選択式		●	93.3	100.0	100.0	94.8	78.2	21.8	
3	2		「レストランはどこですか」への答えを聞き取る	基礎	選択式		●	93.7	100.0	100.0	94.4	80.3	19.7	
3	3		「ハンバーガーはいくらですか」への答えを聞き取る	基礎	選択式		●	76.1	100.0	100.0	69.7	34.0	66.0	Ⅲ
4	1		「トムが好きなスポーツ」を聞き取る	応用	選択式		●	91.1	100.0	95.5	93.9	73.0	27.0	
4	2		「英語を勉強する」を聞き取る	応用	選択式		●	96.6	100.0	100.0	99.4	86.7	13.3	
4	3		「ヒナのしたいこと」を聞き取る	応用	選択式		●	91.9	100.0	96.6	95.5	73.7	26.3	
4	4		「トムの月曜日の時間割」を聞き取る	応用	選択式		●	89.8	100.0	100.0	88.4	70.4	29.6	
5	1		「I can run fast.」を聞いて選ぶ	応用	選択式	●		93.8	100.0	100.0	99.0	76.1	23.9	
5	2		「I enjoyed hiking.」を聞いて選ぶ	応用	選択式	●		96.2	100.0	100.0	98.3	86.7	13.3	
6	1		bagを書く	基礎	短答式	●		93.6	100.0	100.0	96.7	77.6	22.4	
6	2		Mayを書く	基礎	短答式	●		94.2	100.0	100.0	98.7	78.0	22.0	

【観点別分析】

知識・技能について

単語の読み取り問題や文字の記述問題では正答率が高く、小学校での指導の成果がみられます。特に“can”が使用される大問１小問５では、D層の生徒も正答率が89.6%と他の問題よりも高く、小学校から繰り返し学習してきたことがわかります。また、具体的な情報の聞き取り問題や必要な情報の聞き取り問題も同様に高い正答率でした。

ただし、身近な情報の聞き取りに関する問題では、大問１小問４の「7 時 30 分」を聞き取ることができない生徒が多くみられました。正答率は、B 層が 65.9%、C層が57.0%、D層が 34.6%と、数字の「13」と「30」の音声の区別がついていないことがわかります。数字の「12」を聞き取る大問１小問２でも同様に、D層の正答率は低いです。

昨年度の結果でも、曜日や日付、時間を聞き取る問題ではA層とD層では大きな差があり、同様の困難さを感じていることがわかります。身近な内容ではあっても、**発音が似た単語は繰り返し使用すること**により定着を図る必要があると考えられます。

思考・判断・表現について

全体の平均正答率は 90.4%でした。昨年度の分析結果が68.7%だったことを考慮すると正答率は上昇傾向にあります。さらに、A－D層の差においても、29.1 ポイントと昨年度に比べ差が縮まっています。

しかし、大問3小問3においては、A層の正答率が 100%なのに対し、D層の正答率は 34.0%となりました。質問が聞きとれなかったり、意味がわからなかったりした可能性が考えられます。さらに、質問に使用された“How”の表現がその後に続く語によって聞かれている意味が変わること、またその意味についての理解の差が、A－D層の差を生んでいることが考えられます。小学校で“How”の表現を使用した言語活動を行っているものの、**“How much”や“How many”等の表現に何度も触れていく**必要があります。

また、質問の意味を捉えることができなくとも、**前後の会話から内容を推測できるような指導**も大切です。**ダイアログ等を使用して、会話の流れから内容を掴む学習**も重要だと考えます。

【主体的に学習に取り組む態度　質問別回答状況一覧】

質問番号	質問内容	母集団	年度・学年	肯定群回答割合(%)	選択肢別回答割合(%) よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	その他無回答	学力層別 肯定群回答割合(%) A層	B層	C層	D層	A-D層の差
1	外国の人々との交流などを通して、外国の異なる文化に対する理解を深めようとしている	川崎市	令和6年度・中1	77.2	32.8	44.0	18.9	3.8	0.5	83.9	78.0	75.5	68.5	15.4
			令和5年度・中1	75.2	33.1	41.8	20.1	4.5	0.4	84.6	78.7	71.8	65.7	18.9
2	日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、外国の文化に対する理解を深めようとしている。	川崎市	令和6年度・中1	84.8	39.5	44.8	13.1	2.0	0.5	91.0	87.3	83.5	75.5	15.5
			令和5年度・中1	84.5	41.0	43.1	12.8	2.6	0.4	91.3	88.6	83.1	74.8	16.5
3	関心のある事柄について、相手からの質問に対し、相手に伝わるよう英語で話すようにしている。	川崎市	令和6年度・中1	78.3	34.6	43.3	18.0	3.7	0.5	87.2	80.5	77.2	65.1	22.1
			令和5年度・中1	76.4	33.3	42.8	19.4	4.1	0.4	87.5	80.7	73.7	63.7	23.8
4	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどをまとめ、相手に伝わるよう英語で話すようにしている。	川崎市	令和6年度・中1	66.6	26.0	40.3	26.3	6.9	0.5	77.2	67.1	64.0	53.6	23.6
			令和5年度・中1	65.3	25.6	39.4	27.7	6.9	0.4	78.8	68.1	61.2	52.8	26.0
5	趣味や好き嫌いなど、自分に関する基本的な情報を相手が読んでわかりやすいよう英語の文で書くようにしている。	川崎市	令和6年度・中1	85.6	47.7	37.6	11.9	2.4	0.5	92.7	88.1	83.8	75.8	16.9
			令和5年度・中1	84.9	47.3	37.2	12.3	2.7	0.5	93.6	88.7	83.5	73.9	19.7
6	話し手の立場に立って相手の意見や考えを理解したりするために、英語で聞いたり、質問したり、意見を言ったりしようとしている。	川崎市	令和6年度・中1	85.4	44.2	40.7	12.1	2.4	0.6	91.5	87.2	85.8	75.3	16.2
			令和5年度・中1	84.9	45.8	38.6	12.8	2.3	0.5	92.0	88.1	84.2	75.0	17.0
7	書き手の立場に立って、読んだことについて英語で質問や意見を言ったり、書き手が望む情報を提供するために交流したりしている。	川崎市	令和6年度・中1	66.0	21.2	44.3	27.5	6.3	0.7	74.9	65.0	63.6	55.9	19.0
			令和5年度・中1	65.2	20.5	44.2	28.6	5.9	0.7	72.2	68.9	63.7	55.8	16.4

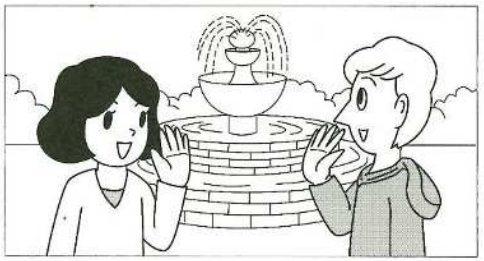
全質問項目において、肯定群回答割合が昨年度を上回る結果になりました。ただし、昨年度同様質問番号3では A－D層の差が 22.1 ポイント、質問番号 4 では 23.6 ポイントとそれぞれ開きがみられました。しかし、昨年度の結果と比べると、A－D層の差が小さくなっていることから、相手に自分の意見や考えを英語で伝えたいと思い学習に取り組んできている生徒が増えてきています。今後も、小学校での英語の学習指導内容を踏まえて、**自分の思いを相手に伝えようとする態度の育成とコミュニケーションの目的や場面、状況に合わせた表現を継続的に指導**していく必要があると考えられます。

【授業づくりのアイデア例】(例)

《実際の設問》

3 この問題は、(1)～(3)のそれぞれの絵の場面での問いかけに対する答えを選ぶ問題です。それぞれの絵について、まず問いかけが放送され、続いて答えが１～４まで４つ放送されます。１～４の英語の文から、絵の場面での問いかけに最も合っている答え方を１つ選び、解答用紙の番号に○をつけなさい。

例題 カナとポールが公園で会い、話しています。



1
2
3
4

(1) 公園で、サクラとボブが話しています。

1
2
3
4

(2) 街中で、サクラとボブが地図を見ながら話しています。

1
2
3
4

(3) レストランで、サクラとボブがメニューを見ながら話しています。

1
2
3
4

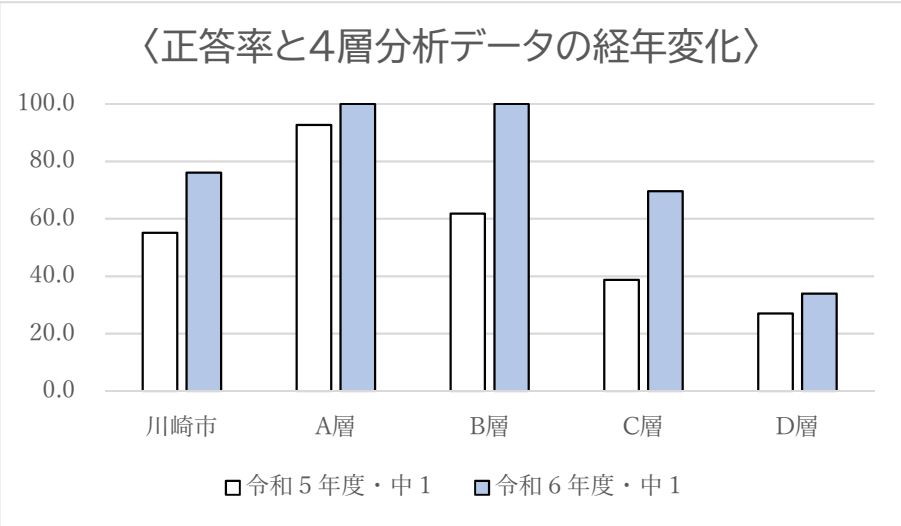
(1)F: Are you hungry, Bob?
M: 1. I like sushi. 2. I go to school.
3. Yes. I want to eat lunch. 4. Thank you.

(2)F: Where is Green Restaurant, Sakura?
M: 1. I eat bananas. 2. I speak English.
3. You're welcome. 4. Go straight. And turn right

(3)F: How much is the hamburger, Sakura?
M: 1. It is delicious. 2. It's 600 yen.
3. I like hamburgers. 4. Let's eat lunch.

《正答率と4層分析データと分析結果》

どの問題も平均正答率が70%を超えるものの、小問3に関しては、A層とC層の差が 30.3 ポイント、A－D層の差が 66.0 ポイントとなりました。“How”を使った表現として、“How are you?”に比べ、“How much～?”の使用頻度が比較的低く、質問に対する適切な解答を正しく判断できなったことが考えられます。そのため、**“How”を使用した様々な表現を活用する機会の設定**が必要だと考えられます。



《実態に応じた授業づくりの工夫》

中学校学習指導要領解説外国語編では、「日常的な話題について，必要な情報を聞き取ることができるようになる」と述べられています。

日常的に使用する表現に触れ、
適切な場面設定の中で活用する

今回は聞き取りの問題でしたが、質問に対して答えたり、聞いたことから状況を判断して答えたりすることは、やり取りを行う場面でもみられます。授業づくりの工夫として、**適切な場面設定の中で、日常的によく登場する表現を取り入れながら活動すること**ができると考えます。

“How”を使用した“How are you?”の表現は、授業の中で頻繁に登場する表現です。しかし、同じ“How”を使用したその他の表現は小学校での外国語活動でも使用する場面が限定されます。そのため、授業の中で“How much～?”や“How many～?”等のその他の表現に触れ、生徒同士でやり取りをする機会を設けることが大切です。具体的には、教科書『Daily Life Scene 3』のように、**買い物やカフェでの注文の場面を設定し、ダイアログを使用することで自然な形で“How much～?”の表現を使用すること**ができます。

このように、**適切な場面設定の中で、ねらいとする英語表現を使用する活動を行うこと**が大切です。

【第2学年】

集計項目	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	AID層の差	パターン判定
教科総合	58.2	90.6	69.5	46.6	26.2	64.4	Ⅱ
知識・技能	67.4	94.8	81.0	59.8	34.0	60.8	Ⅲ
思考・判断・表現	50.6	87.2	59.9	35.6	19.7	67.5	Ⅰ

設問番号			設問内容	基礎応用	出題形式	知識・技能	思考・判断・表現	川崎市	川崎市学力層別					
大問	小問								A層	B層	C層	D層	AID層の差	パターン判定
1	A	1	「リンゴ」と「テーブルの上に」を聞き取る	基礎	選択式	●		87.0	97.1	93.3	86.5	71.0	26.1	
1	A	2	曜日と活動を聞き取る	基礎	選択式	●		92.9	99.9	97.8	94.5	79.6	20.3	
1	A	3	「10時15分」を聞き取る	基礎	選択式	●		49.3	71.9	51.4	36.9	37.0		
1	B	1	「あなたは～ですか」への答えを聞き取る	基礎	選択式	●		83.7	98.9	95.0	82.3	58.5	40.4	
1	B	2	「これは誰の鉛筆ですか」への答えを聞き取る	基礎	選択式	●		79.5	99.8	97.5	81.8	39.0	60.8	Ⅲ
1	B	3	「いつ～しましたか」への答えを聞き取る	基礎	選択式	●		61.5	95.2	73.4	45.6	31.9	63.3	Ⅱ
1	C	1	「サリーは午後どこに行きたいか」を聞き取る	基礎	選択式		●	59.4	97.4	79.4	45.9	14.9	82.5	Ⅱ
1	C	2	「トオルはお祭りで何をしたか」を聞き取る	基礎	選択式		●	62.6	86.2	67.1	54.5	42.9	43.3	
1	D	1	ミドリ公園に毎日行く生徒の数を聞き取る	基礎	選択式		●	63.5	95.3	79.0	54.2	25.5	69.8	Ⅲ
1	D	2	「Bに何が入るか」を聞き取る	応用	選択式		●	68.1	91.1	76.2	60.9	44.2	46.9	
2	A	1	「冬」を英語で書く	基礎	短答式	●		64.0	97.1	87.9	59.0	12.0	85.1	Ⅲ
2	A	2	「食べた」を英語で書く	基礎	短答式	●		63.2	98.4	89.2	56.8	8.5	89.9	Ⅲ
2	B	1	Doを選ぶ	基礎	選択式	●		53.1	90.3	60.0	38.4	23.8	66.5	Ⅰ
2	B	2	be動詞の過去形wasを選ぶ。	基礎	選択式	●		66.3	96.5	86.4	58.8	23.3	73.2	Ⅲ
2	B	3	現在進行形になるようlisteningを選ぶ	基礎	選択式	●		53.7	86.8	54.3	38.2	35.7	51.1	Ⅰ
3	1		命令文を正しい語順で表す	基礎	短答式	●		63.2	99.1	88.8	51.4	13.6	85.5	Ⅲ
3	2		代名詞を使った文を正しい語順で表す	基礎	短答式	●		84.1	99.4	96.0	86.6	54.3	45.1	
3	3		How manyで始まる疑問文を正しい語順で表す。	基礎	短答式	●		46.6	92.7	63.1	26.2	4.2	88.5	Ⅱ
3	4		What+名詞で始まる疑問文を正しい語順で表す	基礎	短答式	●		62.8	98.1	81.3	53.9	18.0	80.1	Ⅲ
4	1		対話の文脈に合う、時刻を尋ねる文を書く	応用	記述式		●	51.7	96.4	78.5	30.0	1.8	94.6	Ⅱ
4	2		対話の文脈に合う、提案等の文を書く	応用	記述式		●	35.2	72.4	45.1	19.7	3.6	68.8	Ⅰ
5	1		メッセージのやり取りを読み、質問に合う答えを書く	基礎	記述式		●	41.8	89.3	57.2	20.0	0.7	88.6	Ⅱ
5	2		メッセージのやり取りを読み、質問に合う答えを書く	基礎	記述式		●	48.0	93.3	70.6	26.5	1.4	91.9	Ⅱ
6	1		ホームページを読み、講習の開催日を選ぶ	応用	選択式		●	81.3	98.4	95.0	81.6	50.3	48.1	
6	2		ホームページを読み、正しい内容を選ぶ	応用	選択式		●	51.9	89.8	55.0	36.8	26.1	63.7	Ⅰ
7			ブログを読み、正しいタイトルを選ぶ	応用	選択式		●	27.2	54.6	21.4	14.4	18.2		
8	1		アンケートの結果と会話を読み、空欄に適する語を選ぶ	基礎	選択式		●	39.3	81.6	39.3	20.4	15.7	65.9	Ⅰ
8	2		アンケートの結果と会話を読み、内容に合う英文を選ぶ	基礎	選択式		●	53.2	95.9	67.7	33.7	15.4	80.5	Ⅱ
9	1		英文を読み、itが表すものを選ぶ	応用	選択式		●	66.8	94.8	80.6	58.7	32.9	61.9	Ⅲ
9	2		英文を読み、内容に合う英文を選ぶ	応用	選択式		●	42.2	82.3	40.2	24.9	21.3	61.0	Ⅰ
9	3	A	英文を読み、英語の要約文に適する語句を選ぶ	応用	選択式		●	43.9	77.4	47.5	28.9	21.5	55.9	Ⅰ
9	3	B	英文を読み、英語の要約文に適する語句を選ぶ	応用	選択式		●	41.5	82.1	40.4	25.8	17.8	64.3	Ⅰ
9	4		英文を読み、質問に対して英文で答える	応用	記述式		●	33.3	90.7	38.0	4.7	0.0	90.7	Ⅰ

【観点別分析】

知識・技能について

聞くことの領域において、大問１小問A2、３ではＡ－D層の差が 20 ポイント程度となっており前回調査の課題であった“Thursday”と“Tuesday”、“fifty”と“fifteen”の聞き取りの混同に改善がみられました。これは言語活動を通した繰り返しの指導など昨年度の手立てによる成果だと考えられます。

大問２小問A1、２の単語を英語で書く問題では、Ａ層とD層の間に 85 ポイント以上の差が見られました。音声はわかるものの、ローマ字にしてしまったり、不規則動詞の語尾に“-ed”をつけてしまったりしたことが要因と考えられます。そのため、音と綴りの関係の指導や不規則動詞の過去形の定着が必要だと考えます。また大問３の並べ替え問題では、“What”を用いた文の語順は理解できており、日頃の言語活動で使用する場面や頻度が多いため、定着していると考えられます。しかし、“How many”を用いた文の語順の理解に課題が見られます。そのため、**コミュニケーションの目的や場面、状況に応じた言語活動の設定をすること**が大切になります。

思考・判断・表現について

全体の平均正答率は 50.6％で、Ａ－D層の差は 67.5 ポイントと昨年度よりもさらに開きがみられました。選択式問題の無回答率は昨年度同様低く、聞くことの領域の平均正答率も全ての問題が50％を超える結果となりました。

しかし、大問４、５のような記述式の問題に関しては、Ａ－D層の差も大きく開き、全体の無回答率は70％を超えていました。対話文あるいはメッセージがどのようなコミュニケーションの目的や場面、状況であるかを判断できないこと、英語で聞かれている内容や答え方がわからなかったことが要因として考えられます。これは、昨年度の課題であった、習った表現を活用できていないことが今年度も課題であると考えられます。聞くことの領域の大問１小問C1 においても、“What does Sally want to do after lunch?”と聞かれていますが、質問の中の印象に残った単語に着目してしまい、安易に答えを選んでしまっていることが考えられます。**日頃のリスニング活動の中で、必要な情報は何かを精査するための活動**が大切です。

【主体的に学習に取り組む態度　質問別回答状況一覧】

質問番号	質問内容	母集団	年度・学年	肯定群回答割合（%）	選択肢別回答割合（%）					学力層別　肯定群回答割合（%）				
					よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	その他無回答	A層	B層	C層	D層	A-D層の差
1	外国の人々との交流などを通して、外国の異なる文化に対する理解を深めようとしている。	川崎市	令和6年度・中2	66.9	24.8	41.6	25.9	6.9	0.8	76.8	71.7	63.6	55.4	21.4
			令和5年度・中1	75.2	33.1	41.8	20.1	4.5	0.4	84.6	78.7	71.8	65.7	18.9
2	日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、外国の文化に対する理解を深めようとしている。	川崎市	令和6年度・中2	77.2	29.8	46.8	18.8	3.8	0.9	86.3	82.2	75.5	64.7	21.6
			令和5年度・中1	84.5	41.0	43.1	12.8	2.6	0.4	91.3	88.6	83.1	74.8	16.5
3	関心のある事柄について、相手からの質問に対し、相手に伝わるよう英語で話すようにしている。	川崎市	令和6年度・中2	72.8	26.7	45.5	21.4	5.5	0.9	87.0	80.9	69.5	53.7	33.3
			令和5年度・中1	76.4	33.3	42.8	19.4	4.1	0.4	87.5	80.7	73.7	63.7	23.8
4	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどをまとめ、相手に伝わるよう英語で話すようにしている。	川崎市	令和6年度・中2	63.5	21.2	41.7	28.0	8.2	0.9	78.5	71.1	58.7	45.4	33.1
			令和5年度・中1	65.3	25.6	39.4	27.7	6.9	0.4	78.8	68.1	61.2	52.8	26.0
5	趣味や好き嫌いなど、自分に関する基本的な情報を相手が読んでわかりやすいよう英語の文で書くようにしている。	川崎市	令和6年度・中2	77.5	31.2	45.6	18.2	4.0	1.0	91.0	86.0	74.5	58.1	32.9
			令和5年度・中1	84.9	47.3	37.2	12.3	2.7	0.5	93.6	88.7	83.5	73.9	19.7
6	話し手の立場に立って相手の意見や考えを理解するために、英語で聞いたり、質問したり、意見を言ったりしようとしている。	川崎市	令和6年度・中2	81.2	36.0	44.3	15.5	3.2	1.0	91.4	87.3	79.9	65.8	25.6
			令和5年度・中1	84.9	45.8	38.6	12.8	2.3	0.5	92.0	88.1	84.2	75.0	17.0
7	書き手の立場に立って、読んだことについて英語で質問や意見を言ったり、書き手が望む情報を提供するために交流したりしている。	川崎市	令和6年度・中2	60.6	16.8	43.1	31.9	7.0	1.2	72.0	67.5	57.3	45.3	26.7
			令和5年度・中1	65.2	20.5	44.2	28.6	5.9	0.7	72.2	68.9	63.7	55.8	16.4

全質問項目のうち、質問番号5、7の質問内容で前回調査との間に10ポイント以上の差がみられました。質問番号5の「趣味や好き嫌いなど、自分に関する基本的な情報を相手が読んでわかりやすいよう英語の文で書くようにしている。」においては、A層とD層の間で昨年度調査との差が13．2ポイントと最も大きな差がみられ、D層は肯定群回答割合が15．8ポイントも下がっています。これは小学校では例文を参考に英語の文を書く活動に留まっているために生じた結果と考えられます。そのため、中学校では**自分のことについて英語の文で書いて表現する活動**を行っていく必要があると考えられます。

【授業づくりのアイデア例】
設問内容:「サリーは午後どこに行きたいか」を聞き取る(思考・判断・表現)
＜実際の設問＞

これから、(1)、(2)の英文を放送し、それについての質問をします。それぞれの質問に対する答えとして最も適するものを１つずつ選び、解答用紙の番号に○をつけなさい。

(1)　サリー(Sally)は、リュウトに留守番電話のメッセージを残しています。

1
2
3
4

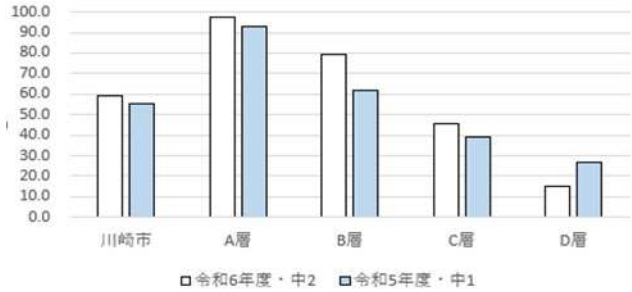
(1)Hi, Ryuto.　It's Sally.　Are you playing basketball now?　I'm reading a book in the park.　I want to go shopping after lunch.　Do you want to go with me?

Q: What does Sally want to do after lunch?

＜正答率と4層分析データと分析結果＞

昨年度と比較すると、川崎市全体とA層からC層までの平均正答率が上がっており、必要な情報を聞き取った上で、質問に対して適切な答えを選ぶことができたと考えられます。しかし、D層に関しては、平均正答率が 14.9%と昨年度よりも 12.1 ポイント下がったことに加え、A－D層の差も 82.5 ポイントとさらに差が広がる結果となりました。D層の生徒は、質問に対して答えようとした際に、知っている単語のみに着目をしてしまったことが考えられます。今回で言えば、lunch のみに着目してしまったため、D層の生徒はご飯を食べている絵を使用している選択肢3を選び、誤答となった生徒が多くいました。授業でリスニング活動をする際に、**疑問詞等に着目したり、どのような会話がされるか、会話に出てくる表現は何かなどを予想したりしながら、音声を聞くように促すこと**が大切であると考えます。

〈正答率と4層分析データの経年変化〉



＜実態に応じた授業づくりの工夫＞

中学校学習指導要領解説外国語編では、「はっきりと話されれば，日常的な話題について，必要な情報を聞き取ることができるようにする」と述べられています。

疑問詞等に着目したり、
予想しながら聞くように促す

授業づくりの工夫として、**疑問詞や答えにつながる表現に着目して聞くよう、日頃から指導すること**ができると考えます。繰り返し行うことで、生徒も印象に残った表現に着目するのではなく、必要な情報を意識しながら聞くことができるようになると考えます。加えて、**どのような場面や状況なのかを予想させながら、音声を聞かせること**もできると考えます。教科書に記載されているリスニング問題は、コミュニケーションの目的や場面、状況が明確なため、どのような会話になりそうか想像しやすく、また、絵や写真が選択肢であることも多いため、それらがどのような表現で表されるかも予想が可能です。予想をしながら聞くことで、見通しをもった状態で聞くことができ、必要な情報を聞きとることにつながります。

今回の問題の場合では、「どのようなメッセージを残しているか」という内容の予想と、絵を見て、どのような表現で表されるかの予想ができます。その上でメッセージを聞くと、最後の質問である「サリーが昼食後に何をしたいのか」に対しても、印象に残った単語に引っ張られることなく、答えることができると考えます。

【第3学年】

集計項目	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	AID層の差	パターン判定
教科総合	65.5	94.2	80.5	58.1	29.4	64.8	Ⅲ
知識・技能	68.9	94.9	82.7	64.1	33.8	61.1	Ⅲ
思考・判断・表現	62.6	93.5	78.5	52.8	25.5	68.0	Ⅲ

設問番号			設問内容	基礎応用	出題形式	知識・技能	思考・判断・表現	川崎市	川崎市学力層別					
大問	小問								A層	B層	C層	D層	AID層の差	パターン判定
1	A	1	絵に合う状態（数と位置）を表す英文を聞き取る	基礎	選択式	●		86.8	99.4	97.8	89.7	60.2	39.2	
1	A	2	絵に合う状態（身長の比較）を表す英文を聞き取る	基礎	選択式	●		92.3	99.9	99.6	96.7	73.0	26.9	
1	A	3	表に合う状態（人数と予定）を表す英文を聞き取る	基礎	選択式	●		93.5	99.2	97.0	95.3	82.4	16.8	
1	B	1	質問(How about)を聞いて適切な答えを選ぶ	基礎	選択式	●		81.7	98.7	92.7	80.8	54.6	44.1	
1	B	2	質問(Who)を聞いて適切な答えを選ぶ	基礎	選択式	●		43.4	83.4	48.3	26.1	15.6	67.8	Ⅰ
1	B	3	質問(How many)を聞いて適切な答えを選ぶ	基礎	選択式	●		82.6	99.8	97.3	86.5	46.7	53.1	Ⅲ
1	C	1	会話と質問を聞いて適切な答えの絵（動作）を選ぶ	基礎	選択式		●	83.6	98.1	93.5	84.7	57.9	40.2	
1	C	2	会話と質問を聞いて適切な答えの絵（動作）を選ぶ	応用	選択式		●	68.8	95.9	82.7	64.1	32.4	63.5	Ⅲ
1	D	1	英文と質問を聞いて適切な答えの選択肢（時刻）を選ぶ	基礎	選択式		●	80.3	97.4	90.5	80.2	53.0	44.4	
1	D	2	英文と質問を聞いて適切な答えの選択肢（場所）を選ぶ	応用	選択式		●	68.9	95.5	84.8	62.1	33.1	62.4	Ⅲ
2	1		英文に合う単語（dinner）を書く	基礎	短答式	●		61.5	95.3	81.8	55.5	13.3	82.0	Ⅲ
2	2		英文に合う単語（popular）を書く	基礎	短答式	●		52.2	94.4	67.6	38.8	8.1	86.3	Ⅲ
2	3		英文に合う単語（hundred）を書く	基礎	短答式	●		34.1	68.6	42.5	21.5	3.8	64.8	Ⅰ
3	1		文脈から判断して適切な動詞の形を選ぶ	基礎	選択式	●		51.4	90.6	63.5	27.9	23.7	66.9	Ⅱ
3	2		文脈から判断して適切な疑問詞を選ぶ	基礎	選択式	●		79.1	99.8	98.3	84.7	33.6	66.2	Ⅲ
3	3		文脈から判断して適切な比較級を選ぶ	基礎	選択式	●		75.8	99.4	93.2	73.3	37.4	62.0	Ⅲ
3	4		文脈から判断して適切な動詞の形を選ぶ	基礎	選択式	●		69.1	98.9	89.4	63.5	24.5	74.4	Ⅲ
4	1		SVOOの文を正しい語順で表す	基礎	短答式	●		64.3	97.2	86.1	59.9	14.0	83.2	Ⅲ
4	2		接続詞ifを含む文を正しい語順で表す	基礎	短答式	●		75.7	99.2	94.9	77.6	30.9	68.3	Ⅲ
4	3		be going toを含む文を正しい語順で表す	基礎	短答式	●		58.7	94.3	73.8	47.2	19.3	75.0	Ⅲ
5	A	1	何か飲みたいことを伝える英文を書く	応用	記述式		●	46.0	88.3	61.3	32.3	1.9	86.4	Ⅲ
5	A	2	相手が飲むことができる飲み物を伝える英文を書く	応用	記述式		●	45.3	91.0	65.9	23.2	1.1	89.9	Ⅱ
5	B	1	寺へ行くべきだと伝える英文を書く	応用	記述式		●	60.6	98.8	88.5	49.4	5.8	93.0	Ⅲ
5	B	2	寺へ行くべき理由を説明する英文を書く	応用	記述式		●	47.9	96.2	71.1	23.3	1.1	95.1	Ⅱ
6	1		英語の資料を読み、質問の内容に合うものを選ぶ	基礎	選択式		●	67.2	98.4	91.3	54.4	24.7	73.7	Ⅱ
6	2		英語の資料を読み、質問の内容に合うものを選ぶ	基礎	選択式		●	61.8	85.0	70.3	56.6	35.2	49.8	
7	1		英文を読み、代名詞(they)が指すものを選ぶ	基礎	選択式		●	69.1	97.8	89.2	62.8	26.6	71.2	Ⅲ
7	2		英文を読み、下線部の理由を表しているものを選ぶ	基礎	選択式		●	46.3	81.7	50.9	29.5	23.0	58.7	Ⅰ
7	3		英文を読み、英文の題名として合うものを選ぶ	応用	選択式		●	67.8	90.8	73.8	62.9	43.7	47.1	
8	1		英文を読み、質問内容に合うものを選ぶ	応用	選択式		●	75.5	99.5	96.7	75.2	30.5	69.0	Ⅲ
8	2		英文を読み、文中の空所に入る英文を選ぶ	応用	選択式		●	59.7	82.3	70.5	54.2	31.5	50.8	Ⅲ
8	3		英文を読み、内容が一致する英文を選ぶ	応用	選択式		●	63.6	97.8	78.9	47.9	29.7	68.1	Ⅱ
9	1		英文をまとめた表の空所に入る英文を選ぶ	応用	選択式		●	60.2	97.8	81.0	43.1	19.0	78.8	Ⅱ
9	2		英文を読み、質問に英語で答える	応用	記述式		●	54.1	90.8	72.5	44.8	8.2	82.6	Ⅲ

【観点別分析】

知識・技能について

聞くことの領域において大問1小問 B2 ではD層の正答率は 15.6%でした。また A 層も他のリスニング問題ではすべて90%以上の正答率ですが、この小問 B2 だけは正答率 83.4%と他の問題と大きく差がついています。“Who gave it to you?”を聞いて適切な答えを選ぶ問題ですが、選択肢3の“My brother was.”を選択した生徒が多くいました。A層においても、この形式の疑問文に慣れていないことや、be 動詞、一般動詞の使い分けに課題があることが分かります。中1段階から**様々なパターンのインプットとアウトプットの繰り返し**が求められます。

A－D 層の差が 62 ポイントと最も小さいのが大問3小問3の適切な比較級を選ぶ問題です。同様に大問 3 小問 2“Which do you like, summer or winter?”の“Which”を選ばせる問題も A－D層の差が 66.2 ポイントとなっており、正答率が他の問題と比べても高くなっています。日頃のスピーキング活動やリスニング活動で、生徒になじみがあり、定着している表現のため正答率が上がったと考えられます。日常的に帯活動等で**生徒に様々な英語に触れさせる**必要があります。

思考・判断・表現について

聞くことの領域の大問 1 小問 C1、D1 については、A 層で 90%以上、D層で 50%以上と昨年度同様、高い正答率となっており、聞き取った会話や英文を正しく理解し、適切な答えを選択できていることがわかります。一方で大問 1 小問 C2、D2 においてD層のみ正答率が 32.4%、33. 1%と低くなっているのは、選択肢の英文を理解できていないことが影響していると考えられます。

書くことの領域において、大問 5 では全設問においてA層とD層の間に 90 ポイント前後の差が開いており、昨年度同様、記述式の問題の正答率が低く、英文を書くことへの難しさを感じている生徒が多くいることがわかります。ただし、大問 5 小問 B1「絵の場所(寺)に行くべきだと相手に伝える英文を書く」のように使用する言語材料の条件が明確だとA層からD層までの正答率が全体的に上がる傾向がみられました。このことから、中学校3年間を通して継続的かつ日常的に行う帯活動等で**コミュニケーションの目的や場面、状況を意識した言語活動**を行う必要があります。

【主体的に学習に取り組む態度　質問別回答状況一覧】

質問番号	質問内容	母集団	年度・学年	肯定群回答割合（%）	選択肢別回答割合（%）					学力層別　肯定群回答割合（%）				
					よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	その他無回答	A層	B層	C層	D層	A-D層の差
1	外国の人々との交流などを通して、外国の異なる文化に対する理解を深めようとしている。	川崎市	令和6年度・中3	65.9	24.6	40.7	26.7	7.2	0.8	74.5	70.6	63.4	54.9	19.6
			令和5年度・中2	66.8	24.2	41.9	25.9	7.0	0.9	77.0	70.6	63.0	56.3	20.7
2	日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、外国の文化に対する理解を深めようとしている。	川崎市	令和6年度・中3	77.7	30.3	46.8	18.0	4.2	0.7	86.2	82.3	75.8	66.4	19.8
			令和5年度・中2	77.4	30.1	46.5	18.7	3.7	0.9	86.3	82.2	75.0	65.9	20.4
3	関心のある事柄について、相手からの質問に対し、相手に伝わるよう英語で話すようにしている。	川崎市	令和6年度・中3	73.5	27.2	45.8	20.9	5.4	0.7	87.2	81.5	70.3	54.6	32.6
			令和5年度・中2	71.5	26.2	44.6	22.9	5.4	1.0	86.5	78.5	67.7	52.9	33.6
4	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどをまとめ、相手に伝わるよう英語で話すようにしている。	川崎市	令和6年度・中3	63.2	21.6	41.1	27.8	8.7	0.7	77.8	70.7	59.5	44.6	33.2
			令和5年度・中2	61.3	20.9	39.8	29.8	8.5	1.0	75.8	68.3	56.4	44.3	31.5
5	趣味や好き嫌いなど、自分に関する基本的な情報を相手が読んでわかりやすいよう英語の文で書くようにしている。	川崎市	令和6年度・中3	77.0	32.1	44.3	18.5	4.3	0.8	92.9	86.7	75.2	53.0	39.9
			令和5年度・中2	77.1	31.9	44.4	18.7	4.0	1.1	92.3	85.8	73.7	56.1	36.2
6	話し手の立場に立って相手の意見や考えを理解するために、英語で聞いたり、質問したり、意見を言ったりしようとしている。	川崎市	令和6年度・中3	82.4	37.5	44.3	14.1	3.4	0.8	92.1	88.7	82.6	66.1	26.0
			令和5年度・中2	81.1	37.1	43.0	15.7	3.0	1.1	91.6	86.7	79.5	66.2	25.4
7	書き手の立場に立って、読んだことについて英語で質問や意見を言ったり、書き手が望む情報を提供するために交流したりしている。	川崎市	令和6年度・中3	59.5	16.8	42.1	31.6	8.6	0.9	70.9	65.5	58.1	43.1	27.8
			令和5年度・中2	58.9	15.5	42.7	32.5	8.1	1.3	69.2	63.4	57.9	44.9	24.3

全質問項目のうち、3、4、5 の質問内容でA層とD層の間に 30 ポイント以上の差がみられました。これは昨年度と同様の傾向で、3 つの質問内容に共通することは、自分自身のことについて英語で表現するということです。質問番号 5 の「趣味や好き嫌いなど、自分に関する基本的な情報を相手が読んでわかりやすいよう英語の文を書くようにしている。」においては、A層とD層の間で 39.9 ポイントと全項目のうちで最も大きな差がみられ、昨年度の 36.2 ポイントより差が開いています。**生徒が取り組みやすいコミュニケーションの目的や場面、状況を設定により、「書くこと」における A－D層の差を小さくしていくこと**が今後の課題となります。

【授業づくりのアイデア例】

設問内容：寺へ行くべき理由を説明する英文を書く（思考・判断・表現）

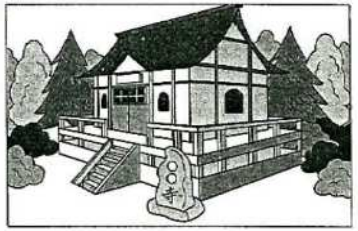
＜実際の設問＞

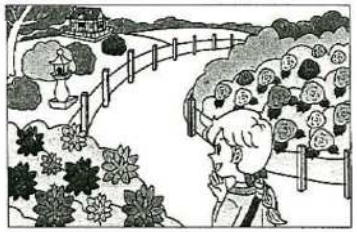
B　あなたは、週末に行く場所を探しているクラスメイトの留学生に、あなたの町にある場所を紹介します。絵に合うように、下の①、②の（　　）に次の【条件】に従って適切な英文を書きなさい。

【条件】

①には、絵の場所に行くべきだと相手に伝える英文を、temple を使って主語と動詞を含む４語以上で書く。

②には、その理由を述べる英文を、flowers を使って主語と動詞を含む４語以上で書く。



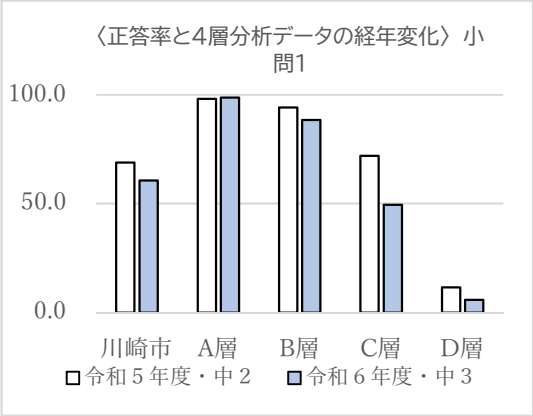


（　　①　　）　（　　②　　）

＜正答率と４層分析データ＞

年度・学年	川崎市	川崎市学力層別					
		A層	B層	C層	D層	A−D層の差	パターン判定
令和6年度・中3（小問1）	60.6	98.8	88.5	49.4	5.8	93	Ⅲ
令和6年度・中3（小問2）	47.9	96.2	71.1	23.3	1.1	95.1	Ⅱ
令和5年度・中2（小問1）	68.9	98.1	94.2	72.0	11.5	86.6	Ⅲ
令和5年度・中2（小問2）	47.3	96.5	71.1	20.9	0.7	95.8	Ⅱ

＜分析結果＞



この設問のC層において小問１では 49. 4%が正答しているのに対し、小問２では 23. 3%と正答率に 20 ポイント以上の差があることが分かります。

経年変化に着目すると、C層の小問１の正答率が72. 0%から49. 4%となっています。昨年度の小問１は“What subject do you like?”という自分に関することを答える問題で、聞きなじみのある表現であることもあり、70%以上の正答率となっていたと考えられます。一方で今年度は、「絵の場所（寺）に行くべきだと相手に伝える英文を書く」という条件の問題でした。誤答に着目すると、“You should going to temple.”と場面設定は理解しているようですが、英語の特徴やきまりがわからずに正答にたどり着けないと分析することができます。

小問２では、理由を述べる自由度の高い問題になっていることで、場面に応じた表現方法が分からずに正答を導き出せなかったことが考えられます。

これらのことから、**コミュニケーションの目的や場面、状況を判断し、適切な表現活動を継続的に行う必要がある**と考えられます。

＜実態に応じた授業づくりの工夫＞

中学校学習指導要領解説外国語編では、「日常的な話題や社会的な話題について，伝える内容を整理し，英語で話したり書いたりして互いに事実や自分の考え，気持ちなどを伝え合うこと」とあり、さらに「言語の使用場面に応じて具体的な言語の働きを取り上げ，言語活動を行うことが必要である。」と述べられています。

様々な場面でのやり取りで、
自分の考えを伝え合う。

授業づくりの工夫として、テーマに沿ったやり取りを行う活動や、状況を表す絵やいろいろな形式の英文の情報について自分の考えを伝え合う活動が考えられます。特にやり取りの活動は、質問に対して答えるだけの一問一答形式になりがちですが、理由を述べることなども意識できるよう指導する必要があります。さらに、活動の最後に、話した内容について英文で書く活動につなげることで、より言語材料の使用場面に着目することができます。

今回の問題の場合では、小問 B1 で「絵の場所（寺）に行くべきだと相手に伝える英文を書く」と言語材料が明確なのに対し、小問 B2 では、「その理由を述べる」と表現の幅があることがわかります。**日常的に行う帯活動等の中で上記のような様々な場面が設定されたやり取りの活動を行うことで、多様な表現をコミュニケーションの目的や場面、状況に応じて使い分ける機会を設けることができる**と考えられます。

【学習意識調査から】

質問番号:【30】
質問内容:新しく習ったことは、何度もくり返して練習している。

＜肯定的な回答割合・4層分析＞

年度・学年	川崎市	A層	B層	C層	D層	A-Dの差
令和6年度・中1	54.1	65.4	57.9	49.4	43.6	21.8
令和5年度・小6	55.6	69.1	58.4	51.2	43.8	25.3
令和6年度・中2	50.1	62.1	55.9	45.7	37.1	25
令和5年度・中1	57.7	66.4	60.4	56.2	47.8	18.6
令和6年度・中3	55.7	70.4	62.2	50.9	39.5	30.9
令和5年度・中2	51.6	65.7	55.5	47.6	37.8	27.9

＜分析結果＞

「新しく習ったことは、何度も繰り返して練習する」ことは、英語の学習においても大切です。調査結果では、どの学年でも学年が上がるにつれてA－D層の差が大きく開いています。小学生では繰り返しの練習よりも使ってみる活動が多いことから差の開きが小さいと考えられます。学年が上がるにつれて差が大きくなることから、既習事項とのつながりに気付かず、新しい学びの連続として捉えられている傾向は変わりません。学習の積み重ねが課題として考えられます。

生徒がつながりに気付き、繰り返し練習できるような環境を作っていく必要があります。

＜実態に応じた授業づくりの工夫＞

聞いたり読んだりした話題について、感想や意見を話したり書いたりする活動が設定されています。したがって、**学習した内容に繰り返し触れ、活用できるように指導していくことで定着を図っていくこと**が大切です。

例えば、授業中にコミュニケーション活動を行う際、生徒はその時に学習している表現を使う傾向があります。会話を広げる要素として既習事項を振り返ってみたり、教員が実際に使って生徒に質問をして見せたりします。生徒が自ら英語を使ってみることが大切ですが、教員が聞かせることによって、既習事項を繰り返し使うことにもつながります。

また、生徒の様子から、同じようなつまずきが見られたら、間違えに気付かず学習している可能性が考えられます。その場合、**一度活動を止めて中間指導を行うことで、修正を入れる**のも1つの方法です。表現するまでに理解が深まっていないようであれば、必要に応じて知識・技能の定着を図った上で表現に再度挑戦していくことが大切です。遠回りに感じるかもしれませんが、既習事項の定着を目指すためにも、教員が既習事項を聞かせたり、使って見せたりすることによって、生徒が繰り返し練習することの大切さを体感し、自ら練習できるような活動を増やしていくことができます。

このように、日頃のコミュニケーション活動の中で、**生徒が既習事項を結び付けながら、自分の気持ちや考えなどを伝え合うような言語活動**の場を増やしていくことが大切です。

7　中学校全般を通して～観点別分析～

【知識・技能について】

各教科の特徴

＝国語＝

各学年の平均正答率は１学年66．8％、２学年73.9％、3学年61．6％です。課題として、漢字の書きに関して4層分析を見てみるとA－D層の差が１学年62．9ポイント、２学年49．3ポイント、3学年70．3ポイントで、D層の生徒の平均正答率が１学年17．8％、２学年31.5％、3学年16．9％となっています。漢字を書く練習をただ繰り返すのではなく、**漢字の意味や用法を実生活とつながりのある言葉として活用できるよう日頃から工夫すること**が必要です。

＝社会＝

各学年の平均正答率は１学年54．1％、２学年54．9％、３学年 55.9％です。4層分析について、A－D層の差を学年別に見ると、１学年 46.8ポイント、２学年54．1ポイント、３学年 51.1ポイントであり、2学年、3学年は50ポイント以上の差があります。同一母集団の経年変化で見ると、3学年では2．2ポイント上昇しましたが、2学年では6．1ポイント下回っています。このことから、今後も**取り上げた社会的事象について、資料から適切に情報を読み取ったり、読み取った情報を整理したりまとめたりする活動**を、個に応じてきめ細かく指導する必要があります。

＝数学＝

各学年の平均正答率は1学年 68.6％、２学年 58.6％、3学年 47.1％です。4層分析を見てみるとパターン判定においては、全学年ともパターンⅢと示されています。また学年が上がるにつれ、他の層と比べ、D層の生徒の正答率が大きく下がっており、D層の生徒へのアプローチをしっかりと行うことが求められます。**小学校での学びを含めた既習である基本的な概念や原理・法則などを確認しながら授業を進めること**、それと合わせて、D層の生徒の疑問が何かを把握して、協働的な学びを通して解決し、１つでも多く「わかった」と実感できるようにすることが大切です。学習の過程を丁寧に確認し基礎・基本の定着を図り「個に応じた指導」を進めていくことが必要です。

＝理科＝

各学年の平均正答率は1学年 61.9%、2学年 50.1%、3学年 53.8%です。4層分析について、A－D層の差は、1学年 48.0 ポイント、2学年 49.4 ポイント、3学年 57.5 ポイントで、学年があがるにつれて差が広がる傾向が見られます。昨年度に引き続き、全学年に共通して、理科用語の習得と概念的な理解に課題がみられます。**問題解決・探究の過程を通して資質・能力を育成する中で、理科用語を使って科学的に議論したり、説明したりする学習活動を充実させること**が大切です。

＝英語＝

各学年の平均正答率は1学年 89.6%、2 学年 67.4%、3 学年 68.9%となっており、2、3学年についてはパターンⅢと示されております。また学年が上がるにつれて、D層の平均正答率が下がっています。また、書くことの領域に関して、2学年の大問2のAの（2）、3学年の大問2の（2）での与えられた場面にふさわしい単語を正しく書く設問においては、A－D層の差が 80 ポイントを超えています。**目的・場面・状況設定のあるコミュニケーション活動**を行いながら、内容面だけでなく言語の正確さの面でもD層の生徒へのアプローチをしっかりと行うことが求められます。

授業改善の手立てについて

＝国語＝

〇得た知識を活用する場面を想定し、言葉の特徴や使い方を体験的に学ぶ機会を設定すること。
〇漢字を読む力を高めながら、書く力を向上させていけるような工夫を日頃から行っていくこと。
〇単元の中で得た知識を次の単元で活用するための場面を設定したり、学習した言語を日常生活に生かせるように、身近な教材の中で知識を活用する場面を設定したりすること。

＝社会＝

〇社会的事象について、地図や年表、調査や諸資料から様々な情報を効果的に収集し、読み取る学習活動や作業的で具体的な体験を伴う学習活動の充実を図ったりすること。

○学習課題について、分かったことを図、白地図、年表、文章などを使って整理したり、まとめたりする学習活動を充実させること。

＝数学＝

○具体的で生徒に身近な教材や日常につながる教材で問題を解決したり、GIGA端末のドリルパークなどの学習ソフト等に取り組んだりする際、既習の知識や技能が活用できる場面を繰り返し設定すること。

○ルールや決まり、公式などを含めた知識や技能について、形式的に覚えるのではなく、その理由や考え方も対話的な活動等を通して身に付けるようにすること。

○一つ一つの知識や技能が新たな学習内容とつながるように手立てを講じること。

＝理科＝

○問題解決・探究の過程を通して資質・能力を育成する中で、例えば、理科用語を使って議論したり、説明したりする学習活動を充実し、科学的な概念としての理解につながるよう手立てを講じること。

○ペアやグループで説明する学習場面を設定する中で、学習した理科用語を入れているか、適切に使っているか等の視点から生徒同士が議論し、科学的な概念に更新していく学習活動を充実すること。

＝英語＝

○目的・場面・状況に応じて自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動を行う際に、「話したことを書く」などのように技能を統合した活動や、適切なタイミングでの言語面の正確さについての指導を充実させること。

○個別の知識や技能が習得できるようにするために、具体的で身近な教材を工夫したり、既習の知識や技能を繰り返し活用したりできるようにすること。

〈授業改善のポイント〉

〇概念的な理解に向けて、言語や数量、図形、事象などの見方・考え方を働かせた言語活動の充実を図ります。
〇単元をデザインする際は、身に付けさせたい知識・技能を明確にすることが重要です。また、生徒が主体的に知識・技能を獲得していく学習場面を設定することが大切です。
〇知識・技能を確実に習得できるようにするために、一人一人の生徒がGIGA端末のドリルパークなど学習教材等に取り組むなど、個別最適な学びを教師が支援することが大切です。
〇知識・技能の定着を促すには理解することだけに留めず、学習したことを日常生活や他の学習で活用ですることを通して、わかる楽しさを実感させることが大切です。

【思考・判断・表現について】

各教科の特徴

＝国語＝

思考・判断・表現の「話すこと・聞くこと」の領域において、A－D層の差が1学年36．3ポイント、2学年36．2ポイント、3学年18．3ポイントです。いずれの学年も4層の差が少ないことから、日頃の授業でグループワークを通して意見交流を行ったり、発表の場を設けたりしてきた成果と考えられます。課題としては、「書くこと」「読むこと」の領域において、ほとんどの学年でA－D層の差が50ポイントを超えています。**「書くこと」「読むこと」の領域において授業改善が必要**です。

＝社会＝

各学年の平均正答率は1学年24．9％、2学年 34.8％、3学年42.9％であり、すべての学年が全国平均を1学年が0．5ポイント、2学年が0．8ポイント、3学年が1．5ポイント上回り、同一母集団の経年変化でも、全国との差は2学年が1．4ポイント、3学年が2．9ポイント上昇しています。A－D層の差を学年別に見ると、1学年 41.4％、2学年 53.9％、3学年58．7％であり、学年が上がるにつれて差が大きくなる傾向が見られました。このことから、今後も**身に付けた知識や技能を比較したり関連付けたりする活動を取り入れ、多面的・多角的に考察、表現する活動**を繰り返し行うことが大切になります。

＝数学＝

数学における思考・判断・表現において、各学年の平均正答率は1学年 55.1％、2学年 45.2％、3学年 47.0％でした。1学年はパターンⅢ、2、3学年はパターンⅠと示されました。この結果からもD層に限らず、苦手に感じている生徒が多いことが分かります。また、今回の調査において記述式の正答率をみると1学年 52.4％、2学年 15.8％、3学年 30.9％と低く、こちらも1学年はパターンⅢ、3学年はパターンⅠと示されています。**自分の考えを書くこと、伝えることに課題**があると考えられます。学習の過程で、書くこと、伝えることが必要な場面設定をするなど授業改善を進めながら、今後もこの記述式の調査結果を注視していくことが必要です。

＝理科＝

各学年の平均正答率は、1学年 45.8%、2学年 40.1%、3学年 44.0%です。4層分析を見ると、1学年ではパターンⅠが示されており、A－B層の間に 22.7 ポイントの差が見られます。特に1学年では記述式の設問について、A－B 層の差は 30 ポイント近く、A－D層の差は 70 ポイント以上見られます。昨年度に引き続き、どの学年においても、**記述式の設問は、多くの生徒にとって課題**であることがわかります。4層分析の結果も参考にしながら、個人で考え、他者と考えを練り合い、より妥当な考えを表現する場面を設定するなど授業改善を進めることが大切です。

＝英語＝

思考・判断・表現において、各学年の平均正答率は1学年 90.3%、2学年 50.6%、3学年 62.6%となりました。また2、3学年の記述式の設問では平均正答率は2学年 42.0%、3学年 50.8%となっており、A－D層の差も80ポイントを超えております。特にD層においては2学年 1.5%、3学年 3.6%となっております。また2学年の大問4(1)、大問5(2)、3年の大問5の全設問において、A層とD層の間に約 90 ポイントの差が開いております。**英語でのコミュニケーションの場面において自分の考えや気持ちを書くことに課題**があると考えられます。

授業改善の手立てについて

＝国語＝

○資料を読み取り、読み取った情報を整理し、自分の意見に生かすことができるようにしたり、読み取ったことを自分の言葉で表現する活動を行ったりしていくこと。そのために習得した語彙や知識を、活用していくこと。

○「読むこと」の領域では、登場人物の発言を色分けして線を引いたり、登場人物の相関図を作ったりするなど、複数の情報を根拠として積み重ね、内容を解釈すること。また、読み取ったことを根拠に交流するなど、考えを広げたり深めたりしていくこと。

＝社会＝

〇社会的事象の意味や意義、事象の特色や事象間の関連、社会に見られる課題などについて、考察したことや選択・判断したことを論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりする等の学習を一層充実すること。

〇調査や諸資料から収集した情報を比較したり関連付けたりして、地域や時代の特色を考察し、その結果を報告書にまとめたり発表したりする活動や、現代社会に見られる課題について、様々な立場から根拠を明確にしてペアやグループで話し合ったり合意形成を図ったりすること。

＝数学＝

〇小学校から合わせた9年間という学びの系統性を生徒にも意識させて、既習の活用を実感させること。そのために、小学校の内容を含めて、基礎的・基本的な知識及び技能が新しい学習においてどのように役立つのか、また、発展したのかを考えたり表現したりする機会を設けること。

〇授業において「自分の考えを記述したり伝えたりする活動」や「生徒同士が考えを共有できる活動」を意図的、計画的実施できるよう単元をデザインし、数学的活動の充実を図ること。

＝理科＝

〇教科書の探Qシートや記述式のワークシートを活用し、探究の過程に沿って思考を文章で表現する学習場面を充実すること。その際、スモールステップで思考する手立てを講じ、個人で考えた文を課題や設問の内容と照らし合わせ、他者参照やペアやグループによる学習を通してお互いに練り合う学習活動を充実すること。

〇個に応じた指導の一層の充実を図るため、意図的、計画的な机間指導やGIGA端末の活用等の充実すること。

＝英語＝

〇日常的な話題について、できるだけ現実に近い場面を設定するとともに、生徒が必要とする情報を聞き取ったり、読み取ったりする活動の充実を図ること。その際、それぞれの場面において生徒が自分の置かれている状況を把握できているかどうかと、何を聞き取ればよいかを理解しているかどうかを確認すること。

○言語活動を行う際には、間違いを恐れずに英語で表現する授業づくりを心掛けるとことと合わせて、表現した内容がコミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて適切な内容になっているか、正確に書けているかを振り返る時間を確保すること。

〈授業改善のポイント〉

○教員が説明・解説する授業から、生徒がペアやグループ、全体などで考えを伝え合い、課題解決に向かう授業への転換を図ります。
○習得した知識・技能を活用して課題解決を図る場を設定することが大切です。その際、**生徒の「なんでそうなるのだろう」「どうしてなのだろう」という問いを大切にすること**が重要です。
○生徒自身が自らの学びを振り返って、次の学びに向かうことができるようにする指導の充実を図ることが大切です。**単元全体を見通して、振り返りをさせるタイミングや内容について計画的に位置付けること**が大切です。また、その振り返りを教員が確認し、次の授業に生かしていくことも有効です。